

3 專 門 科 目
(1) 看 護 学 科

専門科目（看護学科）

※令和4年度以降入学生科目

科目名	頁	科目名	頁
※看護学概論	1	※精神看護学概論	108
※基礎看護技術論Ⅰ（生活の援助技術）	3	※精神看護方法論Ⅰ	111
※基礎看護技術論Ⅱ（診療の援助技術）	7	※精神看護方法論Ⅱ	114
※看護倫理	10	※精神保健学実習	117
※看護理論	12	※精神看護学実習	119
※看護過程論	14	※在宅看護概論	121
※看護人間関係論	17	※在宅看護方法論Ⅰ	123
※フィジカルアセスメント論	19	※在宅看護方法論Ⅱ	125
※家族看護学	22	※訪問看護実習	128
※基礎看護学実習Ⅰ	24	※地域包括支援実習	130
※基礎看護学実習Ⅱ	26	※公衆衛生看護学概論	132
※小児看護学概論	28	※保健医療福祉政策論	134
※小児看護方法論	30	ケアシステム論	137
※小児看護学実習Ⅰ	33	※ケアシステム論	139
※小児看護学実習Ⅱ	35	※学校保健論	141
※母性看護学概論	37	※産業保健論	143
※妊娠分娩期看護方法論	40	※公衆衛生看護活動論	145
※産褥新生児期看護方法論	43	※公衆衛生看護活動演習	148
※母性看護学実習	47	※ヘルスコミュニケーション論	151
※助産プロフェッションナリズム	49	コミュニティ活動展開論	153
※リプロダクティブヘルスケア	51	公衆衛生看護管理論	156
※周産期生活支援学	53	地域看護診断実習	158
分娩期助産方法論	55	公衆衛生看護活動実習	160
産褥期助産方法論	59	看護教育学	162
※助産システム論	64	※看護管理学	164
地域母子保健	66	健康危機管理論	166
助産管理	68	総合看護学実習Ⅰ	168
※周産期生活支援実習	70	総合看護学実習Ⅱ	170
分娩期助産実習	72	※研究方法論Ⅰ	172
分娩産褥期助産実習	74	※研究方法論Ⅱ	174
※成人看護学概論	77	卒業研究	178
※急性期看護方法論Ⅰ	79	終末期看護論	180
※急性期看護方法論Ⅱ	82	国際看護論	182
※慢性看護方法論Ⅰ	87	※英語論文読解	184
※慢性看護方法論Ⅱ	89	欧文原著講読	186
※急性期看護学実習	91	※相互理解連携論	188
※慢性看護学実習	96	※ジェネラリズム看護論	190
※老年看護学概論	98	※まちづくり看護論	192
※老年看護方法論	100		
※高齢者生活探究実習	104		
※老年看護学実習	106		

授業科目	看護学概論	科目英語表記	Introduction to Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 沼澤 さとみ				
科目責任者氏名	沼澤 さとみ				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	看護の概念的定義、看護を構成する概念、看護の対象となる人間をどのように捉えるかなどについて学習し、看護とは何かについて理解を深める。また、保健・医療・福祉のシステムや、看護の法的側面や、国際看護や災害看護、看護の専門性、看護職のキャリアについても学習する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の概念的定義、看護を構成する主要な概念、看護の対象となる人間の理解、看護の法的側面について説明できる 2. 保健・医療・福祉のシステム、多職種連携・チーム医療における看護の役割について説明できる 3. 国際看護や災害看護の基本的な考え方を説明できる 4. 看護の専門性について理解し、看護職を目指す者としてのキャリアを考えることができる 				
成績評価方法	筆記試験 60%：目標1・2・3について評価 課題・授業中のワーク・授業への参加態度（ミニッツペーパー等）40%：目標1・2・3・4について評価				
成績評価基準	<p>目標 1・2・3・4 について、筆記試験、ワーク・課題・授業への参加状況（ミニッツペーパーも含む）等により以下の基準で判断する</p> <p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ガイダンス	基礎看護学の学習内容			沼澤
2	看護とはなにか	ナイチンゲールの看護について理解する	講義（ディスカッションやワークを含む）	課題に関する教科書・書籍や配付資料、ネット検索などをして収集した資料を読む	沼澤
3	看護とはなにか	ヘンダーソンの理論から看護を考える	講義（ディスカッションやワークを含む）	課題に関する教科書・書籍や配付資料、ネット検索などをして収集した資料を読む	沼澤
4	看護とはなにか	看護の定義（目的・対象・機能）を考える	講義（ディスカッションやワークを含む）	課題に関する教科書・書籍や配付資料、ネット検索などをして収集した資料を読む	沼澤
5	人間と健康	健康と病気 ・健康の定義	講義（ディスカッションやワークを含む）	課題に関する教科書・書籍や配付資料、ネット検索などをして収集した資料を読む	沼澤
6	人間の健康と環境	環境/社会環境の変化と健康問題	講義（ディスカッションやワークを含む）	課題に関する教科書・書籍や配付資料、ネット検索などをして収集した資料を読む	沼澤
7	看護の対象としての人間の多面的な理解	統合体としての人間 人間の欲求、成長・発達する人間	講義（ディスカッションやワークを含む）	課題に関する教科書・書籍や配付資料、ネット検索などをして収集した資料を読む	沼澤
8	看護の対象としての人間の多面的な理解 －自立－	人間の自立を考える	講義（ディスカッションやワークを含む）	課題に関する教科書・書籍や配付資料、ネット検索などをして収集した資料を読む	沼澤
9	看護実践の法的側面	看護の法的規定(保健師・助産師・看護師法) 看護実践の基盤となる看護過程	講義	課題に関する教科書・書籍や配付資料、ネット検索などをして収集した資料を読む	沼澤

10	看護活動の場と保健・医療・福祉における看護	保健・医療・福祉のシステム、医療の提供体制 地域包括ケアシステム	講義	課題に関する教科書・書籍や配付資料、ネット検索などをして収集した資料を読む	沼澤
11	多職種連携・チーム医療における看護の役割	チーム医療に期待される成果・看護の役割 様々なチーム医療と専門職	講義（ディスカッションやワークを含む）	課題に関する教科書・書籍や配付資料、ネット検索などをして収集した資料を読む	沼澤
12	国際社会と看護	看護の国際協力 ・国際看護	講義（ディスカッションやワークを含む）	課題に関する教科書・書籍や配付資料、ネット検索などをして収集した資料を読む	沼澤
13	災害と看護	災害医療 ・災害看護	講義（ディスカッションやワークを含む）	課題に関する教科書・書籍や配付資料、ネット検索などをして収集した資料を読む	沼澤
14	看護の専門性とキャリア	専門職とは何か 認定看護師・専門看護師制度	講義	課題に関する教科書・書籍や配付資料、ネット検索などをして収集した資料を読む	沼澤
15	まとめ	学習状況の確認(試験含む)と振り返り		これまでの授業内容の復習	沼澤

日付

6. 4.18 (木) 3
6. 4.25 (木) 3
6. 5. 2 (木) 3
6. 5. 9 (木) 3
6. 5.16 (木) 3
6. 5.23 (木) 3
6. 5.30 (木) 3
6. 6. 6 (木) 3
6. 6.13 (木) 3
6. 6.20 (木) 3
6. 6.27 (木) 3
6. 7. 4 (木) 3
6. 7.11 (木) 3
6. 7.18 (木) 3
6. 7.25 (木) 3

教科書	教科書 1. 志自岐康子他編：看護学概論,メディカ出版, 2022 2. V.ヘンダーソン著, 湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの,日本看護協会出版会 3. F.ナイチンゲール著, 小玉香津子・尾田葉子訳：看護覚え書-本当の看護とそうでない看護-,日本看護協会出版会
参考書	授業中に随時紹介します
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	看護学を学ぶ最初の授業です。看護のみならず人間や社会への興味・関心をもって授業に臨んでください。また、疑問をもち考える、調べる、議論する姿勢を身につけましょう。 初めて聞く言葉や分からない言葉、専門用語がたくさん出てくると思います。上記教科書だけでなく辞書や用語辞典、ウェブサイトでの検索なども活用してください。

授業科目	基礎看護技術論Ⅰ（生活の援助技術）		科目英語表記	Fundamental Nursing SkillsⅠ	
職名、担当教員氏名	准教授 半田 直子 准教授 高橋 直美 助教 齋藤 愛依 教授 沼澤さとみ				
科目責任者氏名	半田 直子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	3単位
授業概要	看護を実践するための日常生活援助の基本となる知識と技術を教授する。				
到達目標	1. 看護技術の目的・意義が説明できる。 2. 看護技術の根拠、原理原則、実施手順、留意事項を説明できる。 3. 看護技術を安全に安楽に基本に沿って実施できる。 4. 対象者の自立や個性を配慮しながら学生同士で実施できる。				
成績評価方法	定期試験 50% 到達目標 1, 2 課題の提出状況・内容・演習の実施状況 50% 到達目標 1, 2, 3, 4				
成績評価基準	到達目標 1～4 について、課題を以下のように評価する。 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的な説明できる/対象者に十分配慮して、基本的な知識をふまえ基本に沿って適切に実施ができる 優れている；根拠をふまえた説明できる/対象者に配慮して、基本的な知識をふまえ基本に沿って実施ができる 良好である；根拠をふまえてある程度説明できる/対象者に配慮して、基本的な知識をふまえ少しの助言があれば基本に沿って実施ができる 最低限の到達；根拠は乏しいが説明/対象者への配慮が不十分で、基本的な知識が理解できておらず助言があることで実施できる 目標に達成していない；根拠が説明できない/対象者への配慮がない、基本的な知識が理解できておらず助言があっても実施できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	授業ガイダンス 看護における技術とは ユニフォーム着用について	ガイダンス：講義概要、スケジュール、看護技術の学習 講義：看護技術とは、看護技術の特徴、構成要素 ユニフォームの着用の注意点	講義		半田
2	感染防止の技術Ⅰ①	感染の成立過程と感染経路、標準予防策、手指衛生の方法	講義	テキストの感染防止に関する内容を事前学習する	齋藤
3	感染防止の技術Ⅰ②	手指衛生と个人防护具の着脱	演習	演習記録を記載して期日までに提出	齋藤 半田 高橋 沼澤
4	ボディメカニクス・体位変換①	・姿勢の基礎知識 ・ボディメカニクス ・体位 ・ポジショニング	講義・演習	授業時に提示する。	高橋・齋藤
5	ボディメカニクス・体位変換②	体位変換 ・水平移動、上方移動 ・仰臥位⇔側臥位・長座位・端座位 ・端座位→立位	演習	授業時に提示する。	高橋・半田・齋藤
6	ボディメカニクス・体位変換③	体位変換 ・水平移動、上方移動 ・仰臥位⇔側臥位・長座位・端座位 ・端座位→立位 ポジショニング	演習	授業時に提示する。	高橋・半田・齋藤

7	環境を整える援助	・病床環境整備の意義 ・患者を取り巻く生活環境の構成因子 ・看護師が注視すべき病床環境整備	講義・GW	授業時に提示する。	高橋
8	バイタルサインの測定①	バイタルサインとは、血圧計・聴診器・体温計の使用方法、観察・アセスメント、バイタルサイン測定技術の実際	講義	バイタルサインの測定をしてフローシートに記載、チェックシートを見ないで血圧測定が手順通りにできるまで練習してくる	半田
9	バイタルサインの測定②	バイタルサインとは、血圧計・聴診器・体温計の使用方法、観察・アセスメント、バイタルサイン測定技術の実際	講義・演習	バイタルサインの測定をしてフローシートに記載、チェックシートを見ないで血圧測定が手順通りにできるまで練習してくる	半田・齋藤
10	褥法①	褥法の目的・効果・適応・禁忌・観察・アセスメント・褥法作成方法	講義		半田
11	バイタルサインの測定③	バイタルサイン測定の技術確認	演習	「演習の記録」を記載し期日までに提出	半田 齋藤 高橋 沼澤
12	褥法②	温沈・氷枕を作成し、温褥法・冷褥法を実施する	演習	「演習の記録」を記載し期日までに提出	半田 齋藤
13	看護記録 報告 バイタルサイン測定確認テスト	看護記録とは、報告とは	講義 小テスト	バイタルサイン測定の復習	半田
14	まとめ 1	事例を用いたロールプレイを通して看護技術の統合	演習		半田 齋藤 高橋
15	まとめ 1	事例を用いたロールプレイを通して看護技術の統合	演習	「演習の記録」を記載し期日までに提出	半田 齋藤 高橋
16	ベッドメイキング①	・病床を整える ・ベッドメイキングとは ・リネン類を整える ・ベッドメイキング	講義・演習	授業時に提示する。	高橋・半田・齋藤
17	ベッドメイキング②	・ベッドメイキング時の作業姿勢や作業域、ベッドメイキング方法、仕上がり状況等をチェックする。	演習	授業時に提示する。	高橋・半田・齋藤・沼澤
18	ベッドメイキング③	・ベッドメイキング時の作業姿勢や作業域、ベッドメイキング方法、仕上がり状況等をチェックする。	演習	授業時に提示する。	高橋・半田・齋藤・沼澤
19	清潔の援助①	清潔の目的・効果、清潔に関する観察、援助方法	講義	授業の際に指示します。	齋藤
20	清潔の援助②	足浴の実施①	演習		齋藤 半田 高橋 沼澤
21	清潔の援助③	足浴の実施②	演習	演習記録を記載して期日までに提出	齋藤 半田 高橋 沼澤
22	衣生活の援助①	病床での衣生活の援助の基礎知識、リネン交換・寝衣交換の方法	講義	次回衣生活の援助の演習までにリネン交換の手順書を作成する	齋藤
23	清潔の援助④	ベッド上での洗髪の実施①	演習		齋藤 半田 高橋 沼澤
24	清潔の援助⑤	ベッド上での洗髪の実施②	演習	演習記録を記載して期日までに提出	齋藤 半田 高橋 沼澤
25	衣生活の援助②	病床での寝衣交換	演習	演習記録を記載して期日までに提出	齋藤 半田 高橋 沼澤
26	清潔の援助⑥	清拭の実施①	演習		齋藤 半田 高橋 沼澤
27	清潔の援助⑦	清拭の実施②	演習	演習記録を記載して期日までに提出	齋藤 半田 高橋 沼澤
28	衣生活の援助③	臥床患者がいる状態でのリネ	演習	演習記録を記載して期日まで	齋藤 半田 高橋 沼澤

		ン交換		に提出	
29	まとめ2	事例を用いたロールプレイを通して看護技術の統合	演習	授業時に提示する。	高橋・半田・齋藤
30	まとめ2	・事例を用いたロールプレイを通して看護技術の統合	演習	授業時に提示する。	高橋・半田・齋藤
31	移動の援助①	・歩行 ・車いす ・ストレッチャー	講義・演習	授業時に提示する。	高橋
32	移動の援助②	移乗 ・座位⇄車いす ・ベッド⇄ストレッチャー 移送 ・車いす ・ストレッチャー ・ベッド	演習	授業時に提示する。	高橋・半田・齋藤
33	移動の援助③	移乗 ・座位⇄車いす ・ベッド⇄ストレッチャー 移送 ・車いす ・ストレッチャー ・ベッド	演習	授業時に提示する。	高橋・半田・齋藤
34	食事の援助①	講義：食事の目的、栄養とは、咀嚼と嚥下の基礎知識、観察・アセスメント、安全に食事するための体位と頸部の角度 体験学習：安全に飲み込むために頸部の角度を変えながら水分と固形物を嚥下して体験する	講義・体験学習		半田
35	食事の援助②	食事の援助の実際	演習		半田 齋藤
36	食事の援助③	食事の援助の実際	演習	「演習の記録」を記載し期日までに提出	半田 齋藤
37	排泄の援助技術①	排泄の目的と意義、排泄のアセスメント 排泄の援助における看護師の役割、援助の実際	講義	講義の際に指示します。	齋藤
38	排泄の援助技術②	便器やおむつを使用した、床上での排泄の援助①	演習		齋藤 半田 高橋 沼澤
39	排泄の援助技術③	便器やおむつを使用した、床上での排泄の援助②	演習	演習記録を記載して期日までに提出	齋藤 半田 高橋 沼澤
40	口腔ケア	講義：口腔機能と口腔ケアの意義・目的、観察、口腔を清潔にする方法、口腔ケアの物品 演習：口腔ケアの援助	講義・演習		半田
41	排泄の援助技術④	臥床患者の陰部洗浄の実施①	演習		齋藤 半田 高橋 沼澤
42	排泄の援助技術⑤	臥床患者の陰部洗浄の実施②	演習	演習記録を記載して期日までに提出	齋藤 半田 高橋 沼澤
43	まとめ3	事例を用いたロールプレイを通して看護技術の統合	GW 演習	事例に対して、実践する看護ケア・技術を考えてくる。必要物品や手順を考え、事前にトレーニングして第44・45回の演習に臨むこと	半田 齋藤 高橋
44	まとめ3	事例を用いたロールプレイを通して看護技術の統合	演習		半田 齋藤 高橋
45	まとめ3	事例を用いたロールプレイを通して看護技術の統合	演習	「演習の記録」を記載し期日までに提出	半田 齋藤 高橋

日付

6.9.25 (水) 5
 6.9.27 (金) 3・4
 6.10. 2 (水) 5
 6.10. 4 (金) 3・4
 6.10. 9 (水) 5
 6.10.11 (金) 3・4
 6.10.16 (水) 5
 6.10.18 (金) 3・4
 6.10.23 (水) 5
 6.10.25 (金) 3・4
 6.10.30 (水) 5
 6.11. 1 (金) 3・4
 6.11. 6 (水) 5
 6.11. 8 (金) 3・4
 6.11.13 (水) 5
 6.11.15 (金) 3・4
 6.11.20 (水) 5
 6.11.22 (金) 3・4
 6.12. 4 (水) 5
 6.12. 6 (金) 3・4
 6.12.11 (水) 5
 6.12.13 (金) 3・4
 6.12.18 (水) 5
 6.12.20 (金) 3・4
 6.12.25 (水) 5
 7.1. 7 (火) 3・4
 7.1. 8 (水) 5
 7.1.10 (金) 3・4
 7.1.15 (水) 5
 7.1.24 (金) 3・4

教科書	茂野香おる, 他: 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院. 任和子, 他: 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院.
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	半田直子: 研究室3 nhanda@yashts.ac.jp 高橋直美: 研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp 齋藤愛依: 第2共同研究室 asaio@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	基礎看護技術論Ⅱ（診療の援助技術）	科目英語表記	Fundamental Nursing Skills II		
職名、担当教員氏名	准教授 高橋 直美 准教授 半田 直子 助教 齋藤 愛依				
科目責任者氏名	高橋 直美				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	療養している対象への治療や検査に伴う基礎的な看護技術である与薬の技術、創傷管理技術、検査に伴う援助技術、呼吸を整える技術、排泄援助技術等を学習する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各看護技術の目的や意義を説明できる 2. 各看護技術の根拠、原理原則、実施手順や留意点を説明できる 3. 各看護技術を説明し同意を得たうえで、学生またはモデルに実施できる 4. 各看護技術を安全や事故防止に配慮し、学生またはモデルに実施できる 5. 各看護技術を安楽に配慮し、学生またはモデルに実施できる 				
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験：60％ 筆記試験によって到達目標1・2の達成度を評価する。 2. 各単元毎の参加度および課題提出状況・記載内容：40％ 記載内容から到達目標3・4・5の達成度を評価する。 				
成績評価基準	<p>定期試験および授業毎の課題により到達目標の到達度を総合的に評価する。 授業毎の課題は、記載内容等から以下のように評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に優れている：適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる ・優れている：根拠をふまえて、論理的に説明できる ・良好である：根拠を用いて、ある程度論理的に説明できる ・最低限の到達：根拠は乏しいが、ある程度論理的に説明できる ・目標に到達していない：説明できない 				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	授業ガイダンス バイタルサインの復習	・授業ガイダンス ・バイタルサインの復習	講義・演習・GW	【事前】シラバスを一読し、授業のイメージを持って参加する	高橋 齋藤
2	看護技術と医療安全	・医療安全を学習する重要性 ・看護技術における事故防止の考え方	講義・演習	【事前】単元に該当するテキストの箇所を一読してくる。 その他、授業毎に示す	高橋 齋藤
3	感染防止の技術Ⅱ ① －滅菌物の取り扱い・無菌操作－	・滅菌・消毒・洗浄の基礎知識と対策 ・無菌操作の基礎知識と実際	講義	〃	齋藤
4	感染防止の技術Ⅱ ② －滅菌物の取り扱い・無菌操作－	・滅菌手袋の着脱 ・滅菌物の取扱いと無菌操作	演習	〃	齋藤 高橋 半田
5	感染防止の技術Ⅱ ③ －滅菌物の取り扱い・無菌操作－	・創傷処置における無菌操作（滅菌ガーゼ・消毒綿球の受け渡し）	演習	〃	齋藤 高橋 半田
6	感染防止の技術Ⅱ ④ －滅菌物の取り扱い・無菌操作－	・創傷処置における無菌操作（滅菌ガーゼ・消毒綿球の受け渡し）	演習	〃	齋藤 高橋 半田
7	創傷管理技術①	・創傷とその治癒過程 ・創傷処置の基礎知識 ・創洗浄と創保護	講義	〃	半田

8	創傷管理技術②	・テープの貼り方・剥がし方 ・創洗淨 ・包帯法（巻軸帯の巻き方・三角巾を用いた包帯法）の実施	演習	〃	半田 高橋 齋藤
9	呼吸を整える技術① －酸素療法・吸引－	・酸素療法目的・効果、観察、酸素吸入の種類と実施方法	講義	〃	半田
10	呼吸を整える技術② －酸素療法・吸引－	・吸引の目的・効果、適応、観察、実施方法	講義	〃	半田
11	呼吸を整える技術③ －酸素療法・吸引－	・中央配管による酸素吸入の準備、酸素ポンベの取り扱いの実施	演習	〃	半田 高橋 齋藤
12	呼吸を整える技術④ －酸素療法・吸引－	・シミュレータ人形を使用した気管内吸引・口腔・鼻腔吸引	演習	〃	半田 高橋 齋藤
13	与薬の技術① －注射・持続点滴－	・薬剤の基礎知識 ・与薬の技術における看護師の役割 ・注射の基礎知識	講義	〃	高橋
14	与薬の技術② －注射・持続点滴－	・学生同士での注射部位の選定	演習	〃	高橋 半田 齋藤
15	与薬の技術③ －注射－	・学生が看護師役・患者役となり、筋肉内注射を実施する（モデル使用）	演習	〃	高橋 半田 齋藤
16	与薬の技術④ －注射－	・学生が看護師役・患者役となり、筋肉内注射を実施する（モデル使用）。	演習	〃	高橋 半田 齋藤
17	与薬の技術⑤ －注射・持続点滴－	・点滴静脈内注射の基礎知識 ・点滴静脈内注射の準備、滴下速度の調整	講義・演習	〃	高橋 半田 齋藤
18	与薬の技術⑥ －注射・持続点滴－	・点滴静脈内注射の準備 ・滴下速度の調整	演習	〃	高橋 半田 齋藤
19	与薬の技術－輸血－ 検査に伴う援助技術① －検査・静脈血採血－	・検査時の看護 ・静脈血採血の方法	講義	〃	高橋
20	検査に伴う援助技術② －検査・静脈血採血－	・採血針などの取り扱い ・静脈の怒張の方法と走行の確認	演習	〃	高橋 齋藤
21	検査に伴う援助技術③ －静脈血採血－	・採血に用いる器具の取扱いと無菌操作 ・血液検体の取扱い ・針刺し事故予防の方法 ・シミュレータを用いた採血練習	演習	〃	高橋 半田 齋藤
22	検査に伴う援助技術④ －静脈血採血－	・採血に用いる器具の取扱いと無菌操作 ・血液検体の取扱い ・針刺し事故予防の方法 ・シミュレータを用いた採血練習	演習	〃	高橋 半田 齋藤
23	検査に伴う援助技術⑤ －静脈血採血－	・学生が看護師役・患者役となり、静脈血採血を実施する（モデル使用）。	演習	〃	高橋 半田 齋藤
24	検査に伴う援助技術⑥ －静脈血採血－	・学生が看護師役・患者役となり、静脈血採血を実施する（モデル使用）。	演習	〃	高橋 半田 齋藤

25	排泄援助技術① －洗腸－	・排便困難に対する援助方法	講義	〃	齋藤
26	排泄援助技術② －洗腸－	・学生が看護師役・患者役となり、グリセリン洗腸を実施する（モデル使用）	演習	〃	齋藤 高橋 半田
27	排泄援助技術③ －導尿－	・排尿障害に対する援助方法	講義	〃	齋藤
28	排泄援助技術④ －導尿－	・学生が看護師役・患者役となり、一時的導尿を実施する（モデル使用）	演習	〃	齋藤 高橋 半田
29	看護技術論Ⅱまとめ	・事例による技術演習	GW・演習	〃	高橋 齋藤
30	看護技術論Ⅱまとめ	・事例による技術演習	GW・演習	〃	高橋 齋藤

日付

6.4.18 (木) 4・5
6.4.25 (木) 4・5
6.5. 2 (木) 4・5
6.5. 9 (木) 4・5
6.5.16 (木) 4・5
6.5.23 (木) 4・5
6.5.30 (木) 4・5
6.6. 6 (木) 4・5
6.6.13 (木) 4・5
6.6.20 (木) 3・4
6.6.27 (木) 3・4
6.7. 4 (木) 3・4
6.7.11 (木) 3・4
6.7.18 (木) 3・4
6.7.25 (木) 3・4

教科書	任和子他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。
参考書	茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ，医学書院（基礎看護技術論Ⅰで使用）
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1／看護2／看護3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	高橋：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp 半田：研究室3 nhanda@yachts.ac.jp 齋藤：第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床で実践頻度の高い看護技術を取り上げています。安全かつ確実な実施に向けて常に根拠を考え、学生同士の他、モデルや視聴覚教材なども活用して繰り返し練習し、知識・技術の習得を目指しましょう。 ・実技演習のほとんどは学生同士で行います。欠席や遅刻をしないよう体調を整えてください。 ・授業ごとに学習内容や方法、時間、服装等についての提示がありますので、注意してください。

授業科目	看護倫理	科目英語表記	Nursing Ethics		
職名、担当教員氏名	教授 沼澤 さとみ				
科目責任者氏名	沼澤 さとみ				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	倫理や看護倫理に関する概念、倫理原則など、看護倫理の基礎知識を学習する。また、看護実践の場で生じる倫理的課題の解決についてディスカッションなどを行う。これらの学習から自己の倫理的な思考をする力をつける。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理の基本的知識と関連する重要概念を説明できる。 2. 看護職が直面する倫理的問題についてアプローチする方法を用いて分析することができる。 3. 倫理的問題と看護実践における倫理の重要性についての自分の意見を述べることができる。 				
成績評価方法	授業中のワーク・ディスカッション等の記録、ミニツッペーパー等 70%：目標1、目標2を評価 レポート 30%：目標3を評価				
成績評価基準	<p>目標1～3について以下の基準で評価する</p> <p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる</p> <p>優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる</p> <p>良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる</p> <p>最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる</p> <p>目標に到達していない；説明できない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	倫理の基礎	倫理とは何か 看護倫理を学ぶ意義 生命倫理と看護倫理	講義・ディスカッション・ワーク	課題に関する教科書・参考図書や配付資料、インターネット情報などを読む。	沼澤
2	専門職の責任と看護倫理	看護職の倫理的責任 看護職の法的責任	講義・ディスカッション・ワーク	課題に関する教科書・参考図書や配付資料、インターネット情報などを読む。	沼澤
3	倫理を理解するための重要概念	人権・患者の権利 アドボカシー	講義・ディスカッション・ワーク	課題に関する教科書・参考図書や配付資料、インターネット情報などを読む。	沼澤
4	倫理を理解するための重要概念	倫理原則、倫理綱領	講義・ディスカッション・ワーク	課題に関する教科書・参考図書や配付資料、インターネット情報などを読む。	沼澤
5	倫理を理解するための重要概念	パターンリズムとインフォームドコンセント	自講義・ディスカッション・ワーク	課題に関する教科書・参考図書や配付資料、インターネット情報などを読む。	沼澤
6	倫理を理解するための重要概念	守秘義務と個人情報・プライバシーの保護	講義・ディスカッション・ワーク	課題に関する教科書・参考図書や配付資料、インターネット情報などを読む。	沼澤
7	看護実践で体験する倫理的問題を解決する方法	倫理的課題の事例検討	講義・ディスカッション・ワーク	課題に関する教科書・参考図書や配付資料、インターネット情報などを読む。	沼澤
8	まとめ	知識の確認 自分の考えをまとめる			沼澤
日付					
6.11.14 (木) 2					
6.12. 5 (木) 2					
6.12.12 (木) 2					
6.12.19 (木) 2					
6.12.26 (木) 2					

7.1.9 (木) 2
 7.1.16 (木) 2
 7.1.23 (木) 2

教科書	志自岐康子他編：看護学概論, 第6章 看護における倫理と価値, メディカ出版 (前期の看護学概論テキスト)
参考書	サラT. フライ他: 看護実践の倫理第3版, 日本看護協会, 2010 図書館などで倫理に関する図書を自分で探して読んでください。その他、授業の中で適宜紹介します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	倫理は知識として身につけることは必須であるが、そのうえで常に人間としてどうあるべきか考え続けるものだと思います。

授業科目	看護理論	科目英語表記	Nursing Theory		
職名、担当教員氏名	教授 沼澤さとみ				
科目責任者氏名	沼澤さとみ				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	看護実践の基盤となる看護理論の意義を学習する。また、代表的な看護理論を取り上げ、理論を構成する主要概念などを学習する。				
到達目標	1. 看護理論の意義について説明できる。 2. 主な看護理論の主要概念について説明できる。 3. 主な看護理論の実践への応用について事例をもとに説明できる。				
成績評価方法	筆記試験 60%：目標1・2を評価 授業中のワーク、レポート等 40%：目標2・3を評価				
成績評価基準	目標1～3について、筆記試験、ワーク、レポートとを対象に以下のように評価する 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に具体的に説明できる。 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	看護理論とは 主な看護理論と特徴 ①	看護理論の意義、理論の構成要素（前提、概念、命題）、理論の分類、理論の変遷と発達 ナイチンゲール「看護覚え書き」	講義・ディスカッション・ワーク	学習内容に関する教科書・参考図書や配付資料を読む	沼澤
2	主な看護理論と特徴 ②③	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 トラベルビー「人間対人間の看護」	講義・ディスカッション・ワーク	学習内容に関する教科書・参考図書や配付資料を読む	沼澤
3	主な看護理論と特徴 ④	ロイ「適応理論」	講義・ディスカッション・ワーク	学習内容に関する教科書・参考図書や配付資料を読む	沼澤
4	主な看護理論と特徴 ⑤	オレム「セルフケア不足理論」	講義・ディスカッション・ワーク	学習内容に関する教科書・参考図書や配付資料を読む	沼澤
5	主な看護理論と特徴 ⑥	コルカバ「コンフォート理論」	講義	学習内容に関する教科書・参考図書や配付資料を読む	非常勤講師
6	主な看護理論と特徴 ⑦	ケア/ケアリング ワトソン「ヒューマンケアリングの科学」	講義・ディスカッション・ワーク	学習内容に関する教科書・参考図書や配付資料を読む	沼澤
7	主な看護理論と特徴 ⑧	レイニンガー「文化ケア」	講義・ディスカッション・ワーク	学習内容に関する教科書・参考図書や配付資料を読む	沼澤
8	まとめ	知識の確認 理論をもとに、看護についての自分の考えを述べる			沼澤
日付					
6.9.26 (木) 2					
6.10.3 (木) 2					
6.10.10 (木) 2					
6.10.17 (木) 2					
6.10.24 (木) 2					

6.10.31 (木) 2
 6.11.7 (木) 1
 6.11.19 (木) 5

教科書	<p>1. 志自岐康子他編：看護学概論,メディカ出版, 2022 (前期の看護学概論テキスト)</p> <p>2. V.ヘンダーソン著, 湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの,日本看護協会出版会 (前期の看護学概論テキスト)</p> <p>3. F.ナイチンゲール著, 小玉香津子・尾田葉子訳：看護覚え書-本当の看護とそうでない看護-,日本看護協会出版会 (前期の看護学概論テキスト)</p> <p>授業内容をよく理解するためには、以下の参考図書を活用するか、各理論の単行本を読んでください。</p>
参考書	<p>1. 筒井真優美編：看護理論家の業績と理論評価 第2版, 医学書院</p> <p>2. 筒井真優美編：看護理論 看護理論21の理解と実践への応用 改訂第3版, 南江堂</p> <p>3. ミルトン・メイヤロフ著, 田村真, 向野宣之訳：ケアの本質 生きることの意味, ゆみる出版</p>
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	看護過程論	科目英語表記	Nursing Process		
職名、担当教員氏名	准教授 高橋 直美 准教授 半田 直子 助教 齋藤 愛依				
科目責任者氏名	高橋 直美				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	看護実践を科学的に行うための問題解決過程を基盤に看護過程を学習する。看護の対象者を全人的に理解し（アセスメント）、健康上の問題を明らかにした上で（看護診断）適切な看護実践につなげていく為の計画の立案（看護計画立案）、実施、評価までの看護過程の各段階を個人およびグループメンバーと学びを深めながら科学的および論理的な思考の習得を目指す。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践における看護過程の意義および目的が理解できる。 2. 問題解決過程およびクリティカルシンキングが理解できる。 3. 看護過程の構成要素が説明できる。 4. 看護過程の学びを通して、科学的および論理的な思考能力を高めることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事例から情報を収集し整理することができる。 2) 情報を解釈・分析し、関連図を示すことで思考過程を可視化することができる。 3) 情報の解釈・分析・関連図を基に看護問題を明確化（看護診断）することができる。 4) 看護問題（看護診断）に優先順位をつけ、その根拠を示すことができる。 5) 看護問題（看護診断）に対する目標（期待される成果）を挙げ、看護計画を立案しその根拠を示すことができる。 6) 看護計画の実施・評価の視点を理解することができる。 				
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験：40％ 筆記試験によって到達目標1～4の達成度を評価する。 2. 授業毎のミニツツペーパー（Forms）および課題：60％ 記載内容から到達目標4の達成度を評価する。 				
成績評価基準	定期試験および授業毎の課題により到達目標の到達度を総合的に評価する。 授業毎の課題は、記載内容等から以下のように評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・特に優れている：適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる ・優れている：根拠をふまえて、論理的に説明できる ・良好である：根拠を用いて、ある程度論理的に説明できる ・最低限の到達：根拠は乏しいが、ある程度論理的に説明できる ・目標に到達していない：説明できない 				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	看護過程の概要①	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程とは ・基盤となる考え方 ・看護過程の構成要素 ・アセスメントとは 	講義・個人ワーク	授業毎に随時指示	高橋 齋藤
2	看護過程の概要②	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の解釈・分析 ・全体像 ・関連図 	講義・個人ワーク	〃	高橋 齋藤
3	事例による看護過程①	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント 情報の整理（分類） 	講義・個人ワーク	〃	高橋 齋藤
4	事例による看護過程②	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント 情報の解釈・分析 	講義・個人ワーク	〃	高橋 齋藤
5	事例による看護過程③	<ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルシンキング ・関連図 ・看護問題 	講義・個人ワーク	〃	高橋 齋藤
6	事例による看護過程④	<ul style="list-style-type: none"> ・看護問題（看護診断） 優先度とその根拠 ・全体像 	講義・個人ワーク	〃	高橋 齋藤
7	事例による看護過程の展開①	<ul style="list-style-type: none"> ・看護計画 ・新たな事例紹介 	講義・個人ワーク	〃	高橋 齋藤

8	事例による看護過程の展開②	・アセスメント 情報の整理	講義・個人ワーク・GW	〃	高橋 齋藤
9	事例による看護過程の展開③	・アセスメント 情報の解釈・分析	講義・個人ワーク・GW	〃	高橋 半田 齋藤
10	事例による看護過程の展開④	・関連図	講義・個人ワーク・GW	〃	高橋 半田 齋藤
11	事例による看護過程の展開⑤	・看護問題の優先度 ・全体像	講義・個人ワーク・GW	〃	高橋 半田 齋藤
12	事例による看護過程の展開⑥	・看護問題の明確化	講義・個人ワーク・GW	〃	高橋 半田 齋藤
13	事例による看護過程の展開⑦	・看護計画の立案 目標/計画/根拠	講義・個人ワーク・GW	〃	高橋 半田 齋藤
14	事例による看護過程の展開⑧	・経過記録 SOAP	講義・個人ワーク・GW	〃	高橋 半田 齋藤
15	事例による看護過程の展開⑨ まとめ	・実施・評価 ・共同問題と協働問題 ・まとめ	講義・演習・GW	〃	高橋 齋藤

日付

6. 4.10 (水) 3
6. 4.17 (水) 3
6. 4.24 (水) 3
6. 5. 1 (水) 3
6. 5. 8 (水) 3
6. 5.15 (水) 3
6. 5.22 (水) 3
6. 5.29 (水) 3
6. 6. 5 (水) 3
6. 6.12 (水) 3
6. 6.19 (水) 3
6. 6.26 (水) 3
6. 7. 3 (水) 3
6. 7.10 (水) 3
6. 7.25 (木) 2

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・阿部俊子他監修：病態関連図が書ける観察アセスメントガイド,照林社. ・茂野香おる他著：系統看護学講座基礎看護技術Ⅰ,医学書院.(基礎看護技術論Ⅰで使用) ・今日の治療薬-解説と便覧- (最新版),南江堂. (臨床薬理学で使用) ・看護のための臨床病態学,南山堂. (成人老年疾病論で使用)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・永田明,石川ふみよ監修：看護が見えるvol.4 看護過程の展開,メディックメディア ・NANDA-I看護診断 定義と分類2021-2023, 医学書院. <p>※その他、随時紹介します。</p>
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	

実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	高橋：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp 半田：研究室3 nhanda@yachts.ac.jp 齋藤：第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・講義と個人ワークおよびグループワーク（GW）を併用するため、欠席をしないようにしましょう。 ・既習科目で得た知識を復習し、事例患者が抱える疾病の病態・治療・検査・症状等に関する理解を深めながら授業毎の課題に取り組んだ上で授業に臨むようにしてください。

授業科目	看護人間関係論	科目英語表記	Human Relationship for Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 沼澤さとみ 准教授 半田 直子 准教授 高橋 直美 助教 齋藤 愛依				
科目責任者氏名	沼澤さとみ				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	人間関係構築のために必要な知識やコミュニケーションスキル、基本となる要素について演習を交えて教授する。これにより共感的態度や人間の尊厳について理解できるようにする。さらに、学生が自己洞察することの重要性について考えられるように教授する。				
到達目標	1. コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性が説明できる。 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、ミスコミュニケーションを避け、適切なメッセージを伝える方法が説明できる。 3. 自己のコミュニケーションをリフレクションし、記述することができる。 4. コミュニケーションの基本的な方法を活用し、模擬患者や学生同士で実践できる。 5. 人間関係を構築するためのコミュニケーションとは何かを記述することができる。				
成績評価方法	記録物と授業態度60% 到達目標1, 2, 3, 4, 5を評価 課題レポート40% 到達目標1, 2, 3, 4, 5を評価				
成績評価基準	到達目標1, 2, 3, 4, 5について記録物と授業態度、課題レポートを以下のように評価する。 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	授業ガイダンス コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程	<ul style="list-style-type: none"> 授業オリエンテーション コミュニケーションとは 看護・医療におけるコミュニケーション コミュニケーションの手段 構成要素と成立過程 ミスコミュニケーション 	講義	課題等は授業ごとに随時指示します。	半田
2	関係構築のためのコミュニケーションの基本	接近的コミュニケーションの基本 接近的行動と非接近的行動	講義	課題等は授業ごとに随時指示します。	半田
3	効果的なコミュニケーションの実際	傾聴、情報収集、説明の技術 アサーティブネス	講義	課題等は授業ごとに随時指示します。	齋藤
4	非言語的コミュニケーション	看護ケアにおけるコミュニケーション	講義	課題等は授業ごとに随時指示します。	高橋
5	医療場面におけるコミュニケーション①	模擬患者との医療面接①	演習	課題等は授業ごとに随時指示します。	井上（スポット） 沼澤
6	医療場面におけるコミュニケーション②	模擬患者との医療面接②	演習	課題等は授業ごとに随時指示します。	井上（スポット） 沼澤
7	医療現場におけるコミュニケーション③	<ul style="list-style-type: none"> プロセスレコード 学生同士のロールプレイによる医療面接① 	講義・演習	課題等は授業ごとに随時指示します。	齋藤 沼澤
8	医療現場におけるコミュニケーション④ まとめ	学生同士のロールプレイによる医療面接② リフレクション まとめ	講義・演習	課題等は授業ごとに随時指示します。	齋藤 沼澤

日付
6.5. 8 (水) 4
6.5.15 (水) 4
6.5.22 (水) 4
6.5.29 (水) 4
6.6. 5 (水) 4・5
6.6.12 (水) 4・5

教科書	茂野香おる著者代表：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ，医学書院.
参考書	石川ひろの他；系統看護学講座 基礎分野 人間関係論，医学書院.
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護2/看護3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤 さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp 半田 直子：研究室3 nhanda@yachts.ac.jp 高橋 直美：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp 齋藤 愛依：第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	フィジカルアセスメント論	科目英語表記	Physical Assessment		
職名、担当教員氏名	准教授 半田 直子 助教 齋藤 愛依 准教授 高橋 直美				
科目責任者氏名	半田 直子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	対象者がよりよい生活を目指し、健康回復や健康維持・増進のために必要な身体的・心理社会的な健康状態のアセスメントができるよう基本的知識と技術を教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの概念について説明できる。 2. 日常生活行動の視点から対象者の状態や状況を把握するためのヘルスインタビュー（問診）が実施できる。 3. 対象者の身体的面を把握するため基本となるフィジカルイグザミネーション（視診・触診・打診・聴診）の方法が説明できる。 4. 対象者の身体的面を把握するため基本となるフィジカルイグザミネーション（視診・触診・打診・聴診）が実施できる。 5. フィジカルアセスメントを活用して観察・情報収集し、記録ができる。 6. 学生同士で実施する際、対象者に礼接した態度や配慮で接することができる。 				
成績評価方法	定期試験50%：到達目標 1, 3, 6 演習課題・レポート50%：到達目標 1, 2, 3, 4, 5				
成績評価基準	<p>到達目標 1～6 について、課題を以下のように評価する。</p> <p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的な説明できる/対象者に十分配慮して、基本的な知識をふまえ基本に沿って適切に実施ができる</p> <p>優れている；根拠をふまえた説明できる/対象者に配慮して、基本的な知識をふまえ基本に沿って実施ができる</p> <p>良好である；根拠をふまえてある程度説明できる/対象者に配慮して、基本的な知識をふまえ少しの助言があれば基本に沿って実施ができる</p> <p>最低限の到達；根拠は乏しいが説明/対象者への配慮が不十分で、基本的な知識が理解できておらず助言があることで実施できる</p> <p>目標に達成していない；根拠が説明できない/対象者への配慮がない、基本的な知識が理解できておらず助言があっても実施できない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	授業ガイダンス フィジカルアセスメントの概要	講義：フィジカルアセスメントの目的と意義、ヘルスインタビュー（問診）・フィジカルアセスメントの目的と基本技術（視診・触診・打診・聴診）、報告	講義・演習	・事前学習:「生体形態学」「生体機能学Ⅰ」「病理学」「成人老年疾病論Ⅰ・Ⅱ」の復習 ・各器官の主要な疾患の病態・生理の復習 ・事後学習：事前学習と講義や演習で学習したことをレポートにまとめる。	半田
2	バイタルサインの測定 (2)	講義：バイタルサインのアセスメント ・シミュレータ人形「フィジコ」の使用に関するオリエンテーション	講義	〃	半田 齋藤
3	腹部のアセスメント	講義：腹部の形態と機能、アセスメント方法、アセスメント技術、DVD視聴	講義	〃	半田
4	腹部のアセスメント	演習 ・シミュレータ人形を活用したヘルスアセスメント ・2～3人1組で実技を実施する	演習	〃	半田 齋藤
5	呼吸器系のアセスメント	講義：呼吸器系の形態と機能、アセスメント方法、アセスメント技術、DVD視聴	講義	〃	半田

6	呼吸器系のアセスメント	演習 ・シミュレータ人形を活用したヘルスアセスメント ・2～3人1組で実技を実施する	演習	〃	半田 齋藤
7	循環器系のアセスメント (1)	講義：循環器系の形態と機能、アセスメント方法、アセスメント技術、DVD視聴	講義	〃	半田
8	循環器系のアセスメント (1)	演習 ・シミュレータ人形を活用したヘルスアセスメント ・2～3人1組で実技を実施する	演習	〃	半田 齋藤
9	循環器系のアセスメント (2)	講義：心電図 演習：シミュレータ人形を活用したヘルスアセスメント、心電図の測定/動脈の血流測定	講義・演習	〃	半田 齋藤
10	筋・骨格系のアセスメント	講義：ADL・歩行・関節可動域・筋力のアセスメント方法 演習：関節可動域・筋力の測定	講義・演習	〃	高橋 齋藤
11	栄養のアセスメント	講義：栄養のアセスメント方法、アセスメント技術 演習：皮下脂肪厚の測定	講義・演習	〃	半田
12	神経系のアセスメント 感覚器(眼・耳・鼻・口)のアセスメント	講義：神経系・感覚器の形態と機能、アセスメント方法、アセスメント技術	講義	〃	齋藤 半田
13	神経系のアセスメント 感覚器(眼・耳・鼻・口)のアセスメント	演習：振動覚・運動覚・瞳孔反射・腱反射等の観察 演習：問診2(まとめ)	演習	〃	齋藤 半田
14	事例を用いたフィジカルアセスメント・まとめ	アセスメントとフィジカルイグザミネーション統合演習	GW・演習	〃	半田 齋藤
15	事例を用いたフィジカルアセスメント・まとめ	アセスメントとフィジカルイグザミネーション統合演習	GW・演習	〃	半田 齋藤

日付

6.5.17(金)4・5
6.5.24(金)4・5
6.5.31(金)4・5
6.6.14(金)4・5
6.6.21(金)4
6.6.28(金)4
6.7.5(金)4
6.7.12(金)4・5
6.7.19(金)4・5

教科書	茂野香おる：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院。(基礎看護技術論Ⅰで使用したもの) 教科書以外に授業項目に関係する資料を配布
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3
先修条件指定科目	非該当

先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	半田：研究室3 nhanda@yachts.ac.jp 齋藤：第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp 高橋：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	家族看護学	科目英語表記	Family Nursing		
職名、担当教員氏名	助教 齋藤 愛依				
科目責任者氏名	齋藤 愛依				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	家族看護における家族の概念と理論、健康問題を抱える家族のアセスメント、看護の援助方法を教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の概念および家族看護の概念を説明できる。 2. 家族の特徴や家族の発達段階が説明できる。 3. 家族看護における看護者の役割を説明できる。 4. 家族の発達段階に応じた健康問題と看護の必要性が説明できる。 5. 家族を支援する基本姿勢を説明できる。 				
成績評価方法	定期試験40%	到達目標1.2.3.5			
	課題レポート30%	到達目標2.4.5			
	講義に関する課題の評価30%	到達目標1.2.3.4.5			
成績評価基準	<p>到達目標1～5について、定期試験、レポート、講義に関する課題を以下のように評価する。</p> <p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	授業ガイダンス 家族看護学とは 家族の特徴、家族看護の対象	家族看護学の特徴と理念、家族の形態と機能、家族構造、現代の家族の特徴、家族の生活と健康、家族のセルフケア機能	講義	講義後に課題を出します。期限まで提出してください。	齋藤
2	家族の「自明性」の相対化	家族について「当たり前」と思われていることに距離をとり、家族の曖昧性・社会的規定性を理解する。	講義	講義終了後にFormsにて回答する。	(スポット) 安藤
3	家族看護の諸理論	家族を理解するための理論 家族周期と発達課題、家族システム理論、家族ストレス対処理論	講義	講義終了後にFormsにて回答する。 課題レポートに関する説明を行います。それに基づき、課題レポートを作成し、期限までに提出する。	齋藤
4	家族看護アセスメント 家族看護の援助方法①	家族の看護に必要な情報収集とアセスメント 家族看護における看護者の役割、患者・家族を援助する際の基本姿勢	講義	講義終了後にFormsにて回答する。	齋藤
5	事例から学ぶ家族看護過程①	事例を通して、家族看護に必要な情報収集やアセスメントについて考える。	講義	講義終了後にFormsにて回答する。 講義の際に配布した記録用紙を記載し、期限までに提出する。	齋藤

6	事例から学ぶ家族看護過程② 家族看護の援助方法②	事例を通して、アセスメント、看護問題について考える。 家族看護の実践と患者・家族への意思決定支援について。	講義	講義終了後にFormsにて回答する。	齋藤
7	事例から学ぶ家族看護①	患者・家族と看護師の関わりの場面（事例）を通して、患者・家族・看護師それぞれの思いや看護師としてどのようなかわりが求められるのかを考える。	講義	講義終了後にFormsにて回答する。 講義の際に配布した記録用紙を記載し、期限までに提出する。	齋藤
8	事例から学ぶ家族看護② まとめ	患者・家族と看護師の関わりの場面（事例）を通して、患者・家族・看護師それぞれの思いや看護師としてどのようなかわりが求められるのかを考える。 家族看護学のまとめ。	講義	講義終了後にFormsにて回答する。 講義の際に配布した記録用紙を記載し、期限までに提出する。	齋藤

日付

6.9.30 (月) 5
6.10. 7 (月) 5
6.10.21 (月) 5
6.10.28 (月) 5
6.11.11 (月) 5
6.11.18 (月) 5
6.12. 2 (月) 5
6.12. 9 (月) 5

教科書	上別府圭子著 系統看護学講座 家族看護学, 医学書院
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	齋藤愛依：第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	基礎看護学実習Ⅰ	科目英語表記	Fundamental Nursing PracticeⅠ		
職名、担当教員氏名	准教授 高橋 直美 教授 沼澤さとみ 准教授 半田 直子 助教 齋藤 愛依				
科目責任者氏名	高橋 直美				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	病院で療養生活を送る人の生活とその人が受けている看護や他の専門職から受けている支援を見学することで、看護が果たすべき役割について理解を深める。また、本実習では、看護職者に求められる基本的な態度を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の機能や特徴、果たす役割が説明できる。 2. 病院で療養生活を送る人の入院生活の実際から療養環境について説明できる。 3. 病院で療養生活を送る人にとって看護はどのような役割を果たしているのか説明できる。 4. 看護師はどのような専門職と連携を図りながら支援につなげているか説明できる。 5. 療養生活を送る人と信頼関係を築くためのコミュニケーションのあり方を考察できる。 6. 看護職者として求められる基本的な姿勢を理解し、自己の課題を明確にすることができる。 				
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習態度…実習時間の4/5以上の出席を以って、単位認定の評価対象とする。 2. 実習記録 上記を基に実習評価表により、総合的に到達目標の到達度1～6を評価する。 				
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4/5以上の出席を条件とする。 2. 実習態度および実習記録等の評価基準は、実習要項に掲載する実習評価表に示す。 				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学実習Ⅰの説明 2. 実習グループごとの顔合わせ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学実習Ⅰの目的・目標 2. 実習方法・実習記録 3. 実習評価 4. 病院見学 5. 健康観察 	オリエンテーション	実習前レポート：病院の種類・機能・役割、病院に勤務する専門職各々の役割をまとめる	高橋・沼澤・半田・齋藤

実習	<p>1. 1日目 ・午前：学内実習 ・午後：山形県立中央病院見学</p> <p>2. 2日目～4日目 ・病院実習</p> <p>3. 5日目 ・学内実習：全体カンファレンス</p>	<p>【1日目】 ・山形県立中央病院の概要および電子カルテの説明、病院見学を通して、病院の機能や特徴、果たす役割を学習する。</p> <p>【2～4日目】 ・各病院の看護師に同行し見学しながら、療養生活を送っている人の療養環境や看護が果たす役割を理解する。 ・各病院の看護師に同行し見学しながら、どのような専門職と連携を図りながら支援につなげているか理解する。 ・療養生活を送っている人とのコミュニケーションを体験し、患者の理解を深める。 ・カンファレンスにおいて、学生間の学びを共有する。 《実習病院》 ・山形県立中央病院…2日間 ・医療法人敬愛会 尾花沢病院…1日間</p> <p>【5日目】 ・グループ討議・発表・意見交換、カンファレンスを通しての学びの共有</p>	<p>【1日目】 講義・GW</p> <p>【2～4日目】 病棟の看護師につき、シャドイング実習を行う。</p> <p>【5日目】 講義・GW</p>	<p>【実習前レポート】 ・病院のパンフレットをよく読み、病院の種類・機能・役割をまとめる。 ・病院に勤務する専門職を調べ、各職種の役割をまとめる。</p> <p>【毎日の記録】 ・見学した中で、学びが多く得られたことを複数挙げ、疑問や課題に感じたことなどを考察する。 ・カンファレンスでの学びを端的にまとめ、自己の考えを考察する。</p> <p>【実習後レポート】 ・病院で療養生活を送る人の生活とその人が受けている看護や他の専門職から受けている支援を実際に見学し、看護が果たすべき役割について考察する。 ・看護職者として求められる基本的な姿勢と自己の課題を記載する。 ※タイトルは各自で設定</p>	<p>・県立中央病院 沼澤・半田・高橋</p> <p>・尾花沢病院 齋藤・高橋</p>
日付					

教科書				
参考書				
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1／看護2／看護3			
先修条件指定科目	非該当			
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当			
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。			
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院において医療・看護の実践および多職種連携について学ぶ科目です。			
教員の連絡先	高橋：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp 半田：研究室3 nhanda@yachts.ac.jp	沼澤：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp 齋藤：第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp		
備考	初めての实習で、過度の緊張から体調を崩しやすくなります。健康に十分留意して実習に臨んでください。			

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ	科目英語表記	Fundamental Nursing Practice II		
職名、担当教員氏名	教授 沼澤さとみ 准教授 半田 直子 准教授 高橋 直美 助教 齋藤 愛依				
科目責任者氏名	沼澤さとみ				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	学生各自が患者を受け持ち、指導者の助言や指導のもと、対象を全体的存在として理解し、必要なケアを考えて実施する。				
到達目標	(1) 基礎看護学で学習した知識を活用して、受け持ち患者の看護過程の基本的な展開方法を理解して実践できる。 (2) 看護過程の展開方法の基本を理解した上で、健康上の問題のある対象とその生活について、情報収集、アセスメントにより身体的・心理社会的側面から全体像を捉え、対象の健康問題に対する反応を診断し、立案した計画によりケアを行い、評価する過程を実践する。 (3) 対象の意思を尊重し、的確な看護実践を行う基本的能力を習得する。 (4) 対象との援助的人間関係を成立させて発展させる努力をする。 (5) 看護の職業倫理に基づき、看護専門職を目指す者として責任ある行動がとれる。 (6) 看護活動の体験を通して看護についての考えを深めることができる。				
成績評価方法	実習態度、実習内容、実習記録等について評価する。評価は実習要項に掲載する実習評価表を用いる。				
成績評価基準	4/5以上の出席を条件とする。 実習態度、実習内容、実習記録等の評価基準は、実習要項に掲載する実習評価表に示す。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	実習目的・目標 実習場所 実習方法 事前学習 等	詳細は実習要項に記載 実習場所（病棟は変更することあり） ・山形県立中央病院（5東・5西・6東・6西・7東・7西・8東・8西・9西病棟） ・篠田総合病院（2病棟・3病棟・7病棟・8病棟） ・山形済生病院（調整中） ※いずれの病院も病棟は変更することあり 実習方法等の詳細は実習要項に記載			沼澤 半田 高橋 齋藤
実習	受持ち患者の看護過程の展開	・シャドーイング ・受持ち患者の看護 ・カンファレンス	・シャドーイング：病棟で行われている患者の看護を看護師とともに実践（シャドーイング）する ・受持ち患者の看護：受持ち患者に対して、指導者の助言・指導のもと、看護過程を展開・実践する ・カンファレンス：看護実践に関して情報共有・意見交換する	実習までに学習した科目の復習、看護技術の練習をして実習に臨んでください。 また、実習では、学内でまだ学習していない知識や技術を活用して実践することも多くありますので、自己学習が必須です。	沼澤 半田 高橋 齋藤
日付					
6.9.3(火) ～ 6.9.12(木)					

教科書	なし
参考書	看護過程論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント論、専門基礎科目で使用・紹介された図書や資料を活用してください。 看護診断・疾患・病態・検査・薬剤・看護等に関する必要な図書や医学用語辞典などは、自分で探して持参してください。

ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3/看護4
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院での臨床において看護過程を展開する科目です。
教員の連絡先	沼澤：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp 半田：研究室3 nhanda@yachts.ac.jp 高橋：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp 齋藤：第2共同研究室 asaito@yachts.ac.jp
備考	学内の授業では学ぶことができない貴重な学習の機会です。主体的かつ積極的に学習することを期待します。また、社会人としての態度と行動が求められます。健康に留意し、遅刻欠席のないようにしてください。

授業科目	小児看護学概論	科目英語表記	Introduction to Child Health Nursing		
職名、担当教員氏名	講師 槌谷由美子				
科目責任者氏名	槌谷由美子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	小児看護の対象となる子どもや家族の特徴について、対象の成長・発達に影響を及ぼす要因について、また子どもの人権を尊重した小児看護の役割・機能について教授する。				
到達目標	①小児期の身体発育の特徴について理解し、発達評価の目的や方法を説明できる。 ②小児看護領域で特に留意すべき子どもの権利について説明できる。 ③小児期の生理機能、運動機能、心理・社会的機能の発達の特徴について説明できる。 ④小児期の日常生活行動（睡眠・食事・排泄・清潔・衣服の着脱・遊び等）の発達の特徴について説明できる。 ⑤子どもや家族をとりまく課題と看護の役割を考察できる。				
成績評価方法	・定期試験（80％）：上記に示した到達目標の①～④の達成度を評価する ・演習課題（10％）：到達目標の①の達成度を評価する ・レポート（10％）：課題に関する知識・考察が記載されているかを評価基準とし、到達目標①⑤を評価する				
成績評価基準	A；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に具体的に説明できる。 B；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 C；根拠をふまえて、論理的に説明できる。 D；根拠は不十分で、論理的な説明でない。 F；説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	小児看護とは	小児看護の目的 小児看護の対象と特徴	講義	講義前にシラバスを読んでください。	槌谷由美子
2	小児看護における倫理	子どもの権利、インフォームドコンセント・インフォームドアセント、プレパレーション	講義	講義内容について復習してください。	槌谷由美子
3	子どもの成長発達と看護1	身体発育、生理機能の発達	講義	講義内容について復習してください。	槌谷由美子
4	子どもの成長発達と看護2	運動機能、心理・社会的機能の発達	講義	講義内容について復習してください。	槌谷由美子
5	子どもの成長発達と看護3	日常生活行動の発達と看護	講義	講義内容について復習してください。	槌谷由美子
6	子どもの成長発達と看護4	乳幼児の発育評価	講義および演習	演習後に演習課題を提出してください。	槌谷由美子
7	子どもの成長発達と看護5	遊びと保育	講義		外部講師
8	子ども・家族と社会	子ども・家族を取り巻く社会環境 小児保健の動向	講義	講義内容について復習してください。	槌谷由美子
日付					
6.4.18(木)2					
6.4.25(木)2					
6.5.2(木)2					
6.5.9(木)2					
6.5.16(木)2					
6.5.23(木)2					
6.5.30(木)2					
6.6.6(木)2					

教科書	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3/看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	槌谷由美子：研究室29 ytsuchiya@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	小児看護方法論	科目英語表記	Methods of Child Health Nursing		
職名、担当教員氏名	講師 槌谷由美子 助教 貝野瀬友希				
科目責任者氏名	槌谷 由美子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	健康障がい子どもや家族に及ぼす影響や、子どもや家族の健康レベルに応じた看護について教授する。子どもの発達段階や家族のニーズ、疾病や障がいの状態に合わせた看護方法を検討するために、演習を活用した授業方法を取り入れる。				
到達目標	1. 健康障がい子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、必要な看護について説明できる。 2. 子どもとその家族に対する安全で安楽な看護方法について説明できる。 3. 講義・演習・課題学習に主体的に参加できる。				
成績評価方法	定期試験60%、演習前後の課題30%、授業への参加度10%				
成績評価基準	<p>到達目標1：健康障がい子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、必要な看護について説明できる。(定期試験)</p> <p>A：適切で十分な根拠をふまえて、論理的に具体的な説明ができる。 B：適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 C：根拠をふまえて論理的に説明できる。 D：根拠が不十分で論理的な説明でない。 F：説明できない。</p> <p>到達目標2：子どもとその家族に対する安全で安楽な看護方法について説明できる。(定期試験および課題)</p> <p>A：適切で十分な根拠をふまえて、論理的で具体的に説明できる。 B：適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 C：根拠をふまえて論理的に説明できる。 D：根拠が不十分で論理的な説明でない。 F：説明できない。</p> <p>到達目標3：講義・演習・課題学習に主体的に参加できる。(参加度)</p> <p>A：十分な事前準備をして参加し、グループメンバーと積極的にディスカッションすることができる。 B：事前準備をして参加し、グループメンバーと積極的にディスカッションすることができる。 C：事前準備をして参加し、メンバーとディスカッションすることができる。 D：事前準備が不十分で、メンバーとディスカッションすることができない。 F：事前準備をせず参加し、メンバーとディスカッションができない。</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	小児看護の対象と目的	授業の進め方とスケジュール 説明 事例・課題の提示	講義	事前にシラバスに目を通しておくこと。	槌谷
2	健康障がいをもつ子どもと家族への看護	健康障がい子どもと家族に及ぼす影響と看護	講義	授業内容をよく復習しておくこと。	槌谷
3	健康障がいの経過と看護(1)	急性期にある子どもと家族の看護	講義	後期の実習では急性期の患児を受け持つことが多いので、授業内容をよく復習しておくこと。	槌谷
4	健康障がいの経過と看護(2)	慢性期にある子どもと家族の看護	講義	授業内容をよく復習しておくこと。	槌谷
5	健康障がいの経過と看護(3)	終末期にある子どもと家族の看護	講義	授業内容をよく復習しておくこと。	槌谷
6	健康障がいの経過と看護(4)	周手術期(検査および処置時の鎮静下を含む)にある子どもと家族の看護	講義	後期の授業では周手術期の患児を受け持つことがあるので、授業内容をよく復習しておくこと。	貝野瀬
7	症状・行動の観察と看護(1)	小児によく見られる症状と看護(不機嫌・啼泣・痛み)	講義	授業内容をよく復習しておくこと。	槌谷

8	症状・行動の観察と看護（2）	小児によく見られる症状と看護（呼吸困難・発熱）	講義	授業内容をよく復習しておくこと。	槌谷
9	症状・行動の観察と看護（3）	小児によく見られる症状と看護（嘔吐、下痢、脱水）	講義	授業内容をよく復習しておくこと。	槌谷
10	ハイリスク新生児と家族への看護	ハイリスク新生児とは低出生体重児とその家族への看護	講義	授業内容をよく復習しておくこと。	槌谷
11	小児看護技術（1）	検査・処置概論	講義	授業内容をよく復習しておくこと。	槌谷
12	小児看護技術（2）	吸引、吸入、酸素療法、救急蘇生	講義	授業内容をよく復習しておくこと。	槌谷
13	小児看護技術（3）	抑制、採尿	演習	事前のオリエンテーションの内容を確認し、持ち物・服装等準備してくること。	貝野瀬・槌谷
14	小児看護技術（4）	輸液、内服	演習		貝野瀬・槌谷
15	小児のフィジカル・アセスメント（1）	バイタルサイン測定	講義・演習	事前のオリエンテーションの内容を確認し、持ち物・服装等準備してくること。	槌谷・貝野瀬
16	小児のフィジカル・アセスメント（2）	バイタルサイン測定	演習		槌谷・貝野瀬
17	看護過程の展開（1）	紙上事例紹介 事例のアセスメント	個人学習	事前に配布した紙上事例について、アセスメント・看護問題や計画の立案を各自進め、グループワークに備えること。	貝野瀬・槌谷
18	看護過程の展開（2）	紙上事例のアセスメント・看護問題の抽出	個人学習		貝野瀬・槌谷
19	看護過程の展開（3）	事例のアセスメントを行い、看護問題を抽出する	演習【グループワーク】	記載した看護過程を基にグループワークを行うため、グループワーク当日までに各自アセスメント・看護問題・看護計画を記載しておくこと。	貝野瀬・槌谷
20	看護過程の展開（4）	抽出された看護問題についての看護計画を立案する	演習【グループワーク】		貝野瀬・槌谷
21	看護過程の展開（5）	発表にむけての準備	演習【グループワーク】		貝野瀬・槌谷
22	看護過程の展開（6）	看護過程グループ発表	演習	看護過程については、各自でまとめて後日提出とする。	貝野瀬・槌谷
23	看護過程まとめ 小児看護方法論まとめ	看護過程まとめ 小児看護学実習Ⅱについて	講義	小児看護学実習Ⅱについての説明も行うので事前にシラバスに目を通しておくこと。	槌谷・貝野瀬

日付

6.4.12(金)1・2
6.4.19(金)1・2
6.4.26(金)1・2
6.5.10(金)1・2
6.5.17(金)1・2
6.5.24(金)1・2
6.5.31(金)1・2
6.6.14(金)1・2
6.6.21(金)1・2
6.6.28(金)1・2
6.7. 5(金)1・2
6.7.12(金)2

教科書	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院
参考書	必要時講義の中で紹介する
ディプロマ・ポリシーとの	看護1/看護2/看護3/看護4/看護7

関連	
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	槌谷由美子：研究室29 ytsuchiya@yachts.ac.jp 貝野瀬友希：第2共同研究室 ykainose@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	小児看護学実習Ⅰ	科目英語表記	Child Health Nursing Practice I		
職名、担当教員氏名	講師 槌谷由美子 助教 貝野瀬友希				
科目責任者氏名	槌谷由美子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	健康な子どもの人的・社会的環境を踏まえた日常生活行動を理解し、成長発達の個性を理解しながら、健康な子どもへの支援について実習を通じて教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の成長発達の特徴を説明できる。 2. 幼児の発達段階や状況に応じた関わり方ができる。 3. 子どもの日常生活（睡眠・食事・排泄・清潔）の援助ができる。 4. 子どもや家族を取り巻く課題と看護の役割を考察できる。 				
成績評価方法	実習記録（80%）：到達目標1～4を評価する。 実習態度（20%）：到達目標2、3を評価する。				
成績評価基準	<p>到達目標1：幼児の成長発達の特徴を説明できる。 A：適切で十分な根拠と自身の実習での経験をふまえながら具体的に説明できる。 B：適切な根拠と自身の実習での経験をふまえながら具体的に説明できる。 C：自身の実習での経験をふまえながら説明できる。 D：根拠が不十分で具体的な説明でない。 F：説明できない。</p> <p>到達目標2：幼児の発達段階や状況に応じた関わり方ができる。 A：発達段階や状況および個々の特徴を考慮して関わり方ができる。 B：発達段階や状況を考慮し関わり方ができる。 C：状況を考慮し関わり方ができる。 D：発達段階や状況を考慮が不十分だが関わり方ができる。 F：幼児と関わり方ができない。</p> <p>到達目標3：子どもの日常生活（睡眠・食事・排泄・清潔）の援助ができる。 A：発達段階や個々の特徴をふまえて日常生活の援助ができる B：発達段階をふまえて日常生活の援助ができる C：日常生活の援助ができる。 D：具体的な指示のもと、日常生活の援助ができる。 F：子どもへの日常生活援助ができない。</p> <p>到達目標4：子どもや家族を取り巻く課題と看護の役割を考察できる。 A：適切で十分な根拠と自身の実習での経験をふまえながら具体的に論理的に説明できる。 B：適切な根拠と自身の実習での経験をふまえながら論理的に説明できる。 C：根拠をふまえながら論理的に説明できる。 D：根拠が不十分で論理的な説明でない。 F：説明できない。</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	実習オリエンテーション	実習の概要、注意事項等の説明	対面での説明	オリエンテーション後に改めて実習要項等をよく読んでおくこと。	槌谷由美子、貝野瀬友希
実習	小児看護学実習Ⅰ	幼児の成長発達の理解 幼児の生活の実状の参観 幼児の日常生活援助の実践 幼児保育の体験	実習1日目～4日目：幼稚園、認定こども園または保育園にて実習 実習5日目：学内にて実習のまとめ	既習の知識・技術等を復習しておくこと	槌谷由美子、貝野瀬友希
日付					

6.9.17 (火) ～ 6.9.24 (火)

教科書	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
参考書	必要なものを自分で探してください。
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3/看護4/看護7
先修条件指定科目	該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（幼稚園教諭等）の指導の下、幼稚園において幼児教育の技術等について実習する科目です。
教員の連絡先	樋谷由美子：研究室29 ytsuchiya@yachts.ac.jp 貝野瀬友希：第2共同研究室 ykainose@yachts.ac.jp
備考	子どもは、免疫系の発達が未熟で感染を起こしやすく、学生自身が感染の媒体とならないために、予防接種などの健康診断結果が必要になることも考えられます。また、子どもは種々の伝染性疾患に罹患していることも多く、学生が罹患する危険性もあります。感染に関する対策の必要性を自覚し、健康管理に留意して実習に臨んでください。

授業科目	小児看護学実習Ⅱ	科目英語表記	Child Health Nursing Practice II		
職名、担当教員氏名	講師 槌谷由美子 助教 貝野瀬友希				
科目責任者氏名	槌谷由美子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	健康問題をもつ子どもとその家族とのかかわりを通して、対象の身体的・心理的・社会的変化を理解し、対象のよりよい成長発達をめざした看護について実践を通じて教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康問題をもつ子どもやその家族との援助的な人間関係を築くことができる。 健康問題が子どもやその家族に及ぼす影響について多角的にとらえ、看護計画を立案・実施できる。 子どもや家族を取り巻く医療環境を理解し、看護チームや多職種・他機関との連携の必要性を考察できる。 主体的な学習・看護実践を通して、看護職者としての自己の課題を考察できる。 				
成績評価方法	実習記録（80%）：到達目標1～4を評価する。 実習態度（20%）：到達目標1、2、4を評価する。				
成績評価基準	<p>到達目標1：健康問題をもつ子どもやその家族との援助的な人間関係を築くことができる（実習記録および実習態度）</p> <p>A：個別性に十分に配慮しながら、援助的かつ良好な人間関係を構築できる。 B：個別性に配慮しながら、援助的な人間関係を構築できる。 C：個別性に配慮しながら、人間関係を構築できる。 D：人間関係を構築できるが、子どもの成長発達や健康問題、個別性への配慮が不十分である。 F：人間関係を構築できない。</p> <p>到達目標2：健康問題が子どもやその家族に及ぼす影響について多角的にとらえ、看護計画を立案・実施できる（実習記録）</p> <p>A：健康問題が子どもやその家族に及ぼす影響について多角的にとらえ、個別性の高い看護計画を立案・実施できる。 B：健康問題が子どもやその家族に及ぼす影響についてとらえ、看護計画を立案・実施できる。 C：助言をもとに健康問題が子どもやその家族に及ぼす影響についてとらえ、看護計画を立案・実施できる。 D：看護計画を立案・実施できるが、健康問題が子どもやその家族に及ぼす影響への理解が不十分である。 F：健康問題が子どもやその家族に及ぼす影響をとらえられない、かつ看護計画を立案・実施できない。</p> <p>到達目標3：子どもや家族を取り巻く医療環境を理解し、看護チームや多職種・他機関との連携の必要性を考察できる（実習記録）</p> <p>A：適切で十分な根拠を踏まえて、論理的かつ具体的に考察できる。 B：適切で十分な根拠を踏まえて、論理的に考察できる。 C：根拠を踏まえて論理的に考察できる。 D：根拠が不十分で論理的な考察でない。 F：考察できない。</p> <p>到達目標4：主体的な学習・看護実践を通して看護職者としての自己の課題を考察できる（実習記録および実習態度）</p> <p>A：主体的かつ積極的な学習・看護実践を通して、自己の課題を論理的かつ具体的に考察できる。 B：主体的な学習・看護実践を通して、自己の課題を論理的に考察できる。 C：学習・看護実践を通して、自己の課題を論理的に考察できる。 D：学習、看護実践を通して、自己の課題を考察できる。 F：自己の課題を考察できない。</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	実習オリエンテーション	オリエンテーションは全2回実施予定。 【8月】実習の概要と事前課題についての説明 【9月】実習要項に沿った実習の概要、実習上の注意点、および実習配置についての説明	対面での説明	・オリエンテーション当日までに事前課題を完成させ、提出できるよう準備すること。 ・オリエンテーション後に改めて実習要項等を確認しておくこと。	槌谷由美子 貝野瀬友希
実習	小児看護学実習Ⅱ	【病棟実習】健康問題をもつ子どもを受け持ち看護過程の展開、看護実践を行う 【小児科外来実習】外来を受診する子どもと家族の様子、	実習期間：9月～2月の臨地実習期間のうち1週間 実習場所：山形県立中央病院 ・9階西病棟（3日間） ・小児科外来（1日間）	実習で得られた情報の整理やアセスメント、看護計画の立案などは学生個人の実習時間外となる。また、既習の学習内容について主体的に復習し	槌谷由美子 貝野瀬友希

	および医師や看護師のかかわり方等を見学する 【NICU・GCU実習】ハイリスク児及びその家族への看護、および多職種の連携について見学する	・NICU/GCU（1日間） 実習最終日には学生、指導者、担当教員参加でカンファレンスを実施する。	た上で実習に臨むことが望ましい。
日付			
6.9.17 (火) ～ 7.1.31 (金)			

教科書	系統看護学講座 小児看護学概論 臨床看護学総論（医学書院） 系統看護学講座 小児臨床看護各論（医学書院）
参考書	必要なものを自分で探してください。
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1／看護2／看護3／看護4／看護7
先修条件指定科目	該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者（〇〇等）が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）による指導の下、病院（臨床）における小児看護について実習する科目です。
教員の連絡先	槌谷由美子：研究室29 ytsuchiya@yachts.ac.jp 貝野瀬友希：第2共同研究室 ykainose@yachts.ac.jp
備考	既習の学習を活用して主体的に学び、自己の課題を見出してください。また、子どもは種々の伝染性疾患に罹患していることも多く、学生が罹患する危険性もあります。感染に関する対策の必要性を自覚し、健康管理に留意して実習に臨んでください。

授業科目	母性看護学概論	科目英語表記	Introduction to Maternity Nursing			
職名、担当教員氏名	教授 菊地 圭子					
科目責任者氏名	菊地 圭子					
学内連絡教員氏名						
学科／分野	看護学科	学年	2年			
科目区分	専門	必修・選択の別	必修			
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位	
授業概要	次世代の育成に関わる看護の特徴と、実践に必要な概念および理論を教授する。また対象の特徴や社会の変化を踏まえた母性看護の役割と課題について教授する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の目的、対象、目標を説明できる。 母子保健に関する動向と母子保健のための法律や施策を理解し、必要な看護を考察できる。 母性看護の実践に必要な概念や理論を理解し、実践への適用方法を考察できる。 母性看護学における倫理的課題を理解し、看護の役割を考察できる。 					
成績評価方法	筆記試験；70% 到達目標1、2、3を評価する。 レポート；30% 到達目標3、4を評価する。 課題は授業の際に提示する。					
成績評価基準	到達目標	特に優れている	優れている	良好である	最低限の到達	目標に達していない
	母性看護の目的、対象、目標を説明できる	他の専門分野と対比させながら、母性看護の目的、対象、目標を十分説明できる	母性看護の目的、対象、目標を十分説明できる	母性看護の目的、対象、目標を説明できる	母性看護の目的、対象、目標を理解し、一部説明できる	母性看護の目的、対象、目標を理解できていない
	母子保健に関する動向と母子保健のための法律や施策を理解し、必要な看護を考察できる	母子保健に関する動向と母子保健のための法律や施策を十分理解し、母性看護の対象と目標をふまえて必要な看護を説明できる	母子保健に関する動向と母子保健のための法律や施策を理解し、母性看護の対象と目標をふまえて必要な看護を説明できる	母子保健に関する動向と母子保健のための法律や施策を理解し、必要な看護を説明できる	母子保健に関する動向と母子保健のための法律や施策を理解し、必要な看護を一部説明できる	母子保健に関する動向と母子保健のための法律や施策が理解できていない
	母性看護の実践に必要な概念および理論を理解し、実践への適用方法が考察できる	母性看護の実践に必要な概念や理論を正しく理解し、母性看護の対象と目標をふまえて具体的な実践への適用方法を説明できる	母性看護の実践に必要な概念や理論を正しく理解し、母性看護の対象と目標をふまえた実践への適用方法を説明できる	母性看護の実践に必要な概念や理論を理解し、実践への適用方法を説明できる	母性看護の実践に必要な概念や理論を理解し、実践への適用方法が一部説明できる	母性看護の実践に必要な概念や理論を理解できない
	母性看護学における倫理的課題を理解し、看護の役割を考察できる	母性看護学における倫理的課題を理解し、社会的背景や法的制度をふまえて母性看護の対象に焦点をあてて看護の役割を考察できる	母性看護学における倫理的課題を理解し、社会的背景や法的制度をふまえて看護の役割を考察できる	母性看護学における倫理的課題を理解し、看護の役割を考察できる	母性看護学における倫理的課題を理解できる	母性看護学における倫理的課題を理解できない

--	--

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	母性看護学の目的、対象、目標	母性看護の目的 母性看護の対象と目標	講義	事前学習；学習内容に関する教科書の記述を読んでくる。	菊地
2	母子保健の動向	国内外の母子保健の動向と課題	講義	事前学習；最近の母子保健動向に関する情報収集	菊地
3	母子の健康を支える法律や制度	母子保健法、母子保健に関連する法規	講義	事前学習；最近の母子保健に関する制度に関する情報収集	菊地
4	母子の健康を支える施策	母子保健体系、子育て支援生涯を通じた女性の健康に関する施策	講義	事前学習；最近の母子保健に関する施策に関する情報収集	菊地
5	母性看護の実践に必要な概念および理論①	ヘルスプロモーション、行動変容モデル	講義	事後学習；レポート① 課題は授業内で提示する。	菊地
6	母性看護の実践に必要な概念および理論②	親役割獲得過程、母性、父性、母子相互作用、家族の発達	講義	事前学習；学習内容に関する教科書の記述を読んでくる。	菊地
7	母性看護学における倫理的課題	母性看護学領域の倫理的課題の特徴	講義	事後学習；レポート② 課題は授業内で提示する。	菊地
8	まとめ	母性看護学の目的と対象から、改めて母性看護の目標の確認	講義	事前学習；これまでの講義内容の復習	菊地
日付					
6.4.10 (水) 4 6.4.17 (水) 4 6.4.24 (水) 4 6.5. 1 (水) 4 6.5. 8 (水) 4 6.5.15 (水) 4 6.5.22 (水) 4 6.5.29 (水) 4					

教科書	中込さと子他：ナーシンググラフィカ，母性看護学①，概論・リプロダクティブヘルスと看護，メディカ出版，最新版
参考書	◎母子保健の主なる統計 最新版 ◎松本千明：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 第2版 生活習慣病を中心に，医歯薬出版，2024年 ◎国民衛生の動向 最新版
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	

教員の連絡先	菊地圭子：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	妊娠分娩期看護方法論	科目英語表記	Maternity Nursing : pregnancy and delivery period		
職名、担当教員氏名	教授 中村 康香 助教 前田のぞみ				
科目責任者氏名	中村 康香				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	妊娠期・分娩期における対象を援助するための必要な基礎知識と援助方法を学ぶ。				
到達目標	1.妊娠期・分娩期の身体的特徴、心理・社会的特徴および発達課題と看護を説明できる。 2.家族の発達（妊娠期・分娩期）の特徴、健康課題、援助方法を説明できる。 3.妊娠期・分娩期の起こりやすい異常の治療と看護の特徴について説明できる。				
成績評価方法	筆記試験 80%（中村40%、前田40%） 到達目標1.2.3を評価 レポート課題 20%（中村10%、前田10%） 到達目標1.2を評価				
成績評価基準	到達目標1.2 特に優れている : 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる。9割以上正しく記述されている。 優れている : 根拠をふまえて論理的に説明できる。8割以上正しく記述されている。 良好である : 根拠を用いてある程度論理的に説明できる。7割以上正しく記述されている。 最低限の到達 : 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる。6割以上正しく記述されている。 目標に到達していない : 説明できない。正しい記述は6割未満である。 到達目標3 特に優れている : 9割以上正しく記述されている。 優れている : 8割以上正しく記述されている。 良好である : 7割以上正しく記述されている。 最低限の到達 : 6割以上正しく記述されている。 目標に到達していない : 正しい記述は6割未満である。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	妊娠の成立と身体的変化	妊娠経過に伴う身体的変化とアセスメント、マイナートラブル	講義	事後学習：自分が経験したことのある症状とその時の対応について考察する	中村康香
2	妊娠期の心理社会的変化	妊娠経過に伴う心理社会的変化とアセスメント、特に支援が必要な妊婦	講義	事後学習：特に支援が必要な妊婦にはどのような社会資源があるのか調べる	中村康香
3	妊娠期のセルフマネジメント	妊娠期の保健指導、就労妊婦への看護	講義	事後学習：妊婦にとって適切で時短で作れる具体的な献立を1食分、考案する	中村康香
4	出産・育児準備のための看護	親役割獲得に向けた看護、出産前教育の役割、パースプラン	講義	事後学習：育児あるあるシチュエーションについて、どのように対応するべきか考察する	中村康香
5	胎児と胎児附属物	胎児生理学と胎外生活への適応過程、胎盤の機能と役割	講義	事後学習：胎児循環について、酸素濃度がどのように変化するか色別に塗り分け理解する。	中村康香
6	胎児のアセスメント	胎児の成長発達のアセスメント、CTGモニター判読	講義 演習	事後学習：CTG事例について判読を行う	中村康香
7	分娩期にある母子の生理	分娩の4要素 胎児と子宮および骨盤との関係 分娩の機序	講義	事後学習：娩出力、産道、娩出力、心理について整理する	前田のぞみ

8	分娩期にある母子の生理	分娩の進行 産婦の身体的変化・産痛 分娩が胎児に及ぼす影響 産婦の心理・社会的変化	講義	事後学習：分娩進行について整理する。産婦の家族の心理・社会的変化について考察する	前田のぞみ
9	分娩期にある母子の生理 分娩期にある母子とその家族の看護	産婦と家族の看護	講義・DVD	事後学習：分娩期の看護の特徴と援助方法、看護の課題について理解する	前田のぞみ
10	分娩期にある母子とその家族の看護	分娩第4期の看護	講義	分娩期の看護の特徴と援助方法を理解する	前田のぞみ
11	分娩期にある母子とその家族の看護	分娩の意義と看護の役割	講義・DVD	レポート課題：『分娩の意義と看護の役割の考察』についてレポートを作成する	前田のぞみ
12	妊娠の異常	妊娠に伴う異常、合併症に伴う妊娠、母子感染症	講義	事後学習：妊娠に伴う異常が、妊娠にどのような影響を及ぼすのか復習する	中村康香
13	ハイリスク妊娠ケア	MFICUの看護、ハイリスク妊娠の看護	講義	事後学習：入院生活が子どもを迎える家族に対してどのような影響があるのか考察する	中村康香
14	分娩期にある母子の異常と看護	産道の異常 娩出力の異常 胎児の異常による分娩障害 胎児付属物の異常	講義	事後学習：胎児心拍数陣痛図による胎児機能の評価、前置胎盤と常位胎盤早期剥離の鑑別点について整理する	前田のぞみ
15	分娩期にある母子の異常と看護	分娩第2期に起こりうる異常 分娩第3・4期に起こりうる異常 産科処置と産科手術	講義	事前学習：提示する資料を用いて帝王切開術の経過と産婦と家族の心理について考察する	前田のぞみ

日付

6.9.30 (月) 3
6.10.7 (月) 3
6.10.21 (月) 3
6.10.28 (月) 3
6.11.11 (月) 3
6.11.18 (月) 3
6.11.25 (月) 3
6.12.2 (月) 3
6.12.9 (月) 3
6.12.16 (月) 2・3
6.12.23 (月) 3
7.1.6 (月) 3
7.1.20 (月) 3
7.1.27 (月) 3

教科書	小林康江他：ナーシング・グラフィカ 母性看護② 母性看護実践の実践，メディカ出版 荒木奈緒他：ナーシング・グラフィカ 母性看護③ 母性看護技術，メディカ出版
参考書	参考書は、講義で紹介する
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1／看護2／看護3／看護6／看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内	

容	
教員の連絡先	中村 康香：研究室2 ynakamura@yachts.ac.jp 前田のぞみ：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp
備考	出欠席はFormsで行う。指定の時間までに回答をすること。 講義に関する感想・質問等の確認は講義中もしくは講義後のFormsで行い、次回の講義でフィードバックする。 提出された課題に対するコメントは、資料もしくは口頭でフィードバックする。

授業科目	産褥新生児期看護方法論	科目英語表記	Maternity Nursing : Postpartum neonatal period		
職名、担当教員氏名	助教 渡邊 礼子 教授 遠藤 恵子				
科目責任者氏名	渡邊 礼子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	母性看護学概論と妊娠分娩期看護方法論における学習を基盤に、出産後の女性が健康を維持促進しながら子どもの養育を健康的に行う過程を支えるために必要な基礎的知識を学習する。 母性看護学実習につながる科目として既習の知識を生かしながら看護過程を展開する基礎的能力を講義、グループディスカッションにて養うとともに、周産期における看護実践に必要な基本的看護技術を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 産褥期の身体的、心理的、社会的変化および新生児の身体的特徴と子宮外生活への生理的適応過程を説明できる。 褥婦の正常な経過の維持・促進する看護援助、育児期の生活への適応を促す看護援助を説明できる。 新生児の子宮外生活への生理的適応を促す看護援助を説明できる。 親子関係形成や新生児の成長・発達を促す看護援助を説明できる。 模擬事例を用いて、褥婦と新生児の情報収集、アセスメント、看護計画の立案ができる。 周産期特有の看護技術の目的と実施方法、留意点を説明し、実施できる。 				
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 定期試験50% 筆記試験によって到達目標1～4の到達度を評価する。 演習課題レポート50% (1)産褥新生児期看護過程の展開演習での成果物 到達目標5の到達度を評価する。 (2)妊娠・産褥・新生児期における基本的看護技術演習の課題（事前・事後レポート） 到達目標6の到達度を評価する。 				
成績評価基準	<p>到達目標 1 から 4</p> <p>A：筆記試験において9割以上正しく記述されている B：筆記試験において8割以上正しく記述されている C：筆記試験において7割以上正しく記述されている D：筆記試験において6割以上正しく記述されている F：筆記試験において正しい記述は6割未満</p> <p>到達目標 5</p> <p>A：適切な方法で情報収集、十分で適切なアセスメント、適切で充実したケアが実施できるように実行可能な計画を立案し、実践できる。 B：情報収集、アセスメント、実行可能な計画立案はおおむね適切で、実践できる。 C：情報収集、アセスメント、計画立案できるが、不十分。 D：情報収集、アセスメント、計画立案するが、一貫性・整合性がない。 F：情報収集、アセスメント、計画立案ができない。</p> <p>到達目標 6</p> <p>A：周産期特有の看護技術の目的と実施方法、留意点を十分事前学習で理解し、適切な手技で実施できる。 B：周産期特有の看護技術の目的と実施方法、留意点を十分事前学習で理解し、実施できる。 C：周産期特有の看護技術の目的と実施方法、留意点を事前学習で理解し、実施できる。 D：周産期特有の看護技術の目的と実施方法、留意点について、事前学習が不十分。 F：周産期特有の看護技術の目的と実施方法、留意点について、事前学習ができない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	新生児の生理	科目オリエンテーション ①新生児の生理的特徴	講義	事前学習；妊娠期・分娩期に関する既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。	渡邊
2	新生児の生理	②新生児期のアセスメント	講義	事前学習；妊娠期・分娩期に関する既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。	渡邊

3	新生児の看護	③子宮外生活への生理的適応を促進する援助 ④成長・発達を促進する援助	講義	事前学習；妊娠期・分娩期に関する既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。	渡邊
4	褥婦の看護	①産褥の経過と特徴	講義	事前学習；妊娠期・分娩期に関する既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。	渡邊
5	褥婦の看護	②産褥の経過と特徴	講義	事前学習；妊娠期・分娩期に関する既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。	渡邊
6	褥婦の看護	③産褥期のアセスメント ④褥婦と家族の看護	講義	事前学習；妊娠期・分娩期に関する既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。	渡邊
7	褥婦の看護	④褥婦と家族の看護 ⑤退院後の褥婦の看護	講義	妊娠期・分娩期に関する既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。	渡邊
8	新生児に起こりやすい異常	新生児の呼吸循環障害、黄疸等	講義	事前学習；新生児の正常な経過について既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。	スポット（饗場）
9	産褥期・新生児期の異常と看護	褥婦と新生児の異常とその看護	講義	事前学習；産褥期・新生児期の正常な経過について既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。	渡邊
10	産褥新生児期看護過程①	母性看護における看護過程の展開	講義・演習	事前学習；妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過について既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。	渡邊
11	Aグループ 妊娠・産褥・新生児期における基本的看護技術演習 Bグループ 産褥新生児期看護過程 【個人ワーク】	Aグループ【看護技術演習】 シミュレーターを用いた演習 <妊娠期> 妊婦腹部触診、子宮底長・腹囲測定、胎児心音聴取、胎児の健康状態の診断、妊婦体験 <産褥期> 産褥子宮復古の観察、外陰部の観察、授乳確立への援助 <新生児期> 新生児のバイタルサイン測定と諸計測 演習を効果的に進めるため、演習前後にレポートを提出する。 詳細は初回の講義で説明する。 Bグループ【看護過程展開】 提示された課題について個人で取り組み、提出する。	演習	看護過程展開の個人ワークでの質問等はFORMSで提出する 事前学習；妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過について既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。	遠藤 渡邊 菊地 前田 中村
12	Aグループ 妊娠・産褥・新生児期における基本的看護技術演習 Bグループ 産褥新生児期看護過程 【個人ワーク】	第11回と同じ	演習	看護過程展開の個人ワークでの質問等はFORMSで提出する 事前学習；妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過について既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。	遠藤 渡邊 菊地 前田 中村
13	Aグループ 妊娠・産褥・新生児期における基本的看護	第11回と同じ	演習	看護過程展開の個人ワークでの質問等はFORMSで提出する	遠藤 渡邊 菊地

	<p>護技術演習</p> <p>Bグループ 産褥新生児期看護過程 【個人ワーク】</p>			<p>事前学習；妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過について既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。</p>	<p>前田 中村</p>
14	<p>Aグループ 産褥新生児期看護過程 【個人ワーク】</p> <p>Bグループ 妊娠・産褥・新生児期における基本的看護技術演習</p>	<p>Aグループ【看護過程展開】 提示された課題について個人で取り組み、提出する。</p> <p>Bグループ【看護技術演習】 シミュレーターを用いた演習 <妊娠期> 妊婦腹部触診、子宮底長・腹囲測定、胎児心音聴取、胎児の健康状態の診断、妊婦体験 <産褥期> 産褥子宮復古の観察、外陰部の観察、授乳確立への援助 <新生児期> 新生児のバイタルサイン測定と諸計測 演習を効果的に進めるため、演習前後にレポートを提出する。 詳細は初回の講義で説明する。</p>	<p>演習</p>	<p>看護過程展開の個人ワークでの質問等はFORMSで提出する 事前学習；妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過について既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。</p>	<p>遠藤 渡邊 菊地 前田 中村</p>
15	<p>Aグループ 産褥新生児期看護過程 【個人ワーク】</p> <p>Bグループ 妊娠・産褥・新生児期における基本的看護技術演習</p>	<p>第14回と同じ</p>	<p>演習</p>	<p>看護過程展開の個人ワークでの質問等はFORMSで提出する 事前学習；妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過について既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。</p>	<p>遠藤 渡邊 菊地 前田 中村</p>
16	<p>Aグループ 産褥新生児期看護過程 【個人ワーク】</p> <p>Bグループ 妊娠・産褥・新生児期における基本的看護技術演習</p>	<p>第14回と同じ</p>	<p>演習</p>	<p>看護過程展開の個人ワークでの質問等はFORMSで提出する 事前学習；妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過について既習の知識を活用できるような状態にして参加すること。</p>	<p>遠藤 渡邊 菊地 前田 中村</p>
17	<p>産褥新生児期看護過程②</p>	<p>【グループワーク】 アセスメント・看護課題の抽出 発表準備・課題提出</p>	<p>演習</p>	<p>事後学習；アセスメント・看護課題の抽出の見直し</p>	<p>渡邊 遠藤</p>
18	<p>産褥新生児期看護過程③</p>	<p>第17回と同じ</p>	<p>演習</p>	<p>事後学習；アセスメント・看護課題の抽出の見直し</p>	<p>渡邊 遠藤</p>
19	<p>産褥新生児期看護過程④</p>	<p>看護課題の共有</p>	<p>講義・演習</p>	<p>事後学習；アセスメント・看護課題の抽出の見直し</p>	<p>渡邊 遠藤</p>
20	<p>産褥新生児期看護過程⑤</p>	<p>【グループワーク】 看護目標の設定と具体的看護計画の立案 発表準備・課題提出</p>	<p>演習</p>	<p>事後学習；看護目標の設定と具体的看護計画の立案の見直し</p>	<p>渡邊 遠藤</p>
21	<p>産褥新生児期看護過程⑥</p>	<p>第20回と同じ</p>	<p>演習</p>	<p>事後学習；看護目標の設定と具体的看護計画の立案の見直し</p>	<p>渡邊 遠藤</p>

22	産褥新生児期看護過程⑦	看護課題の共有 演習についての自己評価記入	講義・演習	事後学習；看護目標の設定と 具体的看護計画の立案の見直し	渡邊 遠藤
23	産褥新生児期看護過程⑧	産褥新生児期看護過程のまとめ 看護過程課題の最終提出 母性看護学実習について	講義・演習	事後学習；看護過程の振り返り	渡邊 遠藤

日付

6.4.16 (火) 5
6.4.18 (木) 4・5
6.5.28 (火) 5
6.5.30 (木) 4・5
6.6. 6 (木) 4・5
6.6.11 (火) 5
6.6.13 (木) 4
6.6.28 (金) 3・4・5
6.7. 5 (金) 3・4・5
6.7.11 (木) 4・5
6.7.16 (火) 5
6.7.19 (金) 1・2
6.7.24 (水) 4
6.7.25 (木) 4

教科書	ナーシング・グラフィカ 母性看護学②母性看護の実践，メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護技術，メディカ出版
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 遠藤：研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	母性看護学実習	科目英語表記	Maternity Nursing Practice		
職名、担当教員氏名	助教 渡邊 礼子 助教 前田のぞみ 教授 菊地 圭子 教授 遠藤 恵子 教授 中村 康香				
科目責任者氏名	渡邊 礼子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	周産期にある対象者への看護実践を通し、対象者の特徴を理解し時代を育むために必要な援助とそれに必要なチーム体制の基本を培う。さらにヒューマンケアの基本、自己研鑽の態度を修養する。				
到達目標	(1) 次代を育むための援助の実践に関する実践能力 ①妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を理解できる ②妊娠期・産褥期・新生児期の身体的・心理的・社会的特性と生理的变化を踏まえてアセスメントを行い、各期の対象者に適した看護上の課題を抽出できる ③対象者のセルフケア能力を活かし、各期の対象者に適した看護上の課題を抽出できる ④対象者の状況に合わせてタイミングや方法を工夫し、指導のもとに安全・安楽に看護を実施できる ⑤対象者の状況の変化に合わせて看護計画を随時評価し、修正できる ⑥妊娠に伴うリスクに応じた看護の特徴を考察できる (2) ヒューマンケアの基本に関する実践能力 ①対象者の価値観を尊重する行動をとることができる ②新生児に対して、人権を擁護する意識を持って行動できる ③看護の職業倫理に基づき、責任ある行動をとることができる ④対象者と意思疎通を重ね、信頼関係を築くための行動をとることができる (3) 看護チームにおける協働・連携に関する能力 ①より適切な援助を行うために、医療チームの一員として連絡・報告・相談ができる ②対象者に関わる看護チームの役割・連携について表現できる (4) 看護実践を通して研鑽する能力 ①対象者の状況にあわせた適切で充実した看護ケアを目指し準備できる ②自分の行動を振り返り、課題の改善に向けた行動をとることができる				
成績評価方法	4/5以上の出席を満たした者に対し、到達目標14項目について実習評価表を用いて実習内容や実習記録から総合的に評価する。				
成績評価基準	到達目標(1)について A: 情報収集、計画立案、実践、評価がすべて適切で、一貫性がある。 B: 情報収集、計画立案、実践、評価が概ね適切で、一貫性がある。 C: 情報収集、計画立案、実践、評価の一部が不適切である。 D: 情報収集、計画立案、実践、評価の一部が不適切で整合性に欠ける。 F: 情報収集、計画立案、実践、評価がすべて不適切である。 到達目標(2)について A: 倫理観を持ち、対象者の価値観を尊重し、対象者と実習の早い段階で信頼関係を築ける。 B: 倫理観を持ち、対象者の価値観を尊重し、対象者と信頼関係を築ける。 C: 倫理観はあるが、対象者と信頼関係とまではいかない。 D: 倫理観はあるが、対象者と信頼関係を築きにくい。 F: 倫理観不十分で、対象者と信頼関係を築くことができない。 到達目標(3)について A: 適切な時期に適切な内容で連絡報告相談ができ、チームの一員として臨機応変に行動できる。 B: 適切な時期に適切な内容で連絡報告相談ができ、チームの一員として行動できる。 C: 連絡報告相談ができるが、時期や内容はやや不適切で不十分である。 D: 連絡報告相談ができるが、時期は遅れ、内容は不足している。 F: 連絡報告相談の時期は大幅に遅れ、内容が不十分。 到達目標(4)について A: 適切で充実したケアを目指した、計画的に知識・技術・体調の準備と課題改善の行動ができる。 B: 適切で充実したケアを目指した、知識・技術・体調の準備と課題改善の行動ができる。 C: 適切で充実したケアを目指した、知識・技術・体調の準備と課題改善の行動がやや不足している。 D: 適切で充実したケアを目指した、知識・技術・体調の準備と課題改善の行動がかなり不足している。 F: 知識・技術・体調の準備と課題改善の行動ができない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション				産褥新生児期看護方法論で配布する学習ノートを用い、事前学習課題に取り組む	
実習	周産期にある対象者を受け持ち、看護を実践する	詳細は母性看護学実習要項を参照 実習場所 県立中央病院、山形済生病院 産科病棟、産婦人科外来、小児科外来	詳細は実習オリエンテーション時に説明する		渡邊 前田 菊地 遠藤 中村
日付					
6.9.17 (火) ～ 7.1.31 (金)					

教科書	必要な図書・文献は自分で探し活用すること				
参考書					
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3/看護4/看護7				
先修条件指定科目	該当				
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかない科目	非該当				
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。				
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院（臨床）において周産期にある対象者に看護過程を展開する科目です。				
教員の連絡先	渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp 菊地：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp 遠藤：研究室20 kendo@yachts.ac.jp 中村：研究室2 ynakamura@yachts.ac.jp				
備考					

授業科目	助産プロフェッショナルリズム	科目英語表記	Midwifery Professional		
職名、担当教員氏名	教授 中村 康香				
科目責任者氏名	中村 康香				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	助産の基本概念と助産師の専門性について教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法的根拠を踏まえ、助産の基本概念と助産師の専門職者としての役割と責務を説明できる 2. 助産師の責務、倫理観、役割について説明できる。 3. 日本と世界の母子保健事情について説明できる 4. 多様な助産師教育制度を理解し、助産性の専門性を高めるキャリア開発の方策を考察できる。 5. 今後、助産師の専門性を発揮できる場や活動内容を考察できる。 				
成績評価方法	筆記試験 60% 到達目標1から4について、知識の理解の到達度を評価する。 レポート 20% 到達目標5の達成度を評価する。課題は講義内で提示する。 授業内でのプレゼンテーション20% 到達目標3の達成度を評価する。				
成績評価基準	到達目標1,2,4,5 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる、9割以上正しく記述されている。 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる、8割以上正しく記述されている。 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる、7割以上正しく記述されている。 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる、6割以上正しく記述されている。 目標に到達していない；説明できない、正しい記述は6割未満である。				
	到達目標3 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明でき、質問に対しても適切に回答できる。 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる、質問に対して助言を得ながら適切に回答できる。 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる、質問に対して助言が必要。 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる、質問に対しては回答が不十分。 目標に到達していない；説明できない、質問に回答できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	助産の概念	助産師の定義と業務、助産活動の基本理念、法律	講義	事後学習：助産師を取り巻く法律について復習する	中村 康香
2	助産実践の倫理	助産師の倫理綱領と助産師職能のコアコンピテンシー	講義	事後学習：臨床での倫理実践の困難について考察する	中村 康香
3	助産師と教育	日本における助産師の基礎教育と現任教育（助産実践能力習熟段階：CLoCMiP),	講義	事後学習：助産師教育について復習し看護教育と比較し理解を深める	中村 康香
4	母子保健の動向	日本と世界における母子保健の現状と課題、国際活動	講義	事後学習：世界の助産・看護について自分は何が貢献できるのか考察する	中村 康香
5	助産の歴史と文化	助産の歴史と出産文化の多様性への理解、キャリアについて	講義	事後学習：出産の文化について理解を深め、日本の中の出産文化について理解を深める	中村 康香
6	世界の助産師	世界における助産師の活動について（グループワーク）	演習	世界における助産師の活動について（グループワーク）	中村 康香
7	世界の助産師	世界における助産師の活動について（発表）	演習	事後学習：世界の助産師の活動について理解を深める	中村 康香

8	学習状況の確認(試験含む)と振り返り	学習状況の確認(試験含む)と振り返り	講義	事前学習：これまでの講義内容について理解を深める	中村 康香
日付					
6.4. 8 (月) 4					
6.4.15 (月) 4					
6.4.22 (月) 4					
6.4.26 (金) 1					
6.5.10 (金) 1					
6.5.13 (月) 4					
6.5.20 (月) 4					
6.5.27 (月) 4					

教科書	
参考書	母子保健の主なる統計 最新版, 母子衛生研究会 (助産システム論でも使用) 参考書：助産師業務要覧 第4版[Ⅰ基礎編] 2024年版, 日本看護協会出版会 (助産システム論の教科書) 助産師業務要覧 第4版[Ⅱ実践編] 2024年版, 日本看護協会出版会 (助産システム論の教科書) 助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産概論, 日本看護協会出版会
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護5/看護6/看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	中村康香：研究室2 ynakamura@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	リプロダクティブヘルスケア	科目英語表記	Reproductive Health Care			
職名、担当教員氏名	教授 菊地 圭子					
科目責任者氏名	菊地 圭子					
学内連絡教員氏名						
学科／分野	看護学科	学年	2年			
科目区分	専門	必修・選択の別	必修			
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	1単位	
授業概要	全てのライフサイクルに関わる性と生殖をめぐる健康問題の早期発見・治療および健康の維持・増進・疾病予防における看護を展開するために必要な基本的看護方法を教授する。					
到達目標	1. 性と生殖に関する基本的な概念について説明できる。 2. 性と生殖が人の健康や生活に及ぼす影響を理解し、性の健康を維持増進させる看護を考察できる。 3. 性と生殖の看護領域の倫理的課題の特徴と看護者としての役割を考察できる。					
成績評価方法	筆記試験；80％ 到達目標1と3の到達度を評価する。 レポート1回；20％ 到達目標2の到達度を評価する。課題は授業内で提示する。					
成績評価基準	到達目標	特に優れている	優れている	良好である	最低限の到達	目標に達していない
	性と生殖に関する基本的な概念について説明できる	概念の背景、歴史、社会的動向をふまえて正確に概説できる	基本的な概念をすべて正確に説明できる	いくつかの基本的概念を正確に説明できる	概念を列挙し、いくつか説明できる	概念を列挙できない
	性や生殖が人の健康や生活に及ぼす影響を理解し、性の健康を維持増進させる看護を考察できる	対象や環境など個別性を踏まえて看護を説明できる	対象や環境など一部個別性を踏まえて看護を説明できる	一般的な看護を説明できる	性や生殖が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解できる	性や生殖が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解できない
	性と生殖の看護領域の倫理的課題の特徴と看護者としての役割を考察できる	倫理的課題の生じやすい場面を具体的に述べ、理論や概念を正確に用いながら看護者の役割を説明できる	倫理的課題の生じやすい場面を述べ、理論や概念を用いながら看護者の役割を説明できる	倫理的課題の特徴と看護者としての役割を説明できる	性と生殖の看護領域の倫理的課題の特徴を説明できる	性と生殖の看護領域の倫理的課題の特徴を説明できない

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	性の概念 性と生殖の看護の対象・目標	性、ジェンダー、セクシャリティ、性の健康 Reproductive Health/rights Sexuality	講義	事前学習；教科書の該当する部分を読んでくる	菊地
2	多様な性	性自認、性指向、性の多様性を踏まえた看護	講義	事前学習；教科書の該当する部分を読んでくる	菊地
3	性被害	性被害の実態、性被害を予防する看護	講義	事前学習；教科書の該当する部分を読んでくる	菊地
4	不妊・避妊	避妊、家族計画、不妊治療に対する看護	講義	事前学習；教科書の該当する部分を読んでくる	菊地
5	性感染症	性感染症、性感染症の予防と看護	講義	事前学習；教科書の該当する部分を読んでくる	菊地
6	性の健康を高める看護	性教育、プレコンセプションケア	講義	事前学習；教科書の該当する部分を読んでくる 事後学習；レポート	菊地

7	障がいや疾患をもつ人の性と生殖の看護	障がいとセクシャリティ、妊孕性に影響を及ぼす疾患や治療とセクシャリティ	講義	事前学習；教科書の該当する部分を読んでくる	菊地
8	リプロダクティブヘルスに関する倫理	リプロダクティブヘルスに関する倫理的課題と看護	講義	事前学習；教科書の該当する部分を読んでくる	菊地

日付

6.11.22 (金) 4
6.11.29 (金) 4
6.12. 6 (金) 4・5
6.12.13 (金) 4
6.12.20 (金) 4
7.1.10 (金) 4
7.1.24 (金) 4

教科書	ナーシンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 最新版
参考書	必要時、授業で随時提示します
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菊地圭子：kkikuchi@yachts.ac.jp（研究室20）
備考	

授業科目	周産期生活支援学	科目英語表記	Midwifery Diagnosis Of Pregnancy		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 恵子				
科目責任者氏名	遠藤 恵子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	・妊婦・胎児とその家族の健康状態の診断と援助に必要な基本的な知識と技術を講義と演習により教授し、助産師に必要なマタニティケア能力を涵養する。				
到達目標	1. 妊娠経過に伴う妊婦・胎児の健康状態の変化や影響要因を説明できる。 2. 模擬事例を用い、妊婦家族胎児の情報を収集し、健康状態の診断と今後の経過の予測、妊娠経過をふまえた助産計画を立案、健康的な生活を維持し、分娩・育児に向けた準備を促進するための援助ができる。 3. 適切で充実した看護ケアを目指し、準備することができる。				
成績評価方法	筆記試験（30%）；到達目標1を評価する 演習提出物（50%）演習への参加状況（20%）；到達目標2、3を評価する				
成績評価基準	到達目標1 妊娠経過に伴う妊婦・胎児の健康状態の変化や影響要因について特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に具体的に説明できる。 優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 良好である；根拠をふまえて、論理的に説明できる。 最低限の到達；根拠は不十分だが、ある程度論理的に説明できる。 目標に達していない；説明できない。 到達目標2、3 A；適切な方法で情報収集、十分で適切なアセスメント、適切で充実したケアが実施できるように実行可能な計画を立案し、実践できる。 B；情報収集、アセスメント、実行可能な計画立案はおおむね適切で、実践できる。 C；情報収集、アセスメント、計画立案できるが、不十分。 D；情報収集、アセスメント、計画立案するが、一貫性・整合性がない。 F；情報収集、アセスメント、計画立案ができない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	妊娠期の助産ケア	妊娠期の助産ケアの特徴、妊婦健康診査、助産過程	講義	事後学習；妊婦健康診査の目的と内容、妊娠初期に収集すべき情報と初期に収集する理由、正常と異常の基準、異常の場合他に収集すべき情報についてレポート作成	遠藤
2	妊娠期の助産過程① 妊娠初期①	妊娠10週の妊婦のアセスメントと助産診断	講義 演習 事例のアセスメントを個人作業、その後討議	アセスメント・診断の再考と修正 次回妊婦健診受診時の目標・計画立案	遠藤
3	妊娠期の助産過程② 妊娠12週の妊婦健診	妊娠12週の妊婦健診を受診する妊婦に対する助産計画	助産過程演習（グループワーク、全体討議）	助産計画の再考と修正	遠藤
4	妊婦健康診査における観察や検査の技術①	妊婦健康診査の観察技術	モデルやシミュレーターを用いた演習	事前学習；テキストの胎児の発育の診断、産婦人科ガイドライン：C Q 106-2-3-4を理解する。	前田
5	妊婦健康診査における観察や検査の技術②	超音波検査の技術	モデルやシミュレーターを使用した演習	事後学習；超音波検査を用いた妊婦健康診査とその支援について整理する	前田
6	妊娠期の助産過程③ 妊娠中期①	妊娠16週の妊婦のアセスメント	助産過程演習、個人作業、グループワーク、討議	アセスメントの再考、修正 妊婦健診受診時の助産計画立	遠藤

				案 貧血に関するレポート	
7	妊娠期の助産過程④ 妊娠中期②	妊娠16週の妊婦に対する助産 計画	助産計画立案、個人作業、グ ループワーク、討議	助産計画の再考、修正	遠藤
8	妊娠期の保健指導	妊娠経過に伴う保健指導、保 健指導案作成	講義	体重コントロールについて保 健指導案の作成	遠藤
9	妊娠期の助産過程⑤ 妊娠中期③	妊婦の個別性をふまえ、行動 変容につなげる保健指導	ロールプレイ、討議	保健指導案の再考、修正 妊娠27週の妊婦のアセスメン ト、計画立案	遠藤
10	妊娠期の助産過程⑥ 妊娠中期④	妊娠27週の妊婦に対する助産 過程 アセスメント・保健指導	ロールプレイ、グループワー ク、討議	助産過程の再考・修正	遠藤
11	妊娠期、授乳期にお ける薬理	妊娠期・授乳期における薬理 薬理作用、禁忌	講義	事後学習	蓬田
12	分娩準備教育①	出産育児用品、親役割準備	講義	分娩準備教育の指導案作成	遠藤
13	分娩準備教育②	妊婦と家族を対象とした分娩 準備教育	ロールプレイ、討議	指導案の再考、修正	遠藤
14	妊娠中に起こる異常	妊娠中に起こる異常、病態、 検査、治療	講義	復習	スポット；佐藤文彦
15	講義全体のまとめ	授業全体の振り返り、筆記試 験	講義、討議		遠藤

日付

6.4. 8 (月) 2・3
6.4.15 (月) 3
6.4.22 (月) 1・2
6.5.13 (月) 3
6.5.20 (月) 3
6.6. 3 (月) 4
6.6.10 (月) 3
6.6.17 (月) 3
6.6.24 (月) 3
6.7. 1 (月) 3
6.7. 8 (月) 3
6.7.22 (月) 3

教科書	森恵美編：助産師基礎教育テキスト第4巻，妊娠期の診断とケア,日本看護協会出版会,2023年版. 日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会：産婦人科診療ガイドライン 産科編2023.
参考書	授業内で紹介します。
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	看護3
先修条件指定 科目	非該当
先修条件指定 科目において あらかじめ修 得しておかな ければならな い科目	該当
実務経験のある 教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	遠藤恵子：研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	助産師国家試験受験資格に必須の科目です。

授業科目	分娩期助産方法論	科目英語表記	Midwifery : Care of Birth		
職名、担当教員氏名	助教 前田のぞみ 教授 菊地 圭子 教授 中村 康香 助教 渡邊 礼子 教授 遠藤 恵子				
科目責任者氏名	前田 のぞみ				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	分娩期にある女性の身体的、心理・社会的変化を学修する。女性とその家族が安心して正常な出産を迎えられるために必要な助産の知識・技術を学修する。 分娩経過中に正常からの逸脱の可能性を早期発見し、適切な医療を提供するために必要な知識と、ハイリスク分娩の看護について学修する。				
到達目標	1.分娩が母体・胎児におよぼす影響を説明できる。 2.正常な分娩期の助産診断を説明し、助産過程を展開できる。 3.正常な分娩助産法の知識と技術を安全・安楽に配慮して、実施できる。 4.分娩を正常に経過させる援助や産婦の産む力を引き出す支援について説明できる。 5.分娩期の異常の病態生理、管理、治療、ハイリスク状態にある産婦の助産ケアについて説明できる。				
成績評価方法	筆記試験 40%：到達目標1.2.3.4.5を評価 演習提出物 30%：到達目標1.2.4.5を評価 技術試験 30%：到達目標2.3.4を評価				
成績評価基準	筆記試験 特に優れている : 9割以上正しく記述されている 優れている : 8割以上正しく記述されている 良好である : 7割以上正しく記述されている 最低限の到達 : 6割以上正しく記述されている 目標に達していない: 正しい記述は6割未満 演習提出物 特に優れている : 事例を理解した適切なアセスメントであり、実行可能な助産計画を立案できる 優れている : アセスメントを踏まえた助産計画を立案できる 良好である : アセスメントと助産計画のどちらかに不十分・不適切な箇所がある 最低限の到達 : アセスメントと助産計画が一致しない内容である 目標に達していない: 期限までにアセスメントと助産計画を完成できない 技術試験 特に優れている : 分娩経過をふまえた上で、対象への安全や安楽への配慮がある分娩助産技術が、十分かつ適切にできている 優れている : 対象への安全や安楽に配慮された分娩助産技術である 良好である : 分娩助産技術と対象への安全・安楽どちらかに不適切・不十分な部分がある 最低限の到達 : 分娩助産手順が曖昧で、対象への安全・安楽への配慮ができていない 目標に達していない: 清潔・不潔が意識されておらず、誤った分娩助産手順である				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	分娩の生理	分娩の定義と種類 分娩が母体・胎児に及ぼす影響	講義	事前学習：母性看護学の知識を理解する 事後学習：分娩が母体・胎児に及ぼす影響を整理する	前田のぞみ
2	分娩の生理	分娩の4要素	講義	事後学習：分娩の4要素に心理が入る必要性を考察する	前田のぞみ
3	分娩の生理	分娩の4要素	講義	事後学習：分娩の4要素を整理する	前田のぞみ
4	分娩期の助産診断と産婦への支援	胎児心拍数モニタリングの判読	講義・演習	事前学習：指定テキスト「胎児心拍数モニタリング講座」の第1章、ガイドラインCQ411の内容を理解する 事後学習：胎児心拍数モニタリングについて整理する	前田のぞみ

5	分娩期の助産診断と産婦への支援	分娩期のフィジカルアセスメント 内診・破膜 胎盤の計測・観察	講義・実践演習	事後学習：分娩期のフィジカルアセスメントについて、実習で活用できるように整理する。	前田のぞみ
6	分娩期の助産診断と産婦への支援	分娩期の助産診断（入院から分娩第4期） 分娩期の助産ケア（分娩第1期から分娩第4期）	講義	事後学習：分娩期の助産診断と助産ケアについて実習で活用できるように整理する	前田のぞみ
7	助産ケアの演習	ガウン・清潔不潔 産痛緩和・分娩促進	実践演習	事前課題：担当箇所のプレゼン準備	前田のぞみ
8	助産ケアの演習	ガウン・清潔不潔 産痛緩和・分娩促進	実践演習	事後学習：産痛緩和・促進ケアについて実習で実践できるように整理する	前田のぞみ
9	分娩期の助産診断	事例① 入院～分娩第4期の事例展開	演習	事前学習：講義で配布する資料を読み、必要な知識を復習する	前田のぞみ
10	分娩期の助産診断	事例① 入院～分娩第4期の事例展開	演習	事前学習：アセスメント、計画立案	前田のぞみ
11	分娩介助法	分娩介助の手順と手技	講義	事前学習：講義で配布する資料を読み、必要な知識を確認する 事後学習：分娩介助技術の手順の目的、意義、注意点について整理する	前田のぞみ
12	分娩介助法	フリースタイル分娩	講義・実践演習	事前学習：第5巻分娩期の診断とケアテキストのp162-167までを理解する。	スポット（山口）
13	分娩介助法	フリースタイル分娩	講義・実践演習	事後学習：講義・演習の内容を整理し、フリースタイル分娩の意義について考察する	スポット（山口）
14	助産ケアの演習	分娩第1期のロールプレイ	演習	事前学習：分娩期の助産診断、助産ケアの演習を理解する	前田のぞみ
15	分娩期の助産診断	事例① 分娩予測の事例展開	演習	事前学習：配布された資料を熟読し、必要な知識を復習する 事後学習：指定された箇所のアセスメントを行い、助産ケアを考察する。必要があれば分娩予測を変更する。	前田のぞみ
16	分娩期の助産診断	事例① 分娩予測の事例展開	演習	事前学習：指定された課題を行う。 事後学習：分娩予測変更のタイミングについて検討する。	前田のぞみ
17	分娩介助法	直接分娩介助の手順と手技	実践演習	事前学習：分娩介助法講義、ガウンテクニック、清潔不潔について復習し望む。演習に向けて体調を整える。	前田、菊地、中村、渡邊、遠藤
18	分娩介助法	直接分娩介助の手順と手技	実践演習	事後学習：技術試験に向けて、メンバー協力し、対象者の安全・安楽、間接介助者との連携。分娩の経過を意識しながら練習を行う	前田、菊地、中村、渡邊、遠藤
19	分娩期の異常	娩出力・産道・娩出物の異常	講義	事前学習：テキストを指定した箇所まで理解する 事後学習：分娩の要素の異常について整理する	前田のぞみ
20	分娩期の助産診断	事例② 事例展開	演習	事前学習：講義で指定した内容を学習する	前田のぞみ
21	分娩期の助産診断	事例② 事例展開	演習	事前学習：講義で指定した内容を学習する	前田のぞみ

22	分娩期の助産診断	事例② 事例展開	演習	事前学習：講義で指定した内容を学習する	前田のぞみ
23	新生児のアセスメントとケア	出生直後の新生児処置：バイタルサイン測定と観察 新生児蘇生法	講義	事前学習：第5巻分娩期の診断とケア p175~201を熟読する 事後学習：講義の内容を演習に向けて整理する	前田のぞみ
24	新生児のアセスメントとケア	出生直後の新生児処置：バイタルサイン・観察	実践演習	事前学習：新生児蘇生法テキスト第1章・第2章を読み、演習に向けて準備する	前田のぞみ
25	新生児のアセスメントとケア	新生児蘇生法（ルーチンケア）	実践演習	事後学習：実習を意識し、出生直後のケアを技術練習する	前田のぞみ
26	分娩期の助産診断	事例③ 事例展開	演習	事前学習：講義で指定された内容を学習する	前田のぞみ
27	分娩期の助産診断	事例③ 事例展開	演習	事前学習：講義で指定された内容を学習する	前田のぞみ
28	産科手術と救急処置	急速遂娩術 産科出血 異常分娩の診断他	講義	事後学習：産科手術と救急処置の内容を整理する	スポット（堤）
29	分娩期の異常	産科処置・治療の診察介助 ハイリスク分娩における助産ケア 麻酔分娩	講義	事後学習：異常分娩、ハイリスク分娩における助産ケアについて実習で活用できるように整理する	前田のぞみ
30	助産ケアの演習	産科処置の診察介助 ハイリスク分娩における助産ケア	実践演習	事前学習：第19・29回の講義内容を理解し、異常分娩の「産婦の心理」を考察する	前田のぞみ

日付

6.4. 8(月) 2・3
6.4. 9(火) 1・2
6.4.10(水) 3
6.4.11(木) 3
6.4.15(月) 1・2
6.4.16(火) 3
6.4.17(水) 2・3
6.4.19(金) 3・4
6.4.23(火) 2・3
6.4.26(金) 3
6.5.20(月) 1・2
6.5.21(火) 3・4
6.5.27(月) 1
6.5.28(火) 1・2・3
6.5.29(水) 3
6.5.31(金) 1・2
6.6.14(金) 1・2・3

教科書	<p>町浦美智子責任編集：助産師基礎教育テキスト第5巻分娩期の診断とケア,日本看護協会出版会,2024. 小林康江責任編集：助産師基礎教育テキスト第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア,日本看護協会出版会,2024. 日本産婦人科学会編集：産婦人科診療ガイドライン産科編2023,日本産科婦人科学会. 藤森敬也：胎児心拍数モニタリング講座,改訂4版,メディカ出版,2021. 細野茂春：日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト,第4版メジカルビュー社,2021. ◎武谷雄二監修：プリンシプル産科婦人科学②,第3版,メジカルビュー社,2014. ◎綾部琢哉,板倉敦夫：標準産科婦人科学,第5版,医学書院,2021. 上記◎印テキストのどちらかを各自で選択</p>
参考書	<p>仁志田博司：新生児学入門,第5版,医学書院,2018. 楠田聡：新生児学テキスト第1版,メディカ出版2018. 河野寿夫：ベッドサイドの新生児の診かた 第3版,南山堂2016. 照井克生：硬膜外無痛分娩 安全に行うために第4版,南山堂,2022. 福井トシ子編：新版 助産師業務要覧Ⅰ 基礎編第3版,日本看護協会出版会, 2023. 福井トシ子編：新版 助産師業務要覧Ⅱ 実践編第3版, 日本看護協会出版会, 2023. 福井トシ子編：新版 助産師業務要覧Ⅲ アドバンス編第3版, 日本看護協会出版会, 2023. *その他周産期、助産学関連の専門書、専門雑誌、視聴覚教材等を積極的に活用すること。</p>
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3/看護7

先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp
備考	<p>本科目は助産学実習とつながっており、講義で作成する演習記録は実習で活用します。自分で考えて実践する形式で講義が進行しますので、各自、十分な講義準備をして積極的に参加してください。</p> <p>分娩介助技術の習得には、練習を積み重ねる必要があります。よりよい分娩介助のために学生同士、意見交換を行いながら、協力して練習を行ってください。</p> <p>助産師国家試験受験資格に必須の科目です。</p>

授業科目	産褥期助産方法論		科目英語表記	Midwifery : Care of Childrearing																																
職名、担当教員氏名	教授 菊地 圭子 助教 渡邊 礼子 教授 中村 康香 助教 前田のぞみ 教授 遠藤 恵子																																			
科目責任者氏名	菊地 圭子																																			
学内連絡教員氏名																																				
学科／分野	看護学科	学年	4年																																	
科目区分	専門	必修・選択の別	選択																																	
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位																															
授業概要	褥婦・新生児とその家族の健康状態や生活、役割適応の診断と援助に必要な知識と技術を講義と演習により教授し、助産師に必要な産褥・新生児期の実践能力を涵養する。																																			
到達目標	1. 褥婦・新生児の健康状態や生活、役割適応状態をアセスメント・診断し、助産計画を立案できる。 2. シミュレーターや模擬対象者に対し、安全や安楽に配慮した適切な方法で援助を実施できる。 3. 演習を通して褥婦と家族のセルフケア能力や育児能力、親役割意識を高めるための効果的な援助方法を考察できる。 4. 産褥・新生児期の助産ケアに必要な医学的知識、検査、処置を説明できる。 5. 新生児医療における倫理的課題について自分の考えを考察できる。 6. 分娩産褥期助産実習に向けた自己の現状を分析し、課題の克服に向けた方策を考察できる。																																			
成績評価方法	筆記試験；30% 到達目標1と4を評価 授業内のレポート・提出物；40% 到達目標1、3、5、6を評価 演習の実践・参加状況；30% 到達目標2を評価																																			
成績評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標</th> <th>特に優れている</th> <th>優れている</th> <th>良好である</th> <th>最低限の到達</th> <th>目標に達していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>褥婦・新生児の健康状態や生活、役割適応状態をアセスメント・診断し、助産計画を立案できる</td> <td>適切にアセスメント・診断し、対象者の個別性をふまえた助産計画を記述できる</td> <td>適切にアセスメント・診断し、対象者の個別性を一部ふまえた助産計画を記述できる</td> <td>概ね適切にアセスメント・診断し、助産計画を記述できる</td> <td>アセスメント・診断し、助産計画を記述できる</td> <td>アセスメント・診断、助産計画が記述できない</td> </tr> <tr> <td>シミュレーターや模擬対象者に対し、安全や安楽に配慮した適切な方法で援助を実施できる</td> <td>安全や安楽に十分配慮し、対象者に合った適切な方法で援助を実施できる</td> <td>安全や安楽に十分配慮し、適切な方法で援助を実施できる</td> <td>安全や安楽に概ね配慮し、概ね適切な方法で援助を実施できる</td> <td>安全や安楽に最低限配慮して援助を実施できる</td> <td>安全や安楽に配慮できない</td> </tr> <tr> <td>演習を通して褥婦と家族のセルフケア能力や育児能力、親役割意識を高めるための効果的な援助方法を考察できる</td> <td>演習体験と関連させて、効果的な援助方法を複数の視点から根拠をふまえて十分説明できる</td> <td>演習体験と関連させて、効果的な援助方法を複数の視点から説明できる</td> <td>演習体験と関連させて効果的な援助方法を説明できる</td> <td>効果的な援助方法を説明できる</td> <td>効果的な援助方法が記述できない</td> </tr> <tr> <td>産褥・新生児期の助産ケアに必要</td> <td>十分正しく説明できる</td> <td>正しく説明できる</td> <td>概ね説明できる</td> <td>不正確な部分も含まれるが説明でき</td> <td>説明できない</td> </tr> </tbody> </table>						到達目標	特に優れている	優れている	良好である	最低限の到達	目標に達していない	褥婦・新生児の健康状態や生活、役割適応状態をアセスメント・診断し、助産計画を立案できる	適切にアセスメント・診断し、対象者の個別性をふまえた助産計画を記述できる	適切にアセスメント・診断し、対象者の個別性を一部ふまえた助産計画を記述できる	概ね適切にアセスメント・診断し、助産計画を記述できる	アセスメント・診断し、助産計画を記述できる	アセスメント・診断、助産計画が記述できない	シミュレーターや模擬対象者に対し、安全や安楽に配慮した適切な方法で援助を実施できる	安全や安楽に十分配慮し、対象者に合った適切な方法で援助を実施できる	安全や安楽に十分配慮し、適切な方法で援助を実施できる	安全や安楽に概ね配慮し、概ね適切な方法で援助を実施できる	安全や安楽に最低限配慮して援助を実施できる	安全や安楽に配慮できない	演習を通して褥婦と家族のセルフケア能力や育児能力、親役割意識を高めるための効果的な援助方法を考察できる	演習体験と関連させて、効果的な援助方法を複数の視点から根拠をふまえて十分説明できる	演習体験と関連させて、効果的な援助方法を複数の視点から説明できる	演習体験と関連させて効果的な援助方法を説明できる	効果的な援助方法を説明できる	効果的な援助方法が記述できない	産褥・新生児期の助産ケアに必要	十分正しく説明できる	正しく説明できる	概ね説明できる	不正確な部分も含まれるが説明でき	説明できない
到達目標	特に優れている	優れている	良好である	最低限の到達	目標に達していない																															
褥婦・新生児の健康状態や生活、役割適応状態をアセスメント・診断し、助産計画を立案できる	適切にアセスメント・診断し、対象者の個別性をふまえた助産計画を記述できる	適切にアセスメント・診断し、対象者の個別性を一部ふまえた助産計画を記述できる	概ね適切にアセスメント・診断し、助産計画を記述できる	アセスメント・診断し、助産計画を記述できる	アセスメント・診断、助産計画が記述できない																															
シミュレーターや模擬対象者に対し、安全や安楽に配慮した適切な方法で援助を実施できる	安全や安楽に十分配慮し、対象者に合った適切な方法で援助を実施できる	安全や安楽に十分配慮し、適切な方法で援助を実施できる	安全や安楽に概ね配慮し、概ね適切な方法で援助を実施できる	安全や安楽に最低限配慮して援助を実施できる	安全や安楽に配慮できない																															
演習を通して褥婦と家族のセルフケア能力や育児能力、親役割意識を高めるための効果的な援助方法を考察できる	演習体験と関連させて、効果的な援助方法を複数の視点から根拠をふまえて十分説明できる	演習体験と関連させて、効果的な援助方法を複数の視点から説明できる	演習体験と関連させて効果的な援助方法を説明できる	効果的な援助方法を説明できる	効果的な援助方法が記述できない																															
産褥・新生児期の助産ケアに必要	十分正しく説明できる	正しく説明できる	概ね説明できる	不正確な部分も含まれるが説明でき	説明できない																															

	要な医学的知識、検査、処置を説明できる				る	
	新生児医療における倫理的課題について自分の考えを考察できる	十分な根拠をふまえて自分の考えを十分説明できる	根拠をふまえて自分の考えを説明できる	一部根拠をふまえて自分の考えを説明できる	自分の考えを記述できる	自分の考えを記述できない
	分娩産褥期助産実習に向けた自己の現状を分析し、課題の克服に向けた方策を考察できる	自己の現状を十分分析し、課題の克服に向けた具体的で実行可能な方策を考察できる	自己の現状を十分分析し、課題の克服に向けた概ね具体的で実行可能な方策を考察できる	やや具体性、実行可能性に欠けるが、自己の現状を分析し、課題の克服に向けた方策を考察できる	かなり具体性や実行可能性に欠けるが、自己の現状を概ね分析し、課題の克服に向けた方策を考察できる	自己の現状分析と課題の克服に向けた方策が考察できない

授業計画						
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員	
1	産褥・新生児期助産過程展開演習①	産褥・新生児期の紙上事例のアセスメント・診断・助産計画立案	講義、グループディスカッション	事前学習；事例を読み込み、アセスメントを行う 事後学習；アセスメント、診断、助産計画を見直し、次の事例のアセスメント、診断、助産計画を考える 演習の計画案を立案する	菊地	
2	家族計画・受胎調節	産後の家族計画の意義と動向 受胎調節法の実際（各種避妊法）	講義	事前学習；既習事項の復習	菊地	
3	産褥・新生児期助産過程展開演習②	産褥・新生児期の紙上事例のアセスメント・診断・助産計画立案	グループディスカッションやロールプレイ	事前学習；事例を読み込み、アセスメントを行う 事後学習；アセスメント、診断、助産計画を見直し、次の事例のアセスメント、診断、助産計画を考える	菊地	
4	産褥期の身体的課題と運動療法	姿勢の変化、妊産褥婦の身体症状とその対応、妊娠中や産後にできるトレーニング	講義・演習	事前学習；既習事項の復習	スポット (永瀬)	
5	産褥・新生児期助産過程展開演習③	産褥・新生児期の紙上事例のアセスメント・診断・助産計画立案	グループディスカッションやロールプレイ	事前学習；事例を読み込み、アセスメントを行う 事後学習；アセスメント、診断、助産計画を見直し、次の事例のアセスメント、診断、助産計画を考える	菊地	
6	新生児期の代表的疾患と治療	胎児新生児の生理、出生後の呼吸器の適応、呼吸器疾患	講義	事前学習；既習事項の復習	スポット (饗場)	
7	新生児期の代表的疾患と治療	新生児の見落としてはいけない異常所見とその対応 なんとなく元気がない、異常な顔貌と小奇形、外性器の異常、黄疸、チアノーゼ、呼吸器障害、易刺激性および痙攣、メレナ、腹部膨満および嘔吐、心雑音	講義	事前学習；既習事項の復習	スポット (饗場)	
8	産褥・新生児期助産過程展開演習④	産褥・新生児期の紙上事例のアセスメント・診断・助産計画立案	グループディスカッションやロールプレイ	事前学習；事例を読み込み、アセスメントを行う 事後学習；アセスメント、診断、助産計画を見直し、次の事例のアセスメント、診断、助産計画を考える	菊地	

9	地域における母乳育児支援の実際	乳汁分泌・産生を促進する援助技術 直接授乳の援助技術 褥婦の身体的ケア	講義・演習	事前学習；母乳育児に関する既習の知識・技術の復習	スポット (齋藤)
10	地域における母乳育児支援の実際	乳汁分泌・産生を促進する援助技術 直接授乳の援助技術 褥婦の身体的ケア	講義・演習	事前学習；母乳育児に関する既習の知識・技術の復習	スポット (齋藤)
11	超音波断層法による健康診査	妊娠初期正常像、双胎、異常妊娠中後期正常像、異常胎児、胎盤の奇形 産褥期	講義	事前学習；助産師基礎教育テキスト4 妊娠期の診断とケアの「超音波断層法」の記述を読んでくる	スポット (大貫)
12	産褥・新生児期助産過程展開演習⑤	産褥・新生児期の紙上事例の アセスメント・診断・助産計画立案	グループディスカッションや ロールプレイ	事前学習；事例を読み込み、アセスメントを行う 事後学習；アセスメント、診断、助産計画を見直し、次の事例のアセスメント、診断、助産計画を考える	菊地
13	産褥・新生児期助産過程展開演習⑥	産褥・新生児期の紙上事例の アセスメント・診断・助産計画立案	グループディスカッションや ロールプレイ	事前学習；事例を読み込み、アセスメントを行う 事後学習；アセスメント、診断、助産計画を見直し、次の事例のアセスメント、診断、助産計画を考える	菊地
14	母乳育児支援のスタンダード	母乳育児支援の基本となる知識・技術	講義・演習	事前学習；母乳育児に関する既習の知識・技術の復習	スポット (山田)
15	母乳育児支援のスタンダード	母乳育児支援の基本となる知識・技術	講義・演習	事前学習；母乳育児に関する既習の知識・技術の復習	スポット (山田)
16	産褥・新生児期助産過程展開演習⑦	産褥・新生児期の紙上事例の アセスメント・診断・助産計画立案	グループディスカッションや ロールプレイ	事前学習；事例を読み込み、アセスメントを行う 事後学習；アセスメント、診断、助産計画を見直し、次の事例のアセスメント、診断、助産計画を考える	菊地
17	産褥・新生児期助産過程展開演習⑧	事前学習；事例を読み込み、アセスメントを行う 事後学習；アセスメント、診断、助産計画を見直し、次の事例のアセスメント、診断、助産計画を考える	グループディスカッションや ロールプレイ	事前学習；事例を読み込み、アセスメントを行う 事後学習；アセスメント、診断、助産計画を見直し、次の事例のアセスメント、診断、助産計画を考える	菊地
18	産褥・新生児期の助産技術	産褥・新生児期の情報収集やアセスメントに必要な技術、援助技術	演習	事前学習；母性看護技術の復習	菊地 渡邊
19	産褥・新生児期の助産技術	産褥・新生児期の情報収集やアセスメントに必要な技術、援助技術	演習	事前学習；母性看護技術の復習	菊地 渡邊
20	褥婦のセルフケアと育児能力、親役割意識を高める援助	褥婦と家族に対する保健指導技術	ロールプレイ演習	事前学習；立案した指導案にもとづき、模擬対象者に効果的な保健指導が実施できるよう練習する 事後学習；レポート作成	菊地、渡邊、中村、前田、遠藤
21	褥婦のセルフケアと育児能力、親役割意識を高める援助	褥婦と家族に対する保健指導技術	ロールプレイ演習	事前学習；立案した指導案にもとづき、模擬対象者に効果的な保健指導が実施できるよう練習する 事後学習；レポート作成	菊地、渡邊、中村、前田、遠藤
22	会陰裂傷/会陰切開 会陰裂傷縫合術	会陰裂傷縫合術の実際	講義・演習	事前学習；助産師基礎教育テキスト7ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケアの「会陰縫合術」の記述を読んでくる	スポット (杉山) 菊地
23	産褥・新生児期助産過程展開演習⑨	産褥・新生児期の紙上事例の まとめ 褥婦と家族に対する保健指導 技術演習のまとめ	産褥・新生児期の紙上事例の まとめ 褥婦と家族に対する保健指導 技術演習のまとめ	事前学習；これまでの課題を整理する 事後学習；授業をふまえて課題を最終的に整理する	菊地

24	ハイリスク新生児の成長・発達を支える看護	NICU/GCUにおける新生児への援助、分離状態にある母子と家族への援助、ディベロップメンタルケア	講義	事前学習；助産師基礎教育テキスト7ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケアのうち、授業内容に関連する部分を読んでくる	スポット (植松)
25	新生児医療における倫理的課題	重篤な疾患をもつ新生児の家族と医療スタッフの話し合いパターンリズム	講義・演習	事前学習；事前に配布される資料を熟読する 事後学習；レポートを作成する	スポット (饗場) 菊地
26	新生児医療における倫理的課題	重篤な疾患をもつ新生児の家族と医療スタッフの話し合いパターンリズム	講義・演習	事前学習；事前に配布される資料を熟読する 事後学習；レポートを作成する	スポット (饗場) 菊地
27	新生児医療における倫理的課題 新生児蘇生法講習会 (Bコース)	講義・演習 日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法普及事業小委員会公認の新生児蘇生法(NCPR)講習会 講義前試験/講義・実技/認定試験	講義・演習	事前学習；「日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト」を各自準備し、予習する	スポット (饗場)
28	新生児医療における倫理的課題 新生児蘇生法講習会 (Bコース)	講義・演習 日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法普及事業小委員会公認の新生児蘇生法(NCPR)講習会 講義前試験/講義・実技/認定試験	講義・演習	事前学習；「日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト」を各自準備し、予習する	スポット (饗場)
29	新生児医療における倫理的課題 新生児蘇生法講習会 (Bコース)	講義・演習 日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法普及事業小委員会公認の新生児蘇生法(NCPR)講習会 講義前試験/講義・実技/認定試験	講義・演習	事前学習；「日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト」を各自準備し、予習する	スポット (饗場)
30	新生児医療における倫理的課題 新生児蘇生法講習会 (Bコース)	講義・演習 日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法普及事業小委員会公認の新生児蘇生法(NCPR)講習会 講義前試験/講義・実技/認定試験	講義・演習	事前学習；「日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト」を各自準備し、予習する	スポット (饗場)

日付

6.4. 8(月)4・5
6.4.10(水)1・2・4
6.4.11(木)2
6.4.12(金)3
6.4.15(月)3
6.4.16(火)4
6.4.17(水)1
6.4.18(木)34
6.4.22(月)12
6.4.23(火)4
6.4.24(水)234
6.4.25(木)1234
6.6. 3(月)4
6.6. 4(火)4
6.6.11(火)34
第27～30回 後日連絡

教科書	教科書 最新版を購入すること 江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト，産褥期のケア 新生児期・乳児期のケア，日本看護協会出版会。 小林康江編：助産師基礎教育テキスト，ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア，日本看護協会出版会。 NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会：母乳育児支援スタンダード第2版，医学書院。
参考書	参考図書 ◎水野克己，水野紀子：母乳育児支援講座改定2版，南山堂。 ◎仁志田博司：新生児学入門，医学書院。

	<p>◎河野寿夫編：ベッドサイドの新生児の診かた改定3版，南山堂。</p> <p>◎UNICEF/WHO：赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイドベーシックコース「母乳育児成功のための10か条」の実践，医学書院。「助産雑誌」「ネオネイタルケア」「周産期医学」などの専門雑誌も活用して下さい。</p>
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菊地：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp 渡邊：第1共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 中村：研究室2 ynakamura@yachts.ac.jp 前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp 遠藤：研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	<p>妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に関わる既習の知識・技術を十分理解し、習得していることが必要です。必ず予習復習してください。演習にあたっては、講義以外の時間で準備や自己学習が必要です。短期間で多くの課題提出があります。学内の教材や図書、AV教材などを積極的に活用して主体的に計画的に学習してください。</p> <p>講義日程が変更となる場合があります。随時連絡しますのでアナウンスに留意してください。</p> <p>助産師国家試験受験資格に必須の科目です。</p>

授業科目	助産システム論	科目英語表記	Midwifery Management		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 恵子 教授 中村 康香				
科目責任者氏名	教授 遠藤 恵子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	母子保健に関する法制度、母子保健事業の内容と体系、地域特性をふまえた母子保健活動、保健医療福祉の連携協働のありかたを教授する。また、助産業務実践のために必要な知識として、助産師の法的責務、助産業務における労務管理、リスクマネジメント、情報管理、災害対策、施設内外の連携について教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における母子保健活動を説明できる。 2. 行政が実施する母子保健活動を理解し、医療機関と地域との効果的な連携を考察できる。 3. 地域の母子保健において、助産師としての役割を考察できる。 4. 法規に基づく助産師の責務を説明できる。 5. 周産期医療機関における助産業務管理を説明できる。 6. 助産所における助産業務管理を説明できる。 7. 周産期医療における医療事故、危機管理対策を説明できる。 8. 周産期医療における感染対策や災害対策を説明できる。 				
成績評価方法	到達目標すべてを筆記試験で評価する				
成績評価基準	<p>到達目標すべてに対して 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に具体的に説明できる。</p> <p>優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。</p> <p>良好である；根拠をふまえて、論理的に説明できる。</p> <p>最低限の到達；根拠は不十分だが、ある程度論理的に説明できる。</p> <p>目標に達していない；説明できない。</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	地域における母子保健活動	地域母子保健の意義・概念 地域における助産活動の特徴	講義、一部討議	事後学習；地域における助産師活動の理解を深める	遠藤
2	母子保健・育児支援の課題と支援の方向性	人口動態、健やか親子21	講義	事後学習；人口動態からみた母子保健の課題の理解を深める	遠藤
3	母子保健・子育て支援事業①	妊娠期の母子保健・子育て支援事業	講義	事後学習；助産学実習の受け持ち事例の状況と合わせて、子育て支援事業の必要性を考察する。	遠藤
4	母子保健・子育て支援事業②	育児期の母子保健・子育て支援事業	講義	事後学習；助産学実習の受け持ち事例の状況と合わせて、子育て支援事業の必要性を考察する。	遠藤
5	母子保健・育児支援に関する法や制度	母子保健法、児童福祉法 ほか	講義	事後学習；各法律の内容の理解を深める	遠藤
6	地域における性と生殖に関する健康に対する支援	リプロダクティブヘルス、プレコンセプションケア	講義	事後学習；地域における性と生殖に関する健康支援に対する助産師の役割を考察する	遠藤
7	住民組織の育成	妊娠期から育児期にわたる子どもの健やかな成長を見守る地域づくり	講義、討議	事後学習；授業の復習	遠藤
8	助産管理業務	助産管理の基本概念、助産業	講義	事後学習；管理業務の基本に	中村康香

		務の特性と助産管理の必要性		ついて復習し理解を深める	
9	助産管理業務の法と制度	助産業務に必要な関係法規, 社会保障制度	講義	事後学習：関連法規について講義で不十分なところについて理解を深める	中村康香
10	助産管理におけるリスクマネジメント	周産期における医療事故と産科保証制度	講義	事前/事後学習：事例から事故を予防するには何が必要か理解を深める	中村康香
11	周産期医療システム	総合周産期母子センターの機能と役割	講義	事前/事後学習：実習先の病院はどのような機能を持っているか理解を深める	総合母子センター病棟師長 (スポット)
12	災害時における周産期支援	災害対策、支援活動の実際について調査	講義	事後学習：実際の災害時における支援活動について調査しまとめる	中村康香
13	災害時における周産期支援	災害対策、支援活動の実際について発表	講義	事前学習：実際の災害時における支援活動について発表資料としてまとめる	中村康香
14	助産所の管理運営	助産所開設と運営の実際	講義	事後学習：助産所の運営について理解を深める	
15	学習状況の確認と振り返り	まとめ	筆記試験、振り返り		遠藤、中村

日付

6.4.12 (金) 3
6.4.19 (金) 3
6.4.26 (金) 3
6.5.10 (金) 3
6.5.17 (金) 3
6.5.24 (金) 3
6.5.31 (金) 3
6.6.14 (金) 3
6.6.21 (金) 3
6.6.27 (木) 4
6.7. 4 (木) 4
6.7.12 (金) 3
6.7.19 (金) 3
6.7.24 (水) 3
6.7.26 (金) 3

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護3/看護4
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤恵子：研究室20 kendo@yachts.ac.jp 中村康香
備考	助産師国家試験受験資格に必須の科目です

授業科目	地域母子保健	科目英語表記	Community Health for Women and Children		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 恵子				
科目責任者氏名	遠藤 恵子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	母子保健に関する法制度、母子保健事業の内容と体系、地域特性をふまえた母子保健活動、保健医療福祉の連携協働のありかたを教授する。				
到達目標	1. 地域における母子保健活動を説明できる。 2. 行政が実施する母子保健活動を理解し、医療機関と地域との効果的な連携を考察できる。 3. 地域の母子保健において、助産師としての役割を考察できる。				
成績評価方法	到達目標1から3の到達度を筆記試験で評価する				
成績評価基準	<p>到達目標 1</p> <p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に具体的に説明できる。 優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 良好である；根拠をふまえて、論理的に説明できる。 最低限の到達；根拠は不十分だが、ある程度論理的に説明できる。 目標に達していない；説明できない。</p> <p>到達目標 2、3</p> <p>特に優れている；適切な十分な根拠に基づき助産師の視点で具体的に記述できる。 優れている；適切な根拠に基づき助産師の視点で記述できる。 良好である；助産師の視点で記述されているが根拠が明確でない。 最低限の到達；助産師の視点で記述されているが根拠が不適切である。 目標に達していない；助産師の視点で記述されていない。</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	地域における母子保健活動	地域母子保健の意義・概念 地域における助産活動の特徴	講義、一部討議	事前学習：助産学実習を振り返り、退院後の母子の支援に必要な支援を考える	遠藤
2	母子保健・育児支援の課題と支援の方向性	人口動態、母子保健と子育て支援のこれまでの経過、健やか親子21（第2次）	講義	事後学習：地域で生活する母子とその家族を支援する助産師の役割を考察する	遠藤
3	母子保健・子育て支援事業①	妊娠期の母子保健・子育て支援事業	講義	事後学習：切れ目ない支援のために、妊娠期における医療機関と地域の助産師の連携を考察する	遠藤
4	母子保健・子育て支援事業②	育児期の母子保健・子育て支援事業	講義	事後学習：切れ目ない支援のために、育児期における医療機関と地域の助産師の連携を考察する	遠藤
5	母子保健・育児支援に関する法や制度	母子保健対策や子育て支援対策の根拠となる主な法律、母子保健法、児童福祉法	講義	事後学習：児童福祉法と母子保健法における、都道府県と市町村の役割について整理する	遠藤
6	地域における性と生殖に関する健康に対する支援	リプロダクティブヘルス、プレコンセプションケア	講義、一部討議	事後学習：リプロダクティブヘルス、プレコンセプションケアについて、助産師と他機関・他職種との連携について考察	遠藤
7	NPOによる育児支援の実際	認定特定非営利活動法人 やまがた育児サークルランドが行う育児支援	講義、NPO子育て支援活動の見学	事前学習：認定特定非営利活動法人 やまがた育児サークルランドの活動内容について情報収集	やまがた育児サークルランド 黒田真由美（予定）

8	住民組織の育成 学習状況の確認と振り返り	妊娠期から子育て期にわたる 子どもの健やかな成長を見守 る地域づくり 授業全体のまとめ 筆記試験による学習状況の確 認	筆記試験 講義	事前学習：妊娠期から子育て 期にわたる子どもの健やかな 成長を見守る地域づくりにつ いて考察	遠藤
---	-------------------------	----------------------------------------------------------------------------	------------	---------------------------------------------------------	----

日付

6.9.18 (水) 1~4

6.10.16 (水) 1~4

教科書	助産師基礎教育テキスト2024年版 第3巻 助産サービス管理、日本看護協会出版会
参考書	
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	看護3/看護4
先修条件指定 科目	非該当
先修条件指定 科目において あらかじめ修 得しておかな ければならな い科目	非該当
実務経験のあ る教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	遠藤恵子：研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	助産師国家試験受験資格に必須の科目です。

授業科目	助産管理	科目英語表記	Administration and Management of Midwifery Care		
職名、担当教員氏名	教授 中村 康香				
科目責任者氏名	中村 康香				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	助産業務実践のために必要な知識として、助産師の法的責務、助産業務における労務管理、リスクマネジメント、情報管理、災害対策、施設内外の連携について教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法規に基づく助産師の責務を説明できる。 2. 周産期医療機関における助産業務管理を説明できる。 3. 助産所における助産業務管理を説明できる。 4. 周産期医療における医療事故、危機管理対策を説明できる。 5. 周産期医療における感染対策や災害対策を説明できる。 				
成績評価方法	筆記試験 60% 到達目標1から5について、知識の理解の到達度を評価する。 レポート 20% 到達目標1から5の達成度を評価する。課題は講義内で提示する。 授業内でのプレゼンテーション20% 到達目標5の達成度を評価する。				
成績評価基準	<p>到達目標1,2,3,4,5 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる、9割以上正しく記述されている。 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる、8割以上正しく記述されている。 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる、7割以上正しく記述されている。 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる、6割以上正しく記述されている。 目標に到達していない；説明できない、正しい記述は6割未満である。</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	助産管理業務	助産管理の基本概念、助産業務の特性と助産管理の必要性	講義	事後学習：管理業務の基本について復習し理解を深める	中村康香
2	助産管理業務の法と制度	助産業務に必要な関係法規, 社会保障制度	講義	事後学習：関連法規について講義で不十分なところについて理解を深める	中村康香
3	助産管理におけるリスクマネジメント	周産期における医療事故と産科保証制度	講義	事前/事後学習：事例から事故を予防するには何が必要か理解を深める	中村康香
4	周産期医療システム	総合周産期母子センターの機能と役割	講義	事前/事後学習：実習先の病院はどのような機能を持っているか理解を深める	総合母子センター病棟師長 (スポット)
5	災害時における周産期支援	災害対策、支援活動の実際について調査	演習	事後学習：実際の災害時における支援活動について調査しまとめる	中村康香
6	災害時における周産期支援	災害対策、支援活動の実際について発表	演習	事前学習：実際の災害時における支援活動について発表資料としてまとめる	中村康香
7	助産所の管理運営	助産所開設と運営の実際	講義	事後学習：助産所の運営について理解を深める	
8	学習状況の確認(試験含む)と振り返り	学習状況の確認(試験含む)と振り返り	講義	事前学習：これまでの講義内容について理解を深める	中村康香
日付					

教科書	
参考書	母子保健の主なる統計 最新版, 母子衛生研究会 参考書: 助産師業務要覧 第4版[Ⅰ基礎編] 2024年版, 日本看護協会出版会 助産師業務要覧 第4版[Ⅱ実践編] 2024年版, 日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産概論, 日本看護協会出版会
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護5/看護6/看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	中村康香: 研究室2 ynakamura@yachts.ac.jp
備考	助産師国家試験受験資格に必須の科目です

授業科目	周産期生活支援実習	科目英語表記	Midwifery Practice:Pregnancy		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 恵子 教授 中村 康香 助教 渡邊 礼子 助教 前田のぞみ 教授 菊地 圭子				
科目責任者氏名	遠藤 恵子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	妊娠期の助産ケアの実践を通して、助産師に必要な基礎的実践能力、ヒューマンケアの基本に関する実践能力、チーム協働連携能力、自己研鑽能力を修得する。また、妊婦・胎児とその家族の健康的な生活と出産・育児準備に向け助産師が果たすべき役割と責務について考察する。さらに、助産師の役割について理解を深め、助産師としての将来像を見出す。				
到達目標	<p>(1) 妊娠期の助産に関する実践能力</p> <p>① 妊婦健康診査（以下 妊婦健診）に定められた検査計測項目を、正確な技術で観察測定できる。</p> <p>② 妊娠経過および分娩期・産褥新生児期の予測に必要な情報を、適切な方法で収集できる。</p> <p>③ 妊婦と胎児の現在の状態と今後の予測についてアセスメント、助産診断できる。</p> <p>④ 妊娠経過をふまえ、妊婦・胎児とその家族が健康的な生活を維持し、出産・育児準備および親役割準備を促進する助産計画を立案できる。</p> <p>⑤ 妊娠経過をふまえ、妊婦とその家族が健康的な生活を維持し、出産・育児準備および親役割準備を促進する援助や個別の保健指導を実施できる。</p> <p>⑥ 実施した助産過程を評価し、助産過程を総括できる。</p> <p>⑦ 外来における、分娩育児期までをみすえた助産師の役割を考察できる。</p> <p>(2) ヒューマンケアの基本に関する実践能力</p> <p>① 対象者と短時間の関わりの中で信頼関係を築く行動ができる。</p> <p>② 対象者の生活スタイルや考え方をケアに反映できる。</p> <p>③ 倫理観に基づき、学生としての立場で責任ある行動をとることができる。</p> <p>(3) チームにおける協働・連携に関する能力</p> <p>① 対象者に適切なケアが提供できるよう、指導者や教員、学生に報告・連絡・相談すべき内容と時期を判断し、行動できる。</p> <p>② 指導者や教員、学生に対し、チームの一員としてふさわしい言葉遣いや態度をとることができる。</p> <p>③ 状況に応じて、スムーズに適切な診療ができるよう、チームの一員として臨機応変に行動できる。</p> <p>(4) 実践をとおして研鑽する基本能力</p> <p>① 対象者への適切で充実したケアを目指し、計画的に知識・技術・体調の準備ができる。</p> <p>② 自分の行動を振り返り、課題の改善に向けた行動ができる。</p> <p>③ 妊娠期の助産ケアを通して、分娩期、産褥・新生児期の助産ケアに関心を高め、自分に必要な準備を考えることができる。</p>				
成績評価方法	実習態度、実習記録				
成績評価基準	<p>1. 妊娠期の助産に関する実践能力</p> <p>A：観察、情報収集、計画立案、実践、評価がすべて適切で、整合性がある。</p> <p>B：観察、情報収集、計画立案、実践、評価が概ね適切で、整合性がある。</p> <p>C：観察、情報収集、計画立案、実践、評価の一部が不適切である。</p> <p>D：観察、情報収集、計画立案、実践、評価の一部が不適切で整合性に欠ける。</p> <p>F：観察、情報収集、計画立案、実践、評価がすべて不適切である。</p> <p>2. ヒューマンケアの基本に関する実践能力</p> <p>A：倫理観を持ち、対象者の価値観を尊重し、短時間で対象者と信頼関係を築ける。</p> <p>B：倫理観を持ち、対象者の価値観を尊重し、対象者と信頼関係を築ける。</p> <p>C：倫理観はあるが、対象者と信頼関係とまではいかない。</p> <p>D：倫理観はあるが、対象者と信頼関係を築きにくい。</p> <p>F：倫理観不十分で、対象者と信頼関係を築くことができない。</p> <p>3. チームにおける協働・連携に関する能力</p> <p>A：適切な時期に適切な内容で連絡報告相談ができ、チームの一員として臨機応変に行動できる</p> <p>B：適切な時期に適切な内容で連絡報告相談ができ、チームの一員として行動できる</p> <p>C：連絡報告相談ができるが、時期や内容はやや不適切で不十分である。</p> <p>D：連絡報告相談ができるが、時期は遅れ、内容は不足している。</p> <p>F：連絡報告相談の時期は大幅に遅れ、内容が不十分</p> <p>4. 実践をとおして研鑽する基本能力</p> <p>A：適切で充実したケアを目指した、計画的に知識・技術・体調の準備と課題改善の行動ができる</p> <p>B：適切で充実したケアを目指した、知識・技術・体調の準備と課題改善の行動ができる</p> <p>C：適切で充実したケアを目指した、知識・技術・体調の準備と課題改善の行動がやや不足している</p> <p>D：適切で充実したケアを目指した、知識・技術・体調の準備と課題改善の行動がかなり不足している</p> <p>F：知識・技術・体調の準備と課題改善の行動ができない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション				事前学習 1. ①つわりの対処、②貧血予防と対処、③便秘の予防と対処、④腰痛予防と対処、⑤体重コントロール、⑥母乳育児の準備、⑦妊娠中の動静・労働、⑧分娩の近づいた徴候・入院の時期についてレポート 2. ①から⑧について保健指導計画 3. 事故の実習目標の明確化	???
実習		妊婦健診に定められた項目の検査計測 助産過程展開と個別の保健指導 妊婦や家族に対する集団の保健指導 詳細は実習要項を参照	1～2月 山形県立中央病院、山形済生病院、山形市立病院済生館のいずれかで実習 妊婦外来における実習 詳細は実習要項を参照	助産過程の展開、保健指導案の作成	遠藤恵子 中村康香 渡邊礼子 前田のぞみ 菊地圭子
日付					
7.1.20(月) ～ 7.2.14(金)					

教科書	
参考書	日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会；産婦人科診療ガイドライン産科編2023 その他、必要なものを自分で探すこと
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1／看護2／看護3／看護4／看護7
先修条件指定科目	該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）による指導の下、病院（臨床）において妊婦に対する看護過程を展開する科目です。
教員の連絡先	遠藤恵子：研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	助産師国家試験受験資格に必須の科目です

授業科目	分娩期助産実習	科目英語表記	Midwifery Practice : Care of Pregnancy		
職名、担当教員氏名	教授 菊地 圭子 助教 前田のぞみ 教授 中村 康香 助教 渡邊 礼子 教授 遠藤 恵子				
科目責任者氏名	菊地 圭子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	5単位
授業概要	分娩期にある母子とその家族に対して、分娩経過や分娩への適応状態を助産診断し、その助産診断に基づいた、正常分娩経過の維持、産婦と家族の満足かつ肯定的な出産体験に向けた援助のあり方を実習を通して教授する。				
到達目標	1. 分娩期における実践能力 ① 産婦と胎児の生理的経過および今後の分娩経過の予測に必要な情報を適切な方法で収集できる。 ② 産婦と胎児の状態と今後の予測についてアセスメント、助産診断できる。 ③ 分娩期にある対象者の個性と分娩経過をふまえた助産計画を立案できる。 ④ 助産計画に基づき、分娩を正常に経過させる援助や産婦の産む力を引き出す援助、原理に基づいた安全・安楽な分娩期の援助ができる。 ⑤ 助産計画に基づいた援助実践を評価し、分娩進行や対象者の状況の変化に応じて、助産計画を適宜修正できる。 ⑥ 正常分娩経過において安全に分娩介助ができる。 ⑦ 良好な母子関係成立、家族関係成立を促す援助ができる。 ⑧ 異常の発生予防と早期発見ができ、発生時の救急処置等、危険回避行動における助産ケア、助産師の役割について考察できる。 2. ヒューマンケアの基本に関する実践能力 ① 対象者の価値観を把握し助産ケアに反映できる。 ② 対象者と意思疎通を重ね信頼関係を築くための行動がとれる。 ③ 倫理観に基づき、学生としての立場で責任ある行動がとれる。 3. チームにおける協働・連携に関する能力 ① チームの一員であることを自覚し、指導者や教員に時機を逃さず報告・連絡・相談できる。 ② チームの状況を理解し、時間的感覚をもって行動し、チームメンバーと適切なコミュニケーションを図って協働・連携できる。 4. 実践を通して研鑽する基本能力 ① 対象者への適切で充実した助産ケアを目指し、知識・技術・体調の準備ができる。 ② 自分の行動を振り返り、課題を明らかにし、改善に向けた行動ができる。 ③ 分娩・産褥期の援助を通して、健康な妊娠・出産・育児に向けた支援や助産師の役割を考察できる。				
成績評価方法	到達目標16項目の到達度について、以下の方法で評価する。 分娩期の助産過程の実践状況と実習記録について、分娩期助産実習評価表を用いて、実習終了時点で評価する。				
成績評価基準	1. 分娩期における実践能力 A；情報収集、計画立案、実践、評価がすべて適切で、一貫性がある。 B；情報収集、計画立案、実践、評価が概ね適切で、一貫性がある。 C；情報収集、計画立案、実践、評価の一部が不適切である。 D；情報収集、計画立案、実践、評価が一部が不適切で整合性に欠ける。 F；情報収集、計画立案、実践、評価がすべて適切である。 2. ヒューマンケアの基本に関する実践能力 A；倫理観を持ち、対象者の価値観を尊重し、どの対象者とも安定した信頼関係を築ける。 B；倫理観を持ち、対象者の価値観を尊重し、対象者と信頼関係を築ける。 C；倫理観、対象者の価値観の尊重、対象者との信頼関係のいずれかがやや欠ける。 D；倫理観、対象者の価値観の尊重、対象者との信頼関係のすべてがやや欠ける。 F；倫理観、対象者の価値観の尊重、対象者との信頼関係がすべて欠ける。 3. 看護チームにおける協働・連携に関する能力 A；周りの状況を十分捉え、適切な時機に適切な内容で連絡報告相談ができ、チームの一員として臨機応変に行動できる。 B；適切な時機に適切な内容で連絡報告相談ができ、チームの一員として行動できる。 C；必要な連絡報告相談はできるが、時機や内容の適切さ、十分さに欠ける。 D；最低限の連絡報告相談はできるが、時機や内容の適切さ、十分さに欠ける。 F；連絡報告相談ができない。 4. 実践を通して研鑽する基本能力 A；自己の成長と課題、向上・改善のための具体策を見出して実行し、十分な成果をあげている。 B；自己の成長と課題、向上・改善のための具体策を見出して概ね実行し、成果をあげている。 C；自己の成長と課題、向上・改善のための方策がやや具体性と適切さに欠けるが、一部を実行し成果をあげている。 D；自己の成長と課題、向上・改善のための方策がかなり具体性と適切さに欠けるが、一部を実行し成果をあげている。 F；自己の成長と課題、向上・改善のための方策を見出すことができない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	実習オリエンテーション	実習要項を用いて、以下を説明する 1.実習の目的・目標 2.実習方法・内容 3.実習記録 4.実習における留意点等	説明・グループワーク	事前に実習要項を熟読して参加すること	菊地 前田 中村 渡邊 遠藤
実習	分娩期の助産過程の展開 正常分娩介助	・分娩期の産婦、胎児および家族に関する助産過程を展開する。 ・正常経過にある産婦の分娩介助を行う。 実習場所 県立中央病院、県立新庄病院、山形済生病院、米沢市立病院、公立置賜総合病院、日本海総合病院、山形市立病院済生館 実習内容、実習方法、実習配置の詳細は、助産学実習要項に提示する。	臨地実習	事前学習； ・対象者への安全でよりよいケアのため、知識・技術・体調の準備を十分にして実習に臨む。 事後学習； ・適切な助産ケアが提供できるよう、自分自身が行ったケアに対する対象者の言語的・非言語的反応をもとに、振り返りを適切に速やかに行う。 ・記録のまとめを期日までに進行。	菊地 前田 中村 渡邊 遠藤
日付					
6.6.24(月) ～ 6.8.9(金)					

教科書	助産学に関連する授業で使用した参考書など、必要なものを自分で準備する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護2/看護3/看護4/看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師、助産師等）の指導の下、病院（臨床）において分娩期の妊婦に対して看護過程を展開する科目です。
教員の連絡先	菊地：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp 前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp 中村：研究室2 ynakamura@yachts.ac.jp 渡邊：第2共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 遠藤：研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	助産師国家試験受験資格に必須の科目です

授業科目	分娩産褥期助産実習	科目英語表記	Midwifery Practice : Care of Birth and Delivery		
職名、担当教員氏名	教授 菊地 圭子 助教 前田のぞみ 教授 中村 康香 助教 渡邊 礼子 教授 遠藤 恵子				
科目責任者氏名	菊地 圭子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	分娩期にある母子とその家族に対して、分娩経過や分娩への適応状態を助産診断し、その助産診断に基づいた、正常分娩経過の維持、産婦と家族の満足かつ肯定的な出産体験に向けた援助のあり方を実習を通して教授する。また、産褥・新生児期の継続受け持ち実習を通して、産婦と新生児、その家族に対する助産過程の展開、正常な産褥期・新生児期経過の維持・促進、親役割獲得、親子・家族関係形成に向けた援助のあり方を教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 分娩期における実践能力 <ol style="list-style-type: none"> 産婦と胎児の生理的経過および今後の分娩経過の予測に必要な情報を適切な方法で収集できる。 産婦と胎児の状態と今後の予測についてアセスメント、助産診断できる。 分娩期にある対象者の個性と分娩経過をふまえた助産計画を立案できる。 助産計画に基づき、分娩を正常に経過させる援助や産婦の産む力を引き出す援助、原理に基づいた安全・安楽な分娩期の援助ができる。 助産計画に基づいた援助実践を評価し、分娩進行や対象の状況の変化に応じて、助産計画を適宜修正できる。 正常分娩経過において安全に分娩介助ができる。 良好な母子関係成立、家族関係成立を促す援助ができる。 異常の発生予防と早期発見ができ、発生時の救急処置等、危険回避行動における助産ケア、助産師の役割について考察できる。 産褥・新生児期における実践能力 <ol style="list-style-type: none"> 分娩期までの経過や助産過程の評価を踏まえ、分娩後速やかに産婦の心身社会的経過と正常からの逸脱、育児技術習得、育児生活への適応、母乳育児、母子関係成立の状態と予測についてアセスメント、助産診断できる。 出生までの経過や助産過程の評価を踏まえ、出生後速やかに新生児の胎外生活への生理的適応と正常からの逸脱、成長・発達の経過と予測についてアセスメント、助産診断できる。 産褥・新生児およびその家族の家庭生活や産婦と家族の育児への意向を踏まえた個性のある助産計画を立案できる。 助産計画に基づき、対象者に合わせた適切で安全な手技・手法を用いて援助ができる。 実施した援助を適切に評価し、助産計画を適宜修正できる。 産褥・新生児およびその家族が生活する地域社会の資源や制度を対象者自身が活用できるよう援助できる。 対象者の個性をふまえた効果的な保健指導を計画・実践できる。 異常の発生予防と早期発見ができ、正常経過からの逸脱時における助産ケア、助産師の役割について考察できる。 ヒューマンケアの基本に関する実践能力 <ol style="list-style-type: none"> 対象者の価値観を把握し助産ケアに反映できる。 対象者と意思疎通を重ね信頼関係を築くための行動がとれる。 倫理観に基づき、学生としての立場で責任ある行動がとれる。 看護チームにおける協働・連携に関する能力 <ol style="list-style-type: none"> チームの一員であることを自覚し、指導者や教員に時機を逃さず報告・連絡・相談できる。 チームの状況を理解し、時間的感覚をもって行動し、チームメンバーと適切なコミュニケーションを図って協働・連携できる。 実践を通して研鑽する基本能力 <ol style="list-style-type: none"> 対象者への適切で充実した助産ケアを目指し、知識・技術・体調の準備ができる。 自分の行動を振り返り、課題を明らかにし、改善に向けた行動ができる。 分娩・産褥期の援助を通して、健康な妊娠・出産・育児に向けた支援や助産師の役割を考察できる。 				
成績評価方法	分娩・産褥・新生児期の助産過程の実践状況および実習記録について、到達目標への達成度を分娩産褥期助産実習評価表を用いて、実習終了時点で評価する。				
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 分娩期における実践能力 <ol style="list-style-type: none"> 情報収集、計画立案、実践、評価がすべて適切で、一貫性がある。 情報収集、計画立案、実践、評価が概ね適切で、一貫性がある。 情報収集、計画立案、実践、評価の一部が不適切である。 情報収集、計画立案、実践、評価の一部が不適切で整合性に欠ける。 情報収集、計画立案、実践、評価がすべて適切である。 産褥・新生児期における実践能力 <ol style="list-style-type: none"> 情報収集、計画立案、実践、評価がすべて適切で、一貫性がある。 情報収集、計画立案、実践、評価が概ね適切で、一貫性がある。 情報収集、計画立案、実践、評価の一部が不適切である。 情報収集、計画立案、実践、評価の一部が不適切で整合性に欠ける。 情報収集、計画立案、実践、評価がすべて適切である。 ヒューマンケアの基本に関する実践能力 <ol style="list-style-type: none"> 倫理観を持ち、対象者の価値観を尊重し、どの対象者とも安定した信頼関係を築ける。 				

- B；倫理観を持ち、対象者の価値観を尊重し、対象者と信頼関係を築ける。
 C；倫理観、対象者の価値観の尊重、対象者との信頼関係のいずれかがやや欠ける。
 D；倫理観、対象者の価値観の尊重、対象者との信頼関係のすべてがやや欠ける。
 F；倫理観、対象者の価値観の尊重、対象者との信頼関係がすべて欠ける。
4. 看護チームにおける協働・連携に関する能力
 A；周りの状況を十分捉え、適切な時機に適切な内容で連絡報告相談ができ、チームの一員として臨機応変に行動できる。
 B；適切な時機に適切な内容で連絡報告相談ができ、チームの一員として行動できる。
 C；必要な連絡報告相談はできるが、時機や内容の適切さ、十分さに欠ける。
 D；最低限の連絡報告相談はできるが、時機や内容の適切さ、十分さに欠ける。
 F；連絡報告相談ができない。
5. 実践を通して研鑽する基本能力
 A；自己の成長と課題、向上・改善のための具体策を見出して実行し、十分な成果をあげている。
 B；自己の成長と課題、向上・改善のための具体策を見出して概ね実行し、成果をあげている。
 C；自己の成長と課題、向上・改善のための方策がやや具体性と適切さに欠けるが、一部を実行し成果をあげている。
 D；自己の成長と課題、向上・改善のための方策がかなり具体性と適切さに欠けるが、一部を実行し成果をあげている。
 F；自己の成長と課題、向上・改善のための方策を見出すことができない。

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	実習の概要説明	実習要項に沿って以下について説明する 実習の目的・目標 実習内容 実習方法 実習記録 実習に関する留意事項	説明・グループワーク	実習要項を熟読して参加する	菊地 前田 中村 遠藤 渡邊
実習	分娩・産褥・新生児期の助産過程の展開 正常分娩介助	・分娩期の産婦、胎児および家族に関する助産過程を展開する。 ・正常経過にある産婦の分娩介助を行う。 ・褥婦、新生児および家族に関する助産過程を展開する。 実習場所 県立中央病院、県立新庄病院、山形済生病院、米沢市立病院、公立置賜総合病院、日本海総合病院、山形市立病院済生館 実習内容、実習方法、実習配置の詳細は、助産学実習要項に提示する。	臨地実習	事前学習； ・対象者への安全でよりよいケアのため、知識・技術・体調の準備を十分にして実習に臨む。 事後学習； ・適切な助産ケアが提供できるよう、自分自身が行ったケアに対する対象者の言語的・非言語的反応をもとに、振り返りを適切に速やかに行う。 ・記録のまとめを期日までに 行う。	菊地 前田 中村 遠藤 渡邊
日付					
6.6.24(月) ～ 6.8.9(金)					

教科書	助産学に関連する授業で使用した参考書など、必要なものを自分で準備すること
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護2/看護3/看護4/看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。

実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師、助産師等）の指導の下、病院（臨床）において分娩・産褥・新生児期の母子に対して看護過程を展開する科目です。
教員の連絡先	菊地：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp 前田：第2共同研究室 nmaeda@yachts.ac.jp 中村：研究室2 ynakamura@yachts.ac.jp 渡邊：第2共同研究室 rhiguchi@yachts.ac.jp 遠藤：研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	助産師国家試験受験資格に必須の科目です

授業科目	成人看護学概論	科目英語表記	Introduction to Adult Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 和子				
科目責任者氏名	遠藤 和子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	成人とはどのような人かを成人各期の特徴から理解し、成人の発達段階と課題および生活との関連から成人の健康を概観する。対象特性と社会の変化の中で生きる成人を対象とする看護実践に必要な理論および看護の機能について、臨床現場の問題と結び付けて学習する。				
到達目標	①成長発達段階における成人の位置づけを説明することができる。 ②成人各期の特徴と健康問題を説明することができる。 ③成人期の生活ストレスと健康障害の関連を述べることができる。 ④セルフケア/自己効力理論について説明することができる。 ⑤代表的な危機理論と適応理論について説明することができる ⑥人生移行とゆらぎ、成人期の健康問題の関連について説明することができる。 ⑦学習者としての成人を理解し、保健行動の特徴と健康観との関連について述べることができる。 ⑧障がいの受容に関する理論について概説することができる。 ⑨「病みの軌跡」という考え方と看護への活用について説明することができる。				
成績評価方法	基本方針： ・定期試験1回 70%：到達目標を達成しているかどうかで判断します。 ・授業内小テストまたはレポート20%：課題に対する知識、自身の考えが盛り込まれているかどうかを評価の基準とします。 ・授業内での発言10%：授業への参加、事前学習の準備状況を踏まえて判断します。				
成績評価基準	各到達目標について、 特に優れている； 適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる 優れている； 根拠を踏まえて論理的に説明できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない； 説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	成人看護学の対象	成人の定義、発達・役割、身体機能の特徴	講義	事前に該当箇所の教科書を読み、日常的な社会生活で生活者としての問題意識を大事にして授業に臨んでください。授業で扱うテーマについては、基本的な情報や体系づけられた知識を踏まえて自分なりの見解が導き出せるように、復習を丁寧に行ってください。	遠藤(和)
2	成人の生活と健康	生活者の概念、成人各期の健康、健康観と保健行動、	講義	国民衛生の動向を持参する。該当箇所に目を通しておく。	遠藤(和)
3	セルフケアと自己効力	自立、セルフケアの概念、自己効力	講義	成人期にある自分が自立して生きるとはどういうことか考えておく	遠藤(和)
4	危機と適応	危機理論、適応理論	講義	復習をしっかりと行う	遠藤(和)
5	人生移行とゆらぎ	自己概念、自尊感情、セクシュアリティ、更年期	講義	自分や身近な人に置き換えて考えてみる	遠藤(和)
6	成人学習と健康教育	学習と教育 アンドラゴジー、行動変容、セルフマネジメント、セルフモニタリング	講義	復習をしっかりと行う 経過別成人看護学3 慢性期看護 メチカルフレンド社 持参してください。	遠藤(和)
7	障害受容 希望と苦悩	障害受容論、意思決定支援 病気体験における希望と苦悩	講義	復習をしっかりと行う 経過別成人看護学3 慢性期	遠藤(和)

				看護 メヂカルフレンド社 持参してください。	
8	病みの軌跡 ライフストーリー	病みの軌跡という考え方 ライフストーリー	講義	復習をしっかりと行う	遠藤(和)
日付					
6.6. 3(月) 4					
6.6.10(月) 4					
6.6.17(月) 4					
6.6.24(月) 4					
6.7. 1(月) 4					
6.7. 8(月) 4					
6.7.22(月) 4					
6.7.29(月) 4					

教科書	成人看護学概論（メディカ出版） 第2回は国民衛生の動向を持参してください。 経過別成人看護学3 慢性期看護 メヂカルフレンド社 6・7回目持参してください。
参考書	成人看護学概論（ヌーベルヒロカワ） 系統看護学講座／成人看護学概論（医学書院） その他、授業の中で紹介します。 尾崎新：「ゆらぐ」ことのできる力、誠信書房 オレム：セルフケア理論
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	看護1／看護2／看護3／看護4／看護5／看護6／看護7
先修条件指定 科目	非該当
先修条件指定 科目において あらかじめ修 得しておかな ければならな い科目	該当
実務経験のあ る教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	遠藤和子：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	急性期看護方法論Ⅰ	科目英語表記	Critical and Perioperative Nursing Methods Ⅰ		
職名、担当教員氏名	准教授 片桐 智子 助教 丸山 香織				
科目責任者氏名	片桐 智子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	急激な健康の破綻により、手術療法や薬物療法などの積極的な治療を必要とする人々およびその家族への看護の必要性を認識し、対象に働きかけるための看護方法論を教授する。				
到達目標	1 急性期・周手術期にある対象の特徴および状況を説明できる。 2 急性期・周手術期における対象のストレスと生体反応について説明できる。 3 麻酔/手術が生体に及ぼす身体内部の変化を看護の視点から説明できる。 4 術後の生体反応と回復過程を看護の視点で説明できる。 5 術後の合併症予防、心身の苦痛を軽減するための看護方法を説明できる。 6 急性期・周手術期にある対象の病態/疾病・治療/検査等の特徴を看護の視点で説明できる。 7 急性期・周手術期にある対象の生命力が回復するために必要な看護方法を説明できる。 8 集中治療室における対象の基本的な心身のアセスメント・全身管理・日常生活援助について述べるができる。 9 循環器系、呼吸器系、感覚器系、栄養/代謝系、泌尿器系、骨・運動器系器官の機能、対象のアセスメント・日常生活への援助について述べるができる。				
成績評価方法	方針：授業の中間（1回目）および終了後（2回目）に試験を行います。 方法：定期試験80%（授業の中間および終了後）、課題20% 中間試験は、到達目標1～7、および9の一部を評価する。期末試験は、到達目標8～9を評価する。 中間試験は9回目の授業後に実施するが、6回以上出席し各授業の課題の提出がなければ受験することができない。 中間試験以降15回目終了後の期末試験は、4回以上出席し各授業の課題の提出がなければ受験することができない。				
成績評価基準	到達目標1～9に対し以下のように定める。 A 特に優れている：的確で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる B 優れている：根拠をふまえて論理的に説明できる C 良好である：根拠を用いてある程度論理的に説明できる D 最低限の到達：根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる E 目標に到達していない：根拠に乏しく論理的に説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	○急性期の看護 ・急性期あるいは急性期という健康状態 ・急性期にある人の身体的側面、他	教科書(急)p4-31他 ・「急性期」の定義 ・急性期にある患者の特徴 ・生命の維持、悪化防止 ・苦痛の緩和など	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。	・成人老年期の特性・役割・機能・健康上の問題などを復習して授業に臨むこと。 ・ストレス理論・心理学・各疾病論などの知識を確認して授業に臨むこと。 ・各疾病の特徴・検査・症状・治療法に関する知識（解剖・生理）を確認して授業に臨むこと。	片桐
2	○周手術期看護① ・周手術期の特徴、術前 ・患者の心理/身体的側面	・教科書(周)p14-100 ・「周手術期」の定義 ・手術侵襲および生体反応 ・術前アセスメント、合併症予防対策など	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。	・各疾病の特徴・検査・症状・治療法に関する知識（解剖・生理）を確認して授業に臨むこと。	片桐
3	○周手術期看護② ・麻酔/手術中の患者の状態 ・手術中の看護の目的および役割	教科書(周)p101-128 ・手術における看護の目的 ・麻酔と看護、手術室での事故防止策など	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。	・麻酔および各疾病の手術に関する知識（解剖・生理・術式）を確認、自己学習して授業に臨むこと。	片桐
4	○周手術期看護③ ・麻酔・手術侵襲に	・教科書(周)p129-176 ・手術侵襲による患者の生体	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。	・麻酔・手術に関する知識（解剖・生理・術式）を自己	片桐

	よる生体反応 ・患者の心身の苦痛	反応 ・術直後の心身の苦痛への看護方法		学習・復習して授業に臨むこと。	
5	○周手術期看護④ ・合併症予防 ・日常生活への看護 ・継続的な看護	教科書(周)p177-208 ・各合併症予防のための看護方法 ・日常生活行動拡大に向けての看護方法、継続的看護など	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。	・麻酔・手術に関する知識(解剖・生理・術式)を自己学習・復習して授業に臨むこと。	片桐
6	○栄養摂取/消化・代謝機能障がいのある患者の看護① ・疾患の理解と患者の看護	・消化器、胃がん 腸閉塞他	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。 講義：教科書(急)p149-163、173、174、(周)p296-308、177-185	・麻酔・手術に関する知識(解剖・生理・術式)を自己学習・復習して授業に臨むこと。	丸山
7	○栄養摂取/消化・代謝機能障がいのある患者の看護② ・疾患の理解と患者の看護	・内視鏡補助下手術 ・肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍他	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。 講義：教科書(周)p347-358、302、(急)p164-173、352-355	・麻酔・手術に関する知識(解剖・生理・術式)を自己学習・復習して授業に臨むこと。	丸山
8	○栄養摂取/消化・代謝機能障がいのある患者の看護③ ・疾患の理解と患者の看護	・教科書(周)p383-392、(急)p160-162 ・食道がん ・大腸がん/人工肛門造設術他	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。	・麻酔・手術に関する知識(解剖・生理・術式)を自己学習・復習して授業に臨むこと。	丸山
9	○循環機能に障がいのある患者の看護 ・疾患と治療、患者の理解	講義：教科書(急)p91-116、p195-206、(周)p274-285 ・循環機能に障がいのある患者の看護、急性心筋梗塞、他	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。	・麻酔・手術に関する知識(解剖・生理・術式)を自己学習・復習して授業に臨むこと。	片桐
10	○呼吸機能に障がいのある患者の看護① ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(急)p36-40、(周)p286-295 ・呼吸機能に障がいのある患者の看護、肺がん、他	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。	・麻酔・手術に関する知識(解剖・生理・術式)を自己学習・復習して授業に臨むこと。	片桐
11	○呼吸機能に障がいのある患者の看護② ・ICUにおける患者の看護	講義：教科書(急)p36-40、(周)p286-295 ・人工呼吸器を装着した患者への支援	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。	・麻酔・手術に関する知識(解剖・生理・術式)を自己学習・復習して授業に臨むこと。	片桐
12	○感覚器系に障がいのある患者の看護 ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(周)p336-347 ・頭頸部に障がいのある患者の看護、甲状腺がん、他	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。	・麻酔・手術に関する知識(解剖・生理・術式)を自己学習・復習して授業に臨むこと。	片桐
13	○骨・運動器に障がいのある患者の看護 ・疾患と治療の理解 ・手術を受ける患者の看護	講義：教科書(周)p327-335、他 ・骨/運動機能に障がいのある患者の状況、変形性膝関節症、他	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。	・麻酔・手術に関する知識(解剖・生理・術式)を自己学習・復習して授業に臨むこと。	片桐
14	○排泄機能(排尿)に障がいのある患者の看護 ・疾患・治療の理解 ・手術を受ける患者の看護	講義：教科書(急)p176-195、261-282 ・体液調整 ・排泄(排尿)機能に障がいのある患者の看護 前立腺がん、他	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。	・麻酔・手術に関する知識(解剖・生理・術式)を自己学習・復習して授業に臨むこと。	丸山
15	○乳腺に障がいのある患者の看護 ・疾患の理解と患者の看護	講義：教科書(周)p309-316、他 ・乳がんの手術を受ける患者の看護	・問答・対話を多く取り入れた参加型講義を行う。	・麻酔・手術に関する知識(解剖・生理・術式)を自己学習・復習して授業に臨むこと。	丸山

日付

6.9.30(月)4
6.10.7(月)4
6.10.21(月)4
6.10.28(月)4
6.11.11(月)4
6.11.18(月)4
6.11.25(月)4
6.12.2(月)4
6.12.9(月)4
6.12.16(月)4

6.12.23 (月) 4
 7. 1. 6 (月) 4
 7. 1.20 (月) 4
 7. 1.21 (火) 4
 7. 1.27 (月) 4

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期看護論、池松裕子・山勢善江編、ヌーヴェルヒロカワ、2018年12月20日 ・周手術期看護論、雄西智恵美・秋元典子編、ヌーヴェルヒロカワ、2020年12月20日
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂版 看護学原論講義、薄井坦子、現代社、2018年2月20日 ・ナースが見る人体、薄井坦子、講談社、2006年2月7日 ・ナースが見る病気、薄井坦子、講談社、2003年12月19日 ・成人看護学④周手術期看護、メディカ出版)
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1／看護2／看護3／看護4／看護6／看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	片桐：研究室4 tkatagiri@yachts.ac.jp 丸山：第2共同研究室 kmaruyama@yachts.ac.jp
備考	解剖、生理、病態など、既習の知識に対し授業中質問しながら進めるので、予習が前提となります。一部の疾患をもつ患者の看護（事例による看護過程の展開）は、急性期看護方法論Ⅱで学習します。 生命の危機的状況にある患者の像や、その人にどうかかわれば看護になるのかを常にイメージし、履修するみなさん自身が「看護をするためのアタマづくりをする」という姿勢で授業に臨みましょう。

授業科目	急性期看護方法論Ⅱ	科目英語表記	Critical and Perioperative Nursing Methods II		
職名、担当教員氏名	准教授 片桐 智子 助 教 丸山 香織				
科目責任者氏名	片桐 智子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	急激な健康の破綻により手術療法や薬物療法などの積極的な治療を必要とする成人期にある人々、およびその家族への看護の必要性を認識し、事例を用い対象に働きかけるための看護実践方法論を教授する。				
到達目標	1 急性期・周手術期における対象のストレス・生体反応、心身の状況を説明できる。 2 麻酔/手術が対象の心身に及ぼす影響、および対象に必要な看護を述べることができる。 3 術後の回復過程、および合併症予防・心身の苦痛を軽減するための看護方法を説明できる。 4 生命の危機状況にある対象の病態、疾病の特徴・治療等を看護の視点で説明できる。 5 生命の危機状況にある対象に必要な日常生活援助を含む看護方法を根拠とともに説明できる。 6 対象の事実から、対象の全体像と立体像をグループメンバーや教員と討議し作成することができる。 7 対象の心身に起こっている事実とその意味について、知識に基づき思考した過程を論理的に表現できる。 8 看護問題を明確化し、患者にとって到達可能な目標を設定し表現することができる。 9 対象の術後の回復に必要な看護方法について、グループメンバーや教員と討議しながら実践することができる。				
成績評価方法	方針：課題の内容、事例検討の成果（全体像・立体像）で評価する。 方法：到達目標1～9について 課題の内容、事例検討の成果（全体像・立体像） 80% 発言や板書による表現・実践時の発言・行動 20%				
成績評価基準	到達目標1～9に対し以下のように定める。 A 特に優れている：適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明・記録・実践できる B 優れている：根拠をふまえて論理的に説明・記録・実践できる C 良好である：根拠を用いてある程度論理的に説明・記録・実践できる D 最低限の到達：根拠は乏しいがある程度論理的に説明・記録・実践できる E 目標に到達していない：説明・記録・実践できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	○急性期・周手術期にある患者の事例検討について ・急性期・周手術期の患者の全体像をイメージするための思考方法	・急性期・周手術期の事例を用いた患者の全体像・立体像の描き方と看護方法を検討するための方法について ・演習のスケジュールや授業後の課題について	講義：改訂版 看護学原論講義 p.25-159	・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。 ・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。 ・授業最終日の演習は、3階成人看護実習室で行う。	片桐智子、丸山香織
2	○急性期・周手術期にある患者の事例検討について ・急性期・周手術期の患者の看護問題解決・人間関係形成のための思考方法	・急性期・周手術期の事例を用いた患者の全体像・立体像の描き方と看護方法を検討するための方法	講義：改訂版 看護学原論講義 p.25-159	・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。	片桐智子、丸山香織

				<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。 	
3	○栄養摂取・消化機能障がいにより手術を受ける患者の回復への援助（事例検討）	事例を用い、下部消化管の手術を受ける患者に必要な全体像・立体像の描き方と、看護問題につながる現象の意味を検討する。	グループ学習：事例の全体像・立体像の描き方をグループで討議し表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。 ・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。 	(事) 片桐智子、丸山香織
4	○栄養摂取・消化機能障がいにより手術を受ける患者の回復への援助（事例検討）	事例を用い、下部消化管の手術を受ける患者に必要な全体像・立体像の描き方と、看護問題につながる現象の意味を検討する。	グループ学習：事例の全体像・立体像の描き方をグループで討議し表現したことに対する意見交換。	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。 ・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。 	(事) 片桐智子、丸山香織
5	○肺葉切除術を受ける患者の回復への援助（事例検討）	事例を用い、肺がんの手術を受ける患者に必要な全体像・立体像の描き方と、看護問題につながる現象の意味を検討する。	グループ学習：事例を用い、肺葉切除術を受ける患者に必要な全体像・立体像の描き方について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。 ・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。 	(事) 片桐智子、丸山香織
6	○肺葉切除術を受ける患者の回復過程への援助（事例検討）	事例を用い、肺葉切除術を受ける患者に必要な全体像・立体像の描き方について検討する。	グループ学習：事例の全体像・立体像の描き方をグループで討議し表現したことに対する意見交換。	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。 ・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。 	(事) 片桐智子、丸山香織
7	○肺葉切除術を受ける患者の回復への援助（事例検討）	事例を用い、肺葉切除術を受ける患者に起きている現象についての看護過程を検討する。	グループ学習：事例を用い、看護過程の構造を検討する。グループで討議し表現したことに対する意見交換。	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。 	(事) 片桐智子、丸山香織

				<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。 	
8	○肺葉切除術を受ける患者の回復への援助（事例検討）	事例を用い、肺葉切除術を受けた患者に起きている現象（事実）から看護上の問題の明確化、看護目標に至るまでの看護過程を検討する。	グループ学習：事例を用い、看護過程の構造を検討する。グループで討議し表現したことに対する意見交換。	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。 ・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。 	(事) 片桐智子、丸山香織
9	○人工膝関節置換術を受ける患者の回復への援助（事例検討）	事例を用い、人工膝関節置換術を受ける患者に必要な全体像・立体像の描き方と、看護問題につながる現象の意味を検討する。	グループ学習：事例を用い、人工膝関節置換術を受ける患者に必要な全体像・立体像の描き方について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。 ・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。 	(事) 片桐智子、丸山香織
10	○人工膝関節置換術を受ける患者の回復への援助（事例検討）	事例を用い、人工膝関節置換術を受けた患者に起きている現象（事実）から看護上の問題の明確化、看護目標に至るまでの看護過程を検討する。	グループ学習：事例を用い、人工膝関節置換術を受ける患者に必要な全体像・立体像の描き方について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。 ・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。 	(事) 片桐智子、丸山香織
11	○人工膝関節置換術を受ける患者の回復への援助（事例検討）	事例を用い、人工膝関節置換術を受けた患者に起きている現象（事実）から看護上の問題の明確化、看護目標に至るまでの看護過程を検討する。	グループ学習：事例を用い、人工膝関節置換術を受ける患者に起きている現象についての看護過程を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。 ・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。 	(事) 片桐智子、丸山香織
12	○人工膝関節置換術を受ける患者の回復への援助（事例検討）	事例を用い、人工膝関節置換術を受けた患者に起きている現象（事実）から看護上の問題の明確化、看護目標に至るまでの看護過程を検討する。	グループ学習：事例を用い、人工膝関節置換術を受ける患者に起きている現象についての看護過程を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。 	(事) 片桐智子、丸山香織

				・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。	
13	○術前および術中の患者に必要かつ最適な看護方法の具体について学ぶ。	・術前指導、全身麻酔時の看護、気管挿管の介助、ガウンテクニックなどの実際の体験を通し、看護の本質を検討する。	[演習] 演習室において、グループごと術前指導、全身麻酔時の看護、気管挿管の介助、ガウンテクニックなどを実施する。	・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。 ・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。	(演) 丸山香織、片桐智子
14	○術後の患者に必要かつ最適な看護方法の具体について学ぶ。	[演習] 手術直後の観察、離床への援助、急変時の一次救命処置などの実際の体験を通し、看護の本質を検討する。	[演習] 演習室において、グループごと手術直後の観察、離床への援助、急変時の一次救命処置などを実施する。	・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。 ・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。	(演) 丸山香織、片桐智子
15	○術後の患者に必要かつ最適な看護方法の具体について学ぶ。	[演習] 手術直後の観察、離床への援助、急変時の一次救命処置などの実際の体験を通し、看護の本質を検討する。	[演習] 演習室において、グループごと手術直後の観察、離床への援助、急変時の一次救命処置などを実施する。	・各疾病の特徴・検査・症状・治療に関する知識（解剖・生理・術式）を確認して授業に臨む。 ・授業終了時に示す課題をメールで提出する。 ・グループ学習では、指定教科書だけでなく、必要な文献を持参し討議する。 ・グループ学習では、意見の意味内容がわかるよう頭を働かせて発言し、人の意見にはよく耳を傾け発言内容を聞き取る。	(演) 丸山香織、片桐智子

日付

6.4. 8(月) 4・5
6.4.15(月) 4・5
6.4.22(月) 4・5
6.5. 2(木) 4・5
6.5. 9(木) 4・5
6.5.13(月) 4・5
6.5.20(月) 4・5
6.5.27(月) 3

教科書	改訂版 看護学原論講義、薄井坦子、現代社、2018年2月20日
参考書	急性期看護論、池松裕子・山勢善江編、ヌーヴェルヒロカワ、2019年12月20日 周手術期看護論、雄西智恵美・秋元典子編、ヌーヴェルヒロカワ、2020年12月20日 ナースが見る人体、薄井坦子、講談社、2006年2月7日 ナースが見る病気、薄井坦子、講談社、2003年12月19日
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3/看護4/看護7
先修条件指定	非該当

科目	
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	片桐：研究室4 tkatagiri@yachts.ac.jp 丸山：第2共同研究室 kmaruyama@yachts.ac.jp
備考	解剖、生理、病態など、既習の知識に対する予習を前提に、授業を展開します。危機的状況にある患者にどうかかわることが看護なのかを講義・演習を通して思考し、「看護するためのアタマ作りをする」という姿勢で主体的に授業に臨んでください。

授業科目	慢性看護方法論Ⅰ	科目英語表記	Chronic Illness and Conditions Nursing Ⅰ		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 和子 准教授 山田カオル 助教 富樫 理恵				
科目責任者氏名	遠藤 和子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	既習の疾病・病態の知識をもとに、慢性疾患・長期的な健康障がいのある人の特徴を理解し、対象となる人が良好な健康状態を回復・維持していくための、看護援助の方法論を学びます。特に対象理解とアセスメント力をつけることを重視します。本科目は、成人看護学概論での内容を基盤とし、慢性看護方法論Ⅱおよび慢性看護学実習につながる科目です。				
到達目標	①慢性的な病として特徴的な疾患と治療・看護のポイントを説明できる ②慢性的な病とともにある人・家族の健康問題について情報整理、アセスメントできる ③慢性的な病と共にある人・家族に特徴的な看護方法について説明できる ④がんの診断・検査・治療を理解した上で、がんとともに生きる人・家族の苦痛の緩和について説明できる				
成績評価方法	・定期試験1回 45%：到達目標を達成しているかどうかで判断します。 ・授業内小テストまたはレポート45%：課題に対する知識、自身の考えが盛り込まれているかどうかを評価の基準とします。 ・授業内での発言10%：授業への参加、事前学習の準備状況を評価の基準とします。 ※定期試験、レポート・授業参加、学習態度等によって総合的に評価します。				
成績評価基準	各到達目標について、 特に優れている； 適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる 優れている； 根拠を踏まえて論理的に説明できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない； 説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	病や障がいとともに生活する人・家族のアセスメント	ガイダンス 病む人と共に生きる人の理解	講義	免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	遠藤（和）
2	病や障がいとともに生活する人・家族のアセスメント	慢性・回復期にある人のケア	講義	免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	遠藤（和）
3	病や障がいとともに生活する人・家族のアセスメント	セルフマネジメント 学習と教育	講義	免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	遠藤（和）
4	病や障がいとともに生活する人・家族のアセスメント	看護過程 循環機能障がいのある人・家族への看護 事例展開：慢性心不全	演習	免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	富樫 遠藤（和）
5	病や障がいとともに生活する人・家族のアセスメント	看護過程 循環機能障がいのある人・家族への看護 事例展開：慢性心不全	演習	免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	富樫 遠藤（和）
6	病や障がいとともに生活する人・家族のアセスメント	呼吸機能障がいのある人・家族への看護 事例展開：慢性閉塞性肺疾患（COPD）	演習	免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	山田
7	病や障がいとともに生活する人・家族のアセスメント	呼吸機能障がいのある人・家族への看護 事例展開：慢性閉塞性肺疾患（COPD）	演習	免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	山田
8	病や障がいとともに生活する人・家族のアセスメント	栄養摂取・消化機能障がいのある人・家族への看護 事例展開：肝炎・肝硬変	演習	免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	山田

9	病や障がいとともに生活する人・家族のアセスメント	栄養摂取・消化機能障がいのある人・家族への看護 事例展開：肝炎・肝硬変	演習	免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	山田
10	病や障害とともに生活する人の学習支援	病態栄養・食事療法(DM、腎、心) 塩分、kcalバランス、タンパク質	演習	免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	富樫 遠藤(和)
11	病や障害とともに生活する人の学習支援	運動療法 腎リハ、心リハ	演習	免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	富樫 遠藤(和)
12	病や障害とともに生活する人の学習支援	糖尿病看護	講義	免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	遠藤(和)
13	病や障害とともに生活する人の学習支援	糖尿病看護 患者教育	講義	免疫と微生物、成人老年疾病論Ⅱ、成人老年疾病論Ⅰの復習をして授業に臨む	遠藤(和)
14	がんとともに生きる人・家族への看護	・がんの診断、治療の特殊性 ・治療継続のためのマネジメント	講義	がんとともに生きる人の体験記を1冊は読んでから授業に臨む	スポット：一般社団法人MYwells 地域ケア工房 代表 神谷浩平 遠藤(和)
15	がんとともに生きる人・家族への看護	・痛み、嘔気・嘔吐、呼吸困難の治療とケア ・緩和ケア	講義	がんとともに生きる人の体験記を1冊は読んでから授業に臨む	スポット：一般社団法人MYwells 地域ケア工房 代表 神谷浩平 遠藤(和)

日付

教科書	経過別成人看護学3 慢性期看護 メヂカルフレンド社
参考書	講義の中で適宜紹介します がん患者さんの体験として、◎絵門ゆう子：がんと一緒にゆっくりと、新潮社。 ◎山崎多賀子：「キレイに治す乳がん」宣言！ 光文社。 ◎毎日新聞生活報道部：乳がんと生きる、毎日新聞出版 他に、立花隆：がん生と死の謎に挑む(NHKスペシャル)など
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3/看護4/看護5/看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤和：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp 山田：研究室33 kaoyamada@yachts.ac.jp 富樫：第1共同研究室 rtogashi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	慢性看護方法論Ⅱ	科目英語表記	Chronic Illness and Conditions Nursing II		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 和子 准教授 山田カオル 助教 富樫 理恵				
科目責任者氏名	山田カオル				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	慢性の病とともにある成人が社会生活上の役割を果たしながら良好な健康状態を回復・維持するための看護援助の方法を学びます。事例を用いて看護過程を展開し（シナリオワーク、ロールプレイを用いた演習）、対象とその家族が主体的に療養生活を送るためのセルフマネジメントおよび生活の再構築を支援する知識・技術を習得します。 本科目は、成人看護学概論・慢性看護方法論Ⅰの内容を基盤とし、慢性看護学実習につながる科目です。				
到達目標	1. 慢性的な病と共にある人の意思決定の支援、および、人権を擁護する態度・行動について自己の考えを説明できる 2. 慢性的な病と共にある人のセルフマネジメント支援に必要な知識、技術について説明できる 3. 紙上患者を用いて、がんと共にある人の看護過程を展開し、アセスメント・関連図・全体像・看護計画・評価について説明できる。 4. グループワーク、(シナリオワーク、ロールプレイによる演習含む) 検討会では、課題解決に向けた自己の考えを説明することができる				
成績評価方法	・筆記試験（50%）：到達目標1, 2 ・記録用紙、レポート(20%)：到達目標2, 3 ・授業、グループワークへの参加度(30%)：到達目標3, 4 ※筆記試験、レポート・授業参加、学習態度等によって総合的に評価します				
成績評価基準	各到達目標について、 特に優れている； 適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる 優れている； 根拠を踏まえて論理的に説明できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない； 説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ガイダンス 慢性期看護援助の考え方	慢性看護方法論Ⅱの進め方 慢性的な病と共にある人の人権・アドボカシー・意思決定	講義	既習の実習経験を想起しながら参加すること	遠藤和
2	慢性的な病と共にある人のセルフマネジメント支援	セルフマネジメントを支援するための理論・概念 コンプライアンス・アドヒアランス 症状マネジメント他	講義	成人看護学概論のテキストも活用すること	遠藤和
3	病や障がいとともに生活している人・家族への看護	慢性看護における臨床倫理 事例展開：膵がん	演習 シナリオワーク	1年次の生命医療倫理学のテキストを復習して参加すること	山田 富樫 遠藤和
4	病や障がいとともに生活している人・家族への看護	がん事例展開：膵がん 病態アセスメント～関連図	演習 GW	GWに必要な資料・文献などを検索して準備し、活用すること	山田 富樫 遠藤和
5	病や障がいとともに生活している人・家族への看護	がん事例展開：膵がん 関連図（病態－症状－生活上の困難のつながり）	検討会 関連図～問題抽出	GWに必要な資料・文献などを検索して準備し、活用すること	山田 富樫 遠藤和
6	がんとともに生きる人・家族への看護	がん事例展開 ①血液がん ②食道がん ③ 肝臓がん アセスメント	演習 GW	GWに必要な資料・文献などを検索して準備し、活用すること	富樫 山田 遠藤和

7	がんとともに生きる人・家族への看護	がん事例展開 ①血液がん ②食道がん ③ 肝臓がん 関連図、全体像	演習 GW	GWに必要な資料・文献などを検索して準備し、活用すること	富樫 山田 遠藤和
8	がんとともに生きる人・家族への看護	がん事例展開 ①血液がん ②食道がん ③ 肝臓がん 関連図、全体像	演習 GW	GWに必要な資料・文献などを検索して準備し、活用すること	富樫 山田 遠藤和 スポット講師
9	がんとともに生きる人・家族への看護	がん事例展開 ①血液がん ②食道がん ③ 肝臓がん 看護計画立案	演習 GW	GWに必要な資料・文献などを検索して準備し、活用すること	富樫 山田 遠藤和
10	がんとともに生きる人・家族への看護	がん事例展開 ①血液がん ②食道がん ③ 肝臓がん 看護計画立案	演習 GW	GWに必要な資料・文献などを検索して準備し、活用すること	富樫 山田 遠藤和
11	がんとともに生きる人・家族への看護	がん事例展開 ①血液がん ②食道がん ③ 肝臓がん 看護計画に基づいた実践	ロールプレイによる看護計画の実施、意見交換	GWに必要な資料・文献などを検索して準備し、活用すること	富樫 山田 遠藤和
12	がんとともに生きる人・家族への看護	がん事例展開 ①血液がん ②食道がん ③ 肝臓がん	演習 評価 (SOAP～計画修正)	GWに必要な資料・文献などを検索して準備し、活用すること	富樫 山田 遠藤和

日付

6.5.29 (水) 2
6.6. 5 (水) 2
6.6.12 (水) 2
6.6.19 (水) 1・2
6.6.26 (水) 1・2
6.7. 3 (水) 1・2
6.7.10 (水) 1・2
6.7.17 (水) 2

教科書	教科書：慢性期看護 経過別成人看護学 メジカルフレンド社
参考書	既習の講義・演習で使用した教科書や資料を活用してください。
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3/看護4/看護5/看護6/看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤和：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp 山 田：研究室33 kaoyamada@yachts.ac.jp 富 樫：第1共同研究室 rtogashi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	急性期看護学実習	科目英語表記	Critical and Perioperative Nursing Practice													
職名、担当教員氏名	准教授 片桐 智子 助教 丸山 香織															
科目責任者氏名	片桐 智子															
学内連絡教員氏名																
学科／分野	看護学科	学年	3年													
科目区分	専門	必修・選択の別	必修													
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	3単位											
授業概要	急性期および周手術期にある成人・老年者の看護に必要な既習の知識・技術を活用し、看護の役割をふまえ、適切な看護が実践できる基礎的能力と態度を養う。															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期・周手術期にある対象の生活過程や入院した経緯の事実から、対象の人生の歩みを説明できる。 看護に必要な情報を収集し、対象の置かれた状況と身体内部の状態を説明できる。 「看護とは」の視点で必要な情報を収集・整理し、対象の全体像・立体像を描き表現できる。 手術チームの一員として、必要な支援をスタッフとともに考え指導の下実施できる。 手術後の全身状態の観察を行い異常の有無を分析し、麻酔・手術侵襲の程度および状態を説明できる。 認識を上り下りさせ、対象から得た情報（事実）の意味を考え根拠に基づき分析した過程と、看護上の問題を明確化し、対象の立場・状況から到達可能な目標を表現できる。 術後の生活規制による対象の身体・心理状況をふまえ、個別性に沿った計画を立案し、指導者の指導の下実施できる。 指導者の指導の下、合併症予防・生活行動拡大のための支援を対象の状態に合わせて実施できる。 実践の結果を対象の反応から評価し、計画を修正しながら看護過程の展開を表現できる。 対象の今後の生活上の課題について、対象者の視点とともに考え明確化し表現できる。 															
成績評価方法	実習到達目標1～10について、評価表等の基準に則り評価する。															
成績評価基準	<p>評価項目Ⅰ～Ⅳの合計で以下のように評価する</p> <p>特に優れている : 十分な看護学的根拠をふまえて論理的に説明・実践・評価・記録ができる</p> <p>優れている : 看護学的根拠をふまえて論理的に説明・実践・評価・記録ができる</p> <p>良好である : 看護学的根拠を用いてある程度説明・実践・評価・記録ができる</p> <p>最低限の到達 : 看護学的根拠は乏しいがある程度説明・実践・評価・記録ができる</p> <p>目標に到達していない : 看護学的根拠に乏しく説明・実践・評価・記録ができない</p> <p>Ⅰ. 以下の項目1～6について</p> <p>A (4点) 特に優れている : 的確で十分な看護学的根拠をふまえて論理的に説明・実践・評価・記録ができる</p> <p>B (3点) 優れている : 看護学的根拠をふまえて論理的に説明・実践・評価・記録ができる</p> <p>C (2点) 良好である : 看護学的根拠を用いてある程度説明・実践・評価・記録ができる</p> <p>D (1点) 最低限の到達 : 看護学的根拠は乏しいがある程度説明・実践・評価・記録ができる</p> <p>E (0点) 目標に到達していない : 看護学的根拠に乏しく説明・実践・評価・記録ができない</p>															
	<table border="1"> <tr> <td>1-1) 対象の生活過程や入院した経緯から対象の人生や生活背景を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>2) 対象の病気や検査データ等の客観的事実、対象とのコミュニケーションから、対象の健康の種類、および対象の置かれている状況が説明できる。</td> </tr> <tr> <td>3) 対象の健康にとっての麻酔や手術の意味を「看護とは」の視点から説明できる。</td> </tr> <tr> <td>2-1) 対象の状態について「看護とは」の観点から必要な観察を行い、得られた事実の意味を考え健康障がい程度を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>2) 「看護とは」の視点で必要な情報を収集・整理し、事実に基づき対象の全体像・立体像を描くことができる。</td> </tr> <tr> <td>3) 手術を受けた対象に生じている生命力を消耗させているものについて、事実（現象）に基づき説明できる。</td> </tr> <tr> <td>4) 知識・根拠をふまえ、事実（現象）→機序→予測の思考過程を表現できる。</td> </tr> <tr> <td>3-1) 患者の事実から導き出された看護上の問題を医療チームのメンバーや対象がわかる言葉で表現できる。</td> </tr> <tr> <td>2) 看護目標は、対象の立場で対象が到達できそうな状態として具体的に示すことができる。</td> </tr> <tr> <td>3) 解決策は、対象の個別性に合わせ、文献に示された根拠に基づき、具体的に（いつ・どこで・誰が・何を・どのように）示すことができる。</td> </tr> <tr> <td>4) アセスメント・看護上の問題・看護目標・解決策は、論理の一貫性がある。</td> </tr> </table>					1-1) 対象の生活過程や入院した経緯から対象の人生や生活背景を説明できる。	2) 対象の病気や検査データ等の客観的事実、対象とのコミュニケーションから、対象の健康の種類、および対象の置かれている状況が説明できる。	3) 対象の健康にとっての麻酔や手術の意味を「看護とは」の視点から説明できる。	2-1) 対象の状態について「看護とは」の観点から必要な観察を行い、得られた事実の意味を考え健康障がい程度を説明できる。	2) 「看護とは」の視点で必要な情報を収集・整理し、事実に基づき対象の全体像・立体像を描くことができる。	3) 手術を受けた対象に生じている生命力を消耗させているものについて、事実（現象）に基づき説明できる。	4) 知識・根拠をふまえ、事実（現象）→機序→予測の思考過程を表現できる。	3-1) 患者の事実から導き出された看護上の問題を医療チームのメンバーや対象がわかる言葉で表現できる。	2) 看護目標は、対象の立場で対象が到達できそうな状態として具体的に示すことができる。	3) 解決策は、対象の個別性に合わせ、文献に示された根拠に基づき、具体的に（いつ・どこで・誰が・何を・どのように）示すことができる。	4) アセスメント・看護上の問題・看護目標・解決策は、論理の一貫性がある。
1-1) 対象の生活過程や入院した経緯から対象の人生や生活背景を説明できる。																
2) 対象の病気や検査データ等の客観的事実、対象とのコミュニケーションから、対象の健康の種類、および対象の置かれている状況が説明できる。																
3) 対象の健康にとっての麻酔や手術の意味を「看護とは」の視点から説明できる。																
2-1) 対象の状態について「看護とは」の観点から必要な観察を行い、得られた事実の意味を考え健康障がい程度を説明できる。																
2) 「看護とは」の視点で必要な情報を収集・整理し、事実に基づき対象の全体像・立体像を描くことができる。																
3) 手術を受けた対象に生じている生命力を消耗させているものについて、事実（現象）に基づき説明できる。																
4) 知識・根拠をふまえ、事実（現象）→機序→予測の思考過程を表現できる。																
3-1) 患者の事実から導き出された看護上の問題を医療チームのメンバーや対象がわかる言葉で表現できる。																
2) 看護目標は、対象の立場で対象が到達できそうな状態として具体的に示すことができる。																
3) 解決策は、対象の個別性に合わせ、文献に示された根拠に基づき、具体的に（いつ・どこで・誰が・何を・どのように）示すことができる。																
4) アセスメント・看護上の問題・看護目標・解決策は、論理の一貫性がある。																

4-1) 看護過程について自ら指導者に相談し、観察やケア等に目的をもち、指導の下、対象の反応や安全を確かめながら実施できる。
2) 実践の結果については、学生の主観ではなく、患者の反応（事実）に基づき「看護とは」の観点および看護目標から評価し、必要に応じて計画を修正できる。
5-1) 医療チーム（看護師・医師・栄養士・薬剤師等）と、対象についての方針や意見を交換しながら、指導の下看護を実践することができる。
2) 検査・治療に対する対象の不安・苦痛を、医療チームの一員として協働しながら緩和することができる。
3) 危機的状況における救急対応、薬物管理体制、社会資源の活用、関連機関との連携について説明できる。
6-1) グループ内のリーダー・メンバーそれぞれの立場に立ち行動できる。
2) 実習生としての立場を自覚し、対象や医療スタッフに対し、誠実で責任ある言動をとることができる。
3) 常時実習目標に沿って自分の認識・行動を振り返り、実習目的目標の観点から自己の課題を表現できる。

II. カンファレンス 以下の3つが当てはまる：15点、2つ当てはまる：10点、1つ当てはまる：5点

① テーマ設定が、一般論ではなく、自分の具体的ななかかわりから考えられている

② 認識の上り下りを活用し、テーマを意識的に掘り下げた表現をしている

③ 他者の発言を受け止め、考えたことを自分の言葉で表現している

III. 手術室レポート（9点）課題の内容について、以下のように評価する

9点：実践に基づく事実とその意味を、「看護とは」の視点で十分な根拠に基づき論理的に記載している

7点：実践に基づく事実とその意味を、概ね「看護とは」の視点があり根拠をふまえて論理的に記載している

5点：実践に基づく事実とその意味を、一部「看護とは」の視点があり一部根拠がありある程度論理的に記載している

3点：実践に基づく事実の記載に乏しく、「看護とは」の視点はないが一部根拠に基づき記載している

1点：事実の記載がなく、根拠が不十分なまま記載している

IV. 記録提出が遅れた場合はマイナス3点、提出が1日遅れるごと1点ずつ減点

授業計画

回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	令和6年度急性期看護学実習について	<p>1. 実習目的および目標</p> <p>1) 「成人急性期看護学実習要項」参照 → 要項の課題を毎日確認しながら実習をすすめる。</p> <p>2) 事前学習課題：別紙配布資料A5 参照</p> <p>2. 実習期間および実習病棟（今後掲示される臨地実習配置表を必ず確認すること）</p> <p>1) 実習期間：3週間（3週目の木曜日午前まで病院実習、木曜午後は学内で合同カンファレンス、金曜日は学内で実習の振り返り）</p> <p>2) 実習時間：8時30分～16時30分</p> <p>実習スケジュールの詳細は9月のオリエンテーションおよび直前のメールにて説明する。</p> <p>3) 実習場所：県立中央病院 6階西：外科（消化器）、7階東：泌尿器科、外科（消化器）、8階西：整形外科（運動器）、乳腺外科、8階東：呼吸器外科、耳鼻咽喉科、中央手術部、集中治療室：ICU、HCU、SCU、CCU</p> <p>4) 学生控室：詳細は9月のオリエンテーションまたは直前にメールで説明</p> <p>学生控室は、スタッフの会議等で使用することもあるため、常に整理整頓を心がけること。</p> <p>5) 実習のプロセス</p>	<p>・実習前、成人看護実習室で全学生に口頭で学習内容を説明し、質疑応答を行う。</p> <p>・実習で実施する知識・技術を各自で練習する。</p>	事前学習・予習・復習のために、主体的に図書館および成人看護実習室を活用する。	准教授・片桐智子 助教・丸山香織

周手術期の患者を受け持ち、看護過程を展開する。

3. 記録

・成人急性期看護学実習記録Ⅰ～Ⅴおよび自己評価表、手術室実習レポート

・予備の用紙をコピーして実習に臨むこと。(書き損じ、複数受け持ち、看護問題の重複など)

・患者の安全・安楽を最優先に考え、実習記録に記載した内容・看護の方向性を指導者に毎日提示相談し、指導を受けながら進める。その都度修正するため、鉛筆書きのこと。

・実習では指示された場所に記録類を置く。学生不在時も教員や指導者が記録物にコメントする。

・行動計画・実践・評価の用紙には、何のために行うのか目的を明確に、目標は具体的に記載する。

・手術室実習後、翌週月曜日までレポートを教員に提出する。(課題は別紙配布資料参照)

・実習記録は、実習3週目の金曜日15時まで担当教員に直接提出する。記録を途中で勝手におろぬかないこと。

4. 病棟カンファレンス、および合同カンファレンス

・病棟カンファレンス：おもに実習の中盤と最後に行う。テーマはおもに周手術期に関連する事柄で早い段階で指導者および教員に相談

し、指導者に日時場所を決定してもらうこと。司会、進行、書記は学生が担当する。

目的：実践した1例について「看護とは」に照らして意見交換し、今後の実習へのアタマをつくる。

・合同カンファレンス：3週目木曜日の13時30分～15時30分、学内で行う。(第6講義室)

目的：学習内容を共有し看護観を深め、自分の今後の課題を明らかにする。

内容：受持ち患者とのかかわりや学んだこと・直面した問題や疑問などについて、「看護とは」の観点で意見交換する。

発表時間は1人2分とし、司会、タイムキーパー、記録等の役割分担、会の進行については、開始前までに学生間で相談しておく。

・カンファレンス後は、会議録を作成し担当教員と指導者に提出する。

5. 周手術期におけるおもな看護技術 (別紙資料)

・実習前や実習中、学習に必要な場合は成人看護学演習室を開放するので積極的に教

		<p>員に申し出る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別紙資料を活用し、目的を明確にしてかわり、必ず振り返りを行う。体験した看護技術を正の字で記載しファイルに綴じ提出する。 <p>6. 実習直前オリエンテーション・事前演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習開始の前の週、実習の具体的な進め方をメールにて配布する（受け持つ患者は、実習開始後指導者と相談）。 ・全体の事前演習は9月11日の週に行う。 <p>7. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習中は、患者の安全のため決してひとりで判断して実践しない。必ず指導者や教員に連絡・相談・報告する。報連相を習慣づける。 ・頼まれたことは最後まで責任をもって行い、その結果を必ず指導者・病棟スタッフに報告する。 			
実習	急性期および周手術期にある成人・老年期の患者を受け持ち、看護過程（実施・評価を含む）を展開する。	<p>1. 実習内容、実習場所などの詳細は、急性期看護学実習要項に提示する。</p> <p>2. 各病棟4名のグループごとと実習を展開する。</p> <p>3. 各自で関連理論や文献を用いて予習・復習し、グループメンバーおよび看護師・医師らと話し合い、看護とはの視点でアセスメントする能力や個性に合った看護を学ぶ。</p>	<p>1) 期間 3年次後期 3週間</p> <p>2) 場所（社会情勢等により学内に変更する場合あり） 山形県立中央病院外科系病棟および関連部門</p> <p>3) 内容 急性状況および周手術期にある対象を受け持ち、看護過程（実施・評価を含む）を展開する。</p> <p>4) 記録 所定の様式（別冊、実習記録用紙Ⅰ～Ⅴ）に基づき記録する。</p> <p>5) 事前学習 急性期看護学のみならずこれまで学習したすべてを復習し、関連知識を確認して臨むこと。実習開始の前の週までに事前学習ノートを提出する。</p> <p>6) カンファレンス 担当教員・指導者と相談のうえ実施する。企画および運営は学生が行う。カンファレンス終了後、議事録を指導者および教員に提出する。</p>	目標到達に向け、事前学習・予習・復習のために、主体的に図書館および成人看護実習室を活用する。	片桐智子、丸山香織
日付					
6.9.17 (火)					
～					
7.1.31 (金)					

教科書	特に指定しないので、自ら必要な図書・文献を探すこと。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3/看護4/看護7
先修条件指定科目	該当
先修条件指定科目において	非該当

あらかじめ修得しておかなければならない科目	
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院（臨床）における急性及び周手術期患者に対する看護過程を展開する科目です。
教員の連絡先	片桐研究室：tkatagiri@yachts.ac.jp 丸山（第2共同研究室）：kmaruyama@yachts.ac.jp
備考	展開が速いので、健康に留意し事前学習を必ず行って実習に臨むこと。「看護とは」を忘れず、あなたのもっているすべてを出し切るつもりで対象にかかわりましょう。

授業科目	慢性看護学実習	科目英語表記	Chronic Illness and Conditions Nursing Practice												
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 和子 准教授 山田カオル 助教 富樫 理恵														
科目責任者氏名	遠藤 和子														
学内連絡教員氏名															
学科／分野	看護学科	学年	3年												
科目区分	専門	必修・選択の別	必修												
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	3単位										
授業概要	慢性的な健康障がいとともにある人とその家族とのかかわりを通して、対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解するとともに、既習の知識・技術を用いて看護を展開し、科学的根拠に基づく看護実践が提供できるための基礎的能力を養う。														
到達目標	<p>認知領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 受け持ち患者の情報を客観的に記述、解釈・分析し、統合して全体像を描き、看護問題を抽出できる 受け持ち患者の病態生理・検査、治療経過、病状悪化の要因を説明できる 受け持ち患者のセルフマネジメントを客観的に評価できる 受け持ち患者の発達課題、ソーシャルサポート、自己管理能力・疾病の受容のレベルを考慮し、科学的根拠に基づきその人に合った看護計画を立案できる 実践した援助内容を客観的にみつめ、看護計画を評価できる <p>情意領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 援助のタイミングを考慮することができる チーム医療における関連部門・職種との連携について理解し、チームで行う治療やケアを患者の立場から見直した上でこれからの連携、および、看護職のあり方について考えることができる 自己の看護実践を、カンファレンス等を通して客観的に振り返り、看護者としてのあり方や看護観を表現することができる 看護実践における自己の学習課題を明確化し、課題達成に向けて主体的に取り組むことができる <p>精神運動領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 受け持ち患者・家族とコミュニケーションを取りながら、信頼関係を築くことができる 受け持ち患者のフィジカルアセスメントを実施できる 受け持ち患者の安全・安楽を考慮した実践ができる 														
成績評価方法	実習目標の達成度、看護実践の評価、実習態度、実習記録、事前学習、最終レポートにより、総合的に評価する														
成績評価基準	<p><認知領域>について</p> <table border="0"> <tr> <td>特に優れている；</td> <td>適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる</td> </tr> <tr> <td>優れている；</td> <td>根拠を踏まえて論理的に説明できる</td> </tr> <tr> <td>良好である；</td> <td>根拠を用いてある程度論理的に説明できる</td> </tr> <tr> <td>最低限の到達；</td> <td>根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる</td> </tr> <tr> <td>目標に到達していない；</td> <td>説明できない</td> </tr> </table> <p><情意・精神領域>について</p> <p>実習の対象特性に影響されるため、毎日の進捗状況のもとに、学生と教員、臨床指導者間の相互の話し合いの上確認する</p>					特に優れている；	適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる	優れている；	根拠を踏まえて論理的に説明できる	良好である；	根拠を用いてある程度論理的に説明できる	最低限の到達；	根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる	目標に到達していない；	説明できない
特に優れている；	適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる														
優れている；	根拠を踏まえて論理的に説明できる														
良好である；	根拠を用いてある程度論理的に説明できる														
最低限の到達；	根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる														
目標に到達していない；	説明できない														

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション					
実習	1名以上の患者を受け持ち、看護過程を展開する。	詳細は実習要項を参照。		既習の知識・技術等を確認しておくこと	遠藤和 山田 富樫
日付					
6.9.17(火) ～ 7.1.31(金)					

教科書	必要な図書を自分で探すこと
-----	---------------

参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3/看護4/看護5/看護6/看護7
先修条件指定科目	該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）による指導の下、病院（臨床）における慢性疾患患者に対する看護過程を展開する科目です。
教員の連絡先	遠藤和：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp 山田：研究室33 kaoyamada@yachts.ac.jp 富樫：第1共同研究室 rtogashi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	老年看護学概論	科目英語表記	Introduction to Geriatric Nursing		
職名、担当教員氏名	教授・沼澤さとみ 助手・小松 良子				
科目責任者氏名	沼澤さとみ				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	<p>老い（老化）とは何かを身体的・心理的・社会的側面から考察し、高齢者を全人的に理解できるための知識を習得する。また、高齢者の家庭や社会における役割および健康レベルに応じた援助方法を学ぶ。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢による身体的、心理的・社会的変化を理解し、老年期にある対象者の身体的・心理的・社会的特徴を考察できる。 2. わが国の高齢者に関わる保健・医療・福祉システムの理念と社会構造を理解する。 3. 高齢者の人権や倫理にかかわる諸問題とその捉え方を知る。 4. 老年看護学の理念や看護過程を展開していくための基礎的考え方を知る。 				
成績評価方法	<p>筆記試験（70％）レポート（20％）：到達目標1～4の評価 演習への参加状況・レポート「高齢者疑似体験と移動」を通しての学びについて（10％）：到達目標1の評価</p>				
成績評価基準	<p>目標1～4について、以下の基準で評価する 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	老年期の理解（1）	老いとは何か① ・加齢による心理的・社会的変化、ライフステージとしての老年期	講義	既習の解剖生理学を復習確認して臨むこと	非常勤講師
2	老年期の理解（2） 老年看護の理念と役割	老いとは何か② ・加齢による身体的変化と老年病の特徴	講義	既習の解剖生理学を復習確認して臨むこと	非常勤講師
3	老年期の援助の特徴	加齢による身体的・心理的・社会的変化に伴う援助の特徴 －転倒予防と事故防止、コミュニケーション、認知症への援助、摂食・嚥下障害	講義	1-2講を復習してくること	非常勤講師
4	援助の展開（1）	「高齢者疑似体験と移動」 「摂食・嚥下障害への援助」 「ライフヒストリーグループワーク」	演習	既習内容の理解の確認	非常勤講師 沼澤 小松
5	援助の展開（2）	「高齢者疑似体験と移動」 「摂食・嚥下障害への援助」 「ライフヒストリーグループワーク」	演習	既習内容の理解の確認	非常勤講師 沼澤 小松
6	老年保健とヘルスプロモーション 高齢者の倫理	・老年保健とヘルスプロモーション ・高齢者の人権と倫理、ソーシャルサポートシステム	講義		非常勤講師
7	高齢者を取り巻くケアシステム	わが国の高齢者に関する保健・医療・福祉システムと介護保険	講義	レポート課題	非常勤講師
8	まとめ	老年看護学概論のまとめ 演習「ライフヒストリーグループワーク発表」	講義・演習	既習内容の復習	非常勤講師 沼澤 小松

日付
6.9.26 (木) 4
6.10.3 (木) 4
6.10.10 (木) 4
6.10.17 (木) 4
6.10.24 (木) 4
6.10.31 (木) 4
6.11.7 (木) 4
6.11.14 (木) 4

教科書	1) 随時紹介します。 2) 「厚生指標 国民衛生の動向」(厚生統計協会)
参考書	1) 「新しい時代の看護実践を支える 老年看護学」川原礼子・齋藤美華 著, 青踏社 2) 「高齢社会白書」(内閣府)
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	非常勤講師： 沼澤：snumazawa@yachts.ac.jp 小松：rkomatsu@yachts.ac.jp
備考	老年期とは、いずれは私たちも通るみちです。それを踏まえて学んでいきましょう。

授業科目	老年看護方法論	科目英語表記	Methods in Gerontological Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 沼澤さとみ				
科目責任者氏名	沼澤さとみ				
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ				
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	高齢者看護の特性を捉え、そのケア技術の原理を理解した上で、あらゆる健康レベルに応じ、かつ、様々な生活の場において援助できる力を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な健康問題やニーズをもった対象への看護過程を展開できる能力を習得する。 2. 高齢者の生活する場や生活形態・様式に沿った形で看護過程を展開できる能力を習得する。 3. 高齢者の転倒予防や事故防止に対して、専門的知識や技術を理解する。 4. 高齢者の家族をはじめとして、高齢者を取り巻く人々のソーシャル・サポートの概念を理解する。 5. 高齢者の個々に応じたヘルスプロモーションについて提案できる能力を習得する。 				
成績評価方法	筆記試験 80%：目標1～5を評価 演習への参加状況・レポート 20%：目標1・2を評価				
成績評価基準	<p>目標1～5について、筆記試験、演習への参加状況・レポートをもとに以下の基準で評価する</p> <p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる</p> <p>優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる</p> <p>良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる</p> <p>最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる</p> <p>目標に到達していない；説明できない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	高齢者と人権擁護 高齢者と環境	高齢者の人権と倫理および性に関する問題、ソーシャルサポートシステム、わが国の高齢者に関わる保健・医療・福祉システムと介護保険	講義	老年看護に関する既習の知識を確認して臨むこと	非常勤講師 後藤
2	高齢者と家族	・家族形態の社会的変化（人口の高齢化と家族形態の変化、高齢者介護と家族問題） ・家族への支援	講義	老年看護に関する既習の知識を確認して臨むこと	非常勤講師 後藤
3	高齢者への医療的援助と入院時の援助、退院支援 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護	・入院生活への援助 ・検査、薬物療法・手術を受ける高齢者への援助 ・退院に向けての援助（継続看護、訪問看護） ・廃用症候群、うつ病、せん妄など、アセスメントと予防および援助	講義		非常勤講師 齋藤
4	高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護 老年看護の基本技術－コミュニケーション障害	・搔痒症、視覚障害、聴覚障害、骨粗鬆症、パーキンソン症候群など、アセスメントと予防および援助 ・コミュニケーションの特徴と工夫 ・起こりやすい病的な変化と援助（言語障害）	講義		沼澤
5	老年看護の基本技術－清潔・衣生活、脱水予防	・住環境と衣環境、清潔への援助	講義		小松

		・脱水予防のアセスメントと援助			
6	老年看護の基本技術 －睡眠障害、活動と休息への援助	・睡眠障害のアセスメントと援助 ・活動と休息のアセスメントと援助	講義		小松
7	高齢者の転倒とリハビリテーション	・転倒が高齢者に及ぼす影響、転倒予防の意義 ・高齢者が転倒しやすい要因・背景、転倒の危険因子、転倒の実態と特徴 ・転倒予防・アセスメントと支援、事故防止 ・歩行・移動動作のアセスメントと援助	講義		理学療法学科 工藤
8	高齢者の終末期ケア	・終末期の概念と高齢者の晩年期の特徴 ・高齢者在宅終末期の利点と課題 ・家族の参加と家族への支援	講義		非常勤講師 後藤
9	高齢者の食生活と栄養（フレイル）	・高齢者にとっての食べることの意義 ・高齢者の食生活の特徴 ・在宅高齢者にみられる食生活の問題 ・高齢者の低栄養と食生活に影響を与える要因 ・高齢者の低栄養予防について	講義		非常勤講師 後藤
10	老年看護の基本技術 －認知障害への援助	・認知症高齢者ケアにおける看護の目標 ・認知症の特徴 ・在宅で療養する認知症高齢者と家族の特徴 ・認知症様症状のアセスメント ・看護の展開（ケアの原則、身体的ケア） ・家族介護者への支援	講義		非常勤講師 後藤
11	老年看護の基本技術 －認知障害への援助	・認知症高齢者ケアにおける看護の目標 ・認知症の特徴 ・在宅で療養する認知症高齢者と家族の特徴 ・認知症様症状のアセスメント ・看護の展開（ケアの原則、身体的ケア） ・家族介護者への支援	講義		非常勤講師 後藤
12	老年看護の基本技術 －排泄への援助	・排泄のアセスメントと援助 ・尿失禁のアセスメントと援助 ・便秘・下痢のアセスメントおよび予防と援助	講義		小松
13	老年看護の基本技術 －摂食・嚥下障害への援助、口腔ケア	・摂食・嚥下、誤嚥の病態生理、嚥下障害への看護 ・窒息時の対応、口腔ケアについて ・胃ろうについて	講義		小松
14	老年看護の基本技術 －摂食・嚥下障害への援助、口腔ケア<演習>	・食事介助と口腔ケア（高齢者および看護者の立場で実施）、義歯の管理、胃ろうの管理 ・身体拘束 ・演習のまとめ・記録	演習		小松 非常勤講師 齋藤 沼澤
15	老年看護の基本技術 －摂食・嚥下障害へ	・食事介助と口腔ケア（高齢者および看護者の立場で実	演習		小松 非常勤講師 齋藤

	の援助、口腔ケア	施)、義歯の管理、胃ろうの管理 ・身体拘束 ・演習のまとめ・記録			沼澤
16	まとめ	老年看護の基本技術等のまとめ			沼澤 小松
17	高齢者のリハビリテーションと生活援助	・高齢者にとってのリハビリテーションの意義 ・ADL障害とリハビリテーション ・生活活性化に向けたリハビリテーション ・認知機能低下予防・認知症のリハビリテーション ・多職種連携	講義		作業療法学科 佐藤
18	高齢者を対象とした看護過程 高齢者への相談・指導の基本	・高齢者の特性と看護の展開 ・看護過程と展開上の留意点 ・生活実態の把握と生活能力の見極め方 ・高齢者との面接時の留意点 ・高齢者に対する指導と留意点	講義		非常勤講師 齋藤
19	事例看護過程	事例看護過程展開	演習		小松 非常勤講師 齋藤
20	事例看護過程	事例看護過程展開（グループでの発表・討議）	演習	発表・討議の準備	小松 沼澤
21	事例看護過程	事例看護過程展開（グループでの発表・討議）	演習		小松 沼澤
22	事例展開の概略	事例看護過程（グループ発表） 事例展開の概略	演習	発表の準備	小松 非常勤講師 齋藤 沼澤
23	事例展開の概略	事例看護過程（グループ発表） 事例展開の概略	演習	発表の準備	小松 非常勤講師 齋藤 沼澤

日付

6.4.16 (火) 3・4
6.4.23 (火) 4
6.4.30 (火) 3・4
6.5.14 (火) 3・4
6.5.28 (火) 3・4
6.6.11 (火) 3・4
6.6.18 (火) 3・4
6.6.25 (火) 3・4
6.7. 2 (火) 3・4
6.7. 9 (火) 3・4
6.7.16 (火) 3・4
6.7.23 (火) 3・4

教科書	
参考書	1)「新しい時代の看護実践を支える 老年看護学」川原礼子・齋藤美華 著, 青踏社 2)「根拠と事故防止からみた 老年看護技術」亀井智子 編集, 医学書院 3)「高齢者看護学 第3版」亀井智子・小玉敏江編集, 中央法規 4)「厚生指針 国民衛生の動向」(厚生統計協会)
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修	該当

得しておかなければならない科目	
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp 小松：第1共同研究室 rkomatsu@yachts.ac.jp
備考	老年看護学概論および既履修した科目を復習しておいてください。

授業科目	高齢者生活探究実習	科目英語表記	Older adults life exploration Practice		
職名、担当教員氏名	教授 沼澤さとみ 助手 小松 良子				
科目責任者氏名	沼澤さとみ				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	特別養護老人ホーム、障がい者施設など様々な場において、地域とのつながりを保ちながら地元で生活している高齢者の健康および健康問題について理解するとともに、高齢者の生活および地域の連携を含めた関わりの実際について学ぶ。				
到達目標	1. 特別養護老人ホーム、障がい者施設の概要と特徴を理解する。 2. 特別養護老人ホーム、障がい者施設で生活している人々と人間関係を築き、人々の生活と健康および健康問題について理解を深める。 3. 高齢者の生活において、関係職種が連携・調整することの意義について理解する。				
成績評価方法	目標達成度について、実習記録物、実習態度などから総合的に評価する。				
成績評価基準	目標達成度について、評価表を用いて評価する				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	実習の目的・目標 実習方法 実習の展開 実習記録 等				沼澤 小松
実習	施設で生活する高齢者の理解と関係職種の連携・調整に関する理解と考察	実習施設：山形市内および近在の介護老人福祉施設、障がい者施設 詳細は実習要項に記載	高齢者とのコミュニケーションおよび高齢者へのケアの見学を中心に実習を展開する。	既習の知識・技術等を確認しておくこと	沼澤 小松 他
日付					
6.8.5 (月) ～ 6.8.9 (金)					

教科書	なし
参考書	各自、必要なものを自分で探すこと。
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1／看護2／看護3／看護4
先修条件指定科目	該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者（看護師等）が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、介護施設等における高齢者に対するケア等について実習する科目です。

教員の連絡先	沼澤：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp 小松：第1共同研究室 rkomatsu@yachts.ac.jp
備考	自己の健康管理を十分に行い、これまで学んだ知識・技術を活用して実習に臨むこと。 高齢者とのコミュニケーションが図れるように心がけること。 事前学習をしっかりと行い、積極的に取り組んでください

授業科目	老年看護学実習	科目英語表記	Gerontological Nursing Practice		
職名、担当教員氏名	教授 沼澤さとみ 助手 小松 良子				
科目責任者氏名	沼澤さとみ				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	病院で生活する高齢者と家族の健康および健康問題について理解し、病院や施設、地域の連携を含めた継続的な支援体制を考慮しながら、関係職種と連携を図りながら行われるニーズに対応した看護援助の展開について学ぶ。また、実習を通して老年看護の基本的実践能力を養う。				
到達目標	1. 高齢者とその家族を対象として人間関係を築き、生活と健康および健康問題について理解する。 2. 健康問題を抱えている高齢者を対象に、ニーズに対応した看護援助を展開する。 3. 高齢者の看護において、関係職種が連携・調整することの意義について理解する。				
成績評価方法	目標達成度について、実習記録物、実習態度などから総合的に評価する				
成績評価基準	4/5以上の出席を条件とする。 実習目標の到達度について、実習要項に掲載する実習評価表を用いて評価する。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	実習目的・目標 実習場所 実習方法 事前学習 等	実習施設：独立行政法人 国立病院機構 山形病院、社会福祉法人恩賜財団済生会 山形済生病院のいずれか1か所 実習方法等の詳細は実習要項に記載		・老年看護学概論、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学方法論の知識を再確認する。 ・老年看護学に関する科目だけでなく、これまで学んだすべての講義・演習・実習に関する科目を復習する。	沼澤 小松
実習	病院で生活する高齢者を受け持ち、看護過程を展開する	高齢者1名を担当し、実習指導者とともに高齢者への援助を実践する。	・受持ち患者の看護：受持ち患者に対して、指導者の助言・指導のもと、看護過程を展開・実践する ・カンファレンス：看護実践に関して情報共有・意見交換する	受持ち患者の看護に必要な知識や技術は自己学習してください。	沼澤 小松 ほか
日付					
6.9.17(火) ～ 7.1.31(金)					

教科書	なし
参考書	必要なものを自分で探すこと
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1／看護2／看護3／看護4
先修条件指定科目	該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当

実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者等が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院（臨床）における高齢者に対する看護過程を展開する科目です。
教員の連絡先	沼澤：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp 小松：第1共同研究室 rkomatsu@yachts.ac.jp
備考	自己の健康管理を十分に行い、これまで学んだ知識・技術を活用して実習に臨んでください。 高齢者およびグループメンバー、指導者等とのコミュニケーションが図れるように心がけること。 事前学習をしっかりと行い、積極的に取り組んでください。

授業科目	精神看護学概論	科目英語表記	Introduction to Psychiatric Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明 講師 高谷 新				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	精神健康に関する影響要因を解説するとともに、精神的危機を迎えた人や精神障がい有する人に関する援助方法に関する現在と過去の動向を解説する。また、精神保健に関する世界的動向を教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健を心の機能の発達の観点から理解し、各段階における健康の促進要因と阻害要因について例を挙げて説明できる。 2. 精神健康が阻害される状況について、心身の関連および心理社会的背景を査定できるとともに、精神健康の回復過程について具体例を挙げるができる。 3. 精神的危機に対する援助と制度について説明できる。 4. 精神保健の観点から権利擁護を捉え、精神保健福祉法や虐待防止法等の背景にある理念を説明できる。 5. 人間の尊厳を前提においた精神看護のあり方について自分の周囲にある事象に照らして記述できる。 				
成績評価方法	評価方針：知識の獲得と論理展開、講義への参加度から総合評価する。 60%：試験（知識の獲得）【到達目標1～3を評価】 30%：レポート（例示などの論理展開）【到達目標4および5を評価】 10%：講義への参加度（学生間討議への参加度など）				
成績評価基準	到達目標1～5の各々について以下の基準で評価をするものとする。 特に優れてる；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	精神保健と精神看護における主題	<ul style="list-style-type: none"> ・精神健康と精神保健学の概要 ・ライフサイクルと精神発達 の概要 ・生理・心理・社会モデルの発展史 	教科書および補足資料を用いて講義を行う。		安保 高谷
2	生理・心理・社会モデルと精神看護学（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・心身相関とリエゾン精神看護 ・ストレス反応とストレスモデル ・防衛機制とレジリエンス 	教科書および補足資料を用いて講義を行う。	レポート課題①の提示	高谷
3	生理・心理・社会モデルと精神看護学（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・援助希求の促進とセルフケア ・国際学際的精神保健 	教科書および補足資料を用いて講義を行う。		安保
4	生理・心理・社会モデルと精神看護学（3）	<ul style="list-style-type: none"> ・社会モデルとしての精神保健 ・事例を通じた理解 	教科書および補足資料を用いて講義を行う。		高谷
5	生理・心理・社会モデルと精神看護学（4）	<ul style="list-style-type: none"> ・身体侵襲と加齢に伴う精神機能への影響 ・せん妄、記憶などの機能と援助 	教科書および補足資料を用いて講義を行う。		高谷 スポット吉澤理恵（山形さくら町病院）
6	精神機能の発達と危機（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の精神発達と情動の多彩化 ・共同注視と感覚刺激 	教科書および補足資料を用いて講義を行う。		安保

7	精神機能の発達と危機(2)	・ 幼児期の精神発達と信頼の定義づけ ・ 倫理観とパーソナリティ、ストレングス	教科書および補足資料を用いて講義を行う。		安保
8	精神機能の発達と危機(3)	・ 学童期の精神発達と原因帰属 ・ 自己効力感、認知、仲間意識	教科書および補足資料を用いて講義を行う。		安保
9	精神機能の発達と危機(4)	・ 青年期前期の精神発達と自己同一性 ・ 自己同一性、欲求階層	教科書および補足資料を用いて講義を行う。	レポート課題②の提示	安保
10	精神機能の発達と危機(5)	・ 成人期の精神発達と社会的成熟(1) ・ 職場と家庭のメンタルヘルス	教科書および補足資料を用いて講義を行う。		安保
11	精神機能の発達と危機(6)	・ 成人期の精神発達と社会的成熟(2) ・ 事例を通じた理解	教科書および補足資料を用いて講義を行う。		安保
12	権利擁護と回復(1)	・ 社会的弱者と法・制度の意味合い ・ 保護的処遇と施設症 ・ 訪問看護、精神科デイケアの機能	教科書および補足資料を用いて講義を行う。		高谷
13	権利擁護と回復(2)	・ 社会的弱者の権利擁護と精神保健 ・ 意思決定支援の3段階	教科書および補足資料を用いて講義を行う。	レポート課題③の提示	高谷
14	生理・心理・社会モデルと精神看護学(5)	これまでの学習内容に関連する事例を通じた理解	教科書および補足資料を用いて講義を行う。		安保 高谷 スポット
15	精神保健看護の主題	・ 全体像の整理 ・ 危機理論、心理学的ストレス理論、回復(リカバリー)に関する演習	教科書および補足資料を用いた講義、演習を行う。		安保 高谷

日付

6.9.27(金)1
6.10.4(金)1
6.10.11(金)1
6.10.18(金)1
6.10.25(金)1
6.11.1(金)1
6.11.8(金)1
6.11.15(金)1
6.11.22(金)1
6.12.6(金)1
6.12.13(金)1
6.12.20(金)1
7.1.10(金)1
7.1.17(金)1
7.1.24(金)1

教科書	精神看護学概論 精神保健 (岩崎弥生, 渡邊博幸(編)、メヂカルフレンド社(2019))
参考書	参考書は講義にて紹介する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかな	該当

なければならない科目	
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保 寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp 高谷 新：研究室10 stakaya@yachts.ac.jp
備考	合理的配慮が必要な学生は事前に申し出ることが望ましい。

授業科目	精神看護方法論Ⅰ	科目英語表記	Methods in Mental Health and Psychiatric Nursing I		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明 講師 高谷 新 非常勤講師 佐藤 大輔				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	精神の健康と保持・増進に向けた看護についての学習を前提とした、精神疾患を有する人への看護について精神機能と心理状態の保護要因と阻害要因を理解するとともに、環境調整や直接援助による回復過程を理解する。				
到達目標	1. 人間が生きるうえでの精神機能と入院や通院などの患者役割がもたらす影響を、短期および長期の観点から整理することができる。 2. 生理学的理解：主な精神疾患に関する生理学的仮説を理解し、薬物療法などの生理学的治療における作用と副作用、検査の根拠を説明することができる。 3. 心理学的理解：精神療法およびリハビリテーション療法のうち、来談者中心療法やSSTなどの心理社会的介入を心の機能との関係から理解し一定の行動をとることができる。				
成績評価方法	評価方針：知識による理解と行動（社会的側面も含む）による達成の双方を取り扱う。 講義への出席と演習参加：演習参加の評価は、おもに到達目標1～3に関連した評価 30% 試験および小試験：到達目標全体に関して評価 70%				
成績評価基準	到達目標1～3の各々について以下の基準で評価をするものとする。 特に優れてる；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ガイダンス 精神看護の対象	1. 精神看護学概論の整理 2. 精神疾患における治療と回復 3. 精神看護における援助の特徴	教科書および補足資料を用いて講義を行う。	既習範囲の理解度を確認するための演習を行うため、その結果に沿って学習計画を立てること	安保 寛明 高谷 新
2	精神看護における援助の基盤①連帯と安心に注目した援助	1. こころの健康と援助関係 2. プロセスレコードとその活用 3. 心理的安全性（環境のアセスメント）	教科書および補足資料を用いて講義を行う。	身近な事例をもとに学習内容を説明可能にすること	安保 寛明
3	精神看護の方法①治療的面接と動機づけ（1）	1. ストレングスアセスメント 2. リフレーミング 3. 強みと希望のアセスメント演習	教科書および補足資料を用いて講義、演習を行う。	身近な事例をもとに学習内容を説明可能にすること	安保 寛明
4	精神看護の方法①治療的面接と動機づけ（2）	1. ストレングスアセスメント 2. リフレーミング 3. 強みと希望のアセスメント演習	教科書および補足資料を用いて講義、演習を行う。	身近な事例をもとに学習内容を説明可能にすること	安保 寛明
5	精神看護の方法② 集団療法（1）	1. 集団が持つ意味合い 2. 集団療法の種類（SST、作業療法の一部） 3. 集団療法演習	教科書および補足資料を用いて講義、演習を行う。		高谷 新 佐藤 大輔
6	精神看護の方法① 集団療法（2）	1. 集団が持つ意味合い 2. 集団療法の種類（SST、	教科書および補足資料を用いて講義、演習を行う。		高谷 新 佐藤 大輔

		作業療法の一部) 3. 集団療法演習			
7	精神疾患と精神症状への援助①気分障害、不安症	1. 晴れない気持ちと付き合うこと 2. 抗うつ薬・抗不安薬・睡眠薬	教科書および補足資料を用いて講義を行う。		高谷 新
8	精神疾患と精神症状への援助②統合失調症	1. 幻覚がありつつ生きるということ 2. 抗精神病薬	教科書および補足資料を用いて講義を行う。		高谷 新
9	精神看護における援助の基盤②セルフケアの査定と援助	1. セルフケアモデル 2. 精神症状がもたらす認知モデルへの影響 3. 認知に影響が生じているときの援助	教科書および補足資料を用いて講義を行う。	身近な事例をもとに学習内容を説明可能にすること	安保 寛明
10	援助者（家族や専門職）のエンパワメント・意思決定	1. 家族支援・専門職支援 2. エンパワメント 3. 安心のための合意形成	教科書および補足資料を用いて講義を行う。		高谷 新
11	精神疾患と精神症状への援助③依存と摂食障害	1. 孤独と不安を抱えて過ごすこと 2. 偏ったコーピングによる影響	教科書および補足資料を用いて講義を行う。	身近な事例をもとに学習内容を説明可能にすること	安保 寛明
12	精神看護方法論Ⅰのまとめ	1. 学習内容の整理 2. 援助基盤の整理	教科書および補足資料を用いて講義を行う。	学習計画に沿った学習過程が達成できたか自己評価すること 精神健康を保持増進するための身体・心理・社会的側面を身近な事例から言及すること	安保 寛明 高谷 新

日付

6.9.25 (水) 2
6.10.2 (水) 2
6.10.9 (水) 1・2
6.10.16 (水) 1・2
6.10.23 (水) 2
6.10.30 (水) 2
6.11.20 (水) 2
6.12.4 (水) 2
7.1.8 (水) 2
7.1.15 (水) 2

教科書	岩崎弥生編 精神看護学Ⅱ 精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社 *精神看護学概論、精神障がい論で指定された教科書も用いる。
参考書	山本勝則他編 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 メジカルフレンド社 前田ケイ 基本から学ぶSST 星和書店 宮本眞巳 看護場面の再構成 日本看護協会出版会
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	

教員の連絡先	安保 寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp 高谷 新：研究室10 stakaya@yachts.ac.jp
備考	講義や演習には積極的に参加することを期待します。 グループ演習では他者の意見を尊重しながら積極的に発言し、グループのまとめに貢献しましょう。

授業科目	精神看護方法論Ⅱ	科目英語表記	Methods in Mental Health and Psychiatric Nursing II		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明 講師 高谷 新 助教 鈴木 龍生				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	精神の健康と保持・増進に向けた看護についての学習を前提とした、精神疾患を有する人への看護について精神機能と心理状態の保護要因と阻害要因を理解するとともに、環境調整や直接援助による回復過程を理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間が生きるうえで精神機能と入院や通院などの患者役割がもたらす影響を、短期および長期の観点で理解し、精神看護における看護の役割について考察することができる。 2. 自他の生命と生活を維持することとその援助について、意思決定や権利擁護の観点を加えて説明することができる。また、援助関係における発展と終結を理解することができる。 3. 社会的理解：病の経験がもたらす影響を患者本人と周囲の人の立場から考察し、回復に向けた社会的援助の要点を説明することができる。 4. 精神科訪問看護やデイケアなど、地域精神看護の実践上の特徴を説明することができる。精神障がい者が地域で生活するための課題と援助及び資源について説明することができる。 				
成績評価方法	<p>評価方針：知識による理解と行動（社会的側面も含む）による達成の双方を取り扱う。</p> <p>30パーセント・・・講義への出席と演習参加：演習参加の評価は、おもに到達目標1、2、3、4に関連した評価とする。</p> <p>70パーセント・・・試験および小試験：到達目標全体に関して評価を行う。</p>				
成績評価基準	<p>到達目標1～4の各々について以下の基準で評価をするものとする。</p> <p>特に優れてる；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる</p> <p>優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる</p> <p>良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる</p> <p>最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる</p> <p>目標に到達していない；説明できない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ガイダンス 精神看護の対象	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護方法論Ⅰの整理 2. 精神疾患のとらえ方 	学習内容について教科書、補足資料を用いて講義を行う。	過去の講義で獲得した内容と照らして、効果的な学習計画を立てること	安保 寛明 高谷 新
2	看護計画とアセスメントⅠ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理心理社会モデルの統合 2. 現象把握とアセスメントの精査 3. 全体アセスメントと焦点化（講義） 	学習内容の項目に関する講義を行う		高谷 新 安保 寛明
3	看護計画とアセスメントⅡ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理心理社会モデルの統合 2. 現象把握とアセスメントの精査 3. 全体アセスメントと焦点化（演習） 	学習内容について教科書、補足資料を用いて講義を行う。また、演習を行う。	学習内容を身近な事例や過去の事例に照らして分析すること	高谷 新 安保 寛明
4	看護計画とアセスメントⅢ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理心理社会モデルの統合 2. 現象把握とアセスメントの精査 3. 全体アセスメントと焦点化（第3回講義の演習の続きを行う） 	教科書、補足資料を用いて講義を行う。また、演習を行う。	学習内容を他の事例にも適用できるよう、個別性に左右される要素と汎用性の高い要素を整理すること	高谷 新 安保 寛明
5	看護計画とアセスメントⅣ	看護計画のマネジメント 長期入院患者との関わり	学習内容について教科書、補足資料を用いて講義を行う。また、演習を行う。	学習内容を他の事例にも適用できるよう、個別性に左右される要素と汎	高谷 新 安保 寛明

				用性の高い要素を整理すること	
6	精神看護の方法①権利擁護	精神医療における権利擁護 厚生労働大臣が定める処遇の 基準	学習内容について教科書、補 足資料を用いて講義を行う。	学習内容を言語化し概念的基 盤と結びつけること	高谷 新 スポット佐東一幸（山形さく ら町病院）
7	精神看護の方法②情 動を伴うリスク状態 の対処	行動制限の影響と権利擁護 包括的暴力防止プログラム (CVPPP)	学習内容について教科書、補 足資料を用いて講義を行う。	演習内容を言語化し、経験を 概念的基盤と結びつけること	高谷 新 スポット佐東一幸（山形さく ら町病院）
8	精神疾患と精神症状 への援助①	抑うつ気分と付き合いことの 意味 気分や感情の面に焦点化した アセスメント 援助の構造	学習内容について教科書、補 足資料を用いて講義を行う。	学習内容に照らして過去の事 例や身近な経験を再分析する こと	高谷 新
9	精神疾患と精神症状 への援助②	1. 治療や行動変容への動機 づけ 2. セルフモニタリング・対 処行動の強化 3. セルフヘルプと家族と専 門職	学習内容について教科書、補 足資料を用いて講義を行う。	学習内容に照らして過去の事 例や身近な経験を再分析する こと	安保 寛明
10	精神疾患と精神症状 への援助③	1. リカバリー 2. 生きがいと自己他者信頼 (映画「Beautiful Mind」を 用いて)	学習内容について教科書、補 足資料を用いて講義を行う。	学習内容に照らして過去の事 例や身近な経験を再分析する こと	安保 寛明
11	精神看護における援 助の基盤①連帯と安 心に注目した援助	1. 信頼関係の構築 2. 自己決定と共同意思決定 3. 心理社会的危機における 権利擁護	学習内容について教科書、補 足資料を用いて講義を行う。	共同意思決定の過程に照らし て身近な事例を記述すること	安保 寛明
12	精神看護における援 助基盤② アセスメントと援助 の基礎と応用 精神看護方法論Ⅱの まとめ	臨床的に有益な理論 学習内容の統合	精神看護学の臨床に有益な理 論について 理論と実践（事例）との対応 を学ぶ	第11回以前に取り扱った事例 について 理論に基づいたアセスメント 及び分析を行うこと	安保 寛明 高谷 新

日付

6.4.18 (木) 1・2
6.4.25 (木) 2
6.5.9 (木) 2
6.5.16 (木) 2
6.5.23 (木) 1・2
6.6.6 (木) 2
6.6.13 (木) 2
6.6.20 (木) 2
6.6.27 (木) 2
6.7.4 (木) 2

教科書	岩崎弥生編 精神看護学Ⅱ精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社
参考書	山本勝則他編 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 メジカルフレンド社 前田ケイ 基本から学ぶSST 星和書店 宮本眞巳 看護場面の再構成 日本看護協会出版会
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	看護1/看護2/看護3
先修条件指定 科目	非該当
先修条件指定 科目において あらかじめ修 得しておかな ければならな い科目	該当
実務経験のあ る教員	

実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明 hambo@yachts.ac.jp 15研究室 高谷 新 stakaya@yachts.ac.jp 10研究室
備考	講義や演習には積極的に参加することを期待します。 グループ演習では他者の意見を尊重しながら積極的に発言し、グループのまとめに貢献しましょう。

授業科目	精神保健学実習	科目英語表記	Mental Health Nursing Practice		
職名、担当教員氏名	講師 高谷 新 教授 安保 寛明				
科目責任者氏名	高谷 新				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	精神保健の観点から人々の暮らしと精神的健康について理解し、精神保健に関する自助、共助、公助を促進するための場や環境について、実践を通して理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.健康と生活の質の概念における精神健康の意味と意義について説明できる。 2.精神健康の保持と増進に有効な心理的安全性のある場について、行動とともに説明できる。 3.社会的包摂の概念に基づき、精神保健の面で配慮が必要な人々に対する機会や援助について例とともに説明できる。 4.援助希求行動の存在を踏まえ、実習指導者や学生同士などの学習者援助関係を活用できる。 5.精神障がいや有する人を支援しうる医療福祉資源について具体例とともに述べられる。 6.精神保健の面で配慮が必要な人々との関係形成において、行動を通じて尊厳や心理社会的基盤の尊重を表明できる。 				
成績評価方法	<p>実習目標とその到達度について教員評価と学生自身が自己評価を行い、双方から総合的に行うものとする。 自己評価は実習指導者等からの指導、フィードバックにより推察される評価を踏まえて自己評価を行うものとする。 教員評価に関しては、実習における行動評価と実習記録などによる知識および理解力評価を行う。 (評価項目は実習記録内に示すものとする)</p> <p>評価項目は、実習準備・環境の理解(事前学習課題、実習出席状況等) 到達目標1～3および5に関連する5項目、学習環境づくり・学習過程(他者との協働、教員や実習指導者への報告) 到達目標4に関連する6項目 対象者の理解・援助過程の形成(実習での学習行動、援助者としての対象者への配慮や関係の形成) 到達目標6に関する9項目</p>				
成績評価基準	<p>評価項目について以下の基準で評価をするものとする。(※()の数字は評定点)</p> <p>十分にできた(5); 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる、あるいは行動として示すことができる だいぶできた(4); 根拠をふまえて論理的に説明できる、あるいは行動として示すことができる 良好である(3); 根拠を用いてある程度論理的に説明できる、あるいは行動として示すことができる 最低限の到達(2); 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる、あるいは部分的に行動として示すことができる 目標に到達していない(1); 説明できない、行動として示すことができない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	精神保健学実習の概要、目的、目標および実習内容についてのオリエンテーションを対面および動画視聴(Microsoft Stream)により行う。	実習の概要、目的、目標および実習内容について 各実習施設(就労継続支援事業所、就労移行支援、精神科デイケア、児童発達支援・放課後等デイサービス)の概要	実習要項、精神看護学概論で指定した教科書を用いる。		高谷
実習	・精神保健の面で配慮が必要な人々のための環境の理解 ・場への参加を通じた環境のアセスメント ・実習指導者や精神科専門職者および他実習生との関係の構築と学習への活用	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障がいや精神疾患を有する人のための機会や場に同席、参加する 2. デイケア、就労支援などの経験を通じて、心理的安全性のある環境のための環境や援助の工夫を把握する 3. 社会参加にむけた共助の場に参加することを通じて、共助の場に必要な要素と専門職者や専門的な訓練を受けた人々が行うファシリテーションなどの場づくりの工夫について見学や説明を通じて理解する <p>※詳細は精神保健学実習要項を参照のこと</p>	県内の就労支援事業所(A型・B型)、就労移行支援事業所、精神科デイケア、児童発達支援・放課後等デイサービス事業所に実習を行う。	・実習施設のオリエンテーション ・対象の理解に必要な復習・予習は主体的に行う	高谷 安保

日付

教科書	
参考書	参考図書：精神看護実習ガイド（照林社）
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1／看護2／看護3
先修条件指定科目	該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、精神科医療機関（臨床）における看護過程を展開する科目です。
教員の連絡先	安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp 高谷 新：研究室10 stakaya@yachts.ac.jp
備考	心身の健康度を維持するよう実習に備え準備してください。

授業科目	精神看護学実習	科目英語表記	Psychiatric Nursing Practice		
職名、担当教員氏名	講師 高谷 新 教授 安保 寛明 助教 鈴木 龍生				
科目責任者氏名	高谷 新				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	精神看護を必要とする人を総合的に理解し、その人の回復過程と生活支援の全体像を理解しながら、精神健康の向上に寄与する看護について実践を通じて教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護を必要とする人との信頼関係を形成する為に、言語や行動での相互作用を説明できる。 2. 精神看護を必要とする人について、生理・心理・社会的側面を念頭においた理論的枠組みを用いて説明することができる。 3. 精神看護を必要とする人に対して行われる診療や提供される療養環境を整理して説明できる。 4. 精神看護を必要とする人に存在する人間的魅力や強み（ストレングス）を明らかにすることができる。 5. 精神疾病を有する人への援助について、アセスメントをもとに計画的に実施することができる。 6. 精神保健福祉法や虐待防止法などに存在する権利擁護の観点の踏まえた構造や行為の工夫を説明できる。 7. 実習指導者や学生同士などの関係性の違いを活用した学習者間援助関係を活用できる。 8. 精神障がい者を支援する医療福祉資源について具体例とともに述べられる。 				
成績評価方法	<p>実習目標とその到達度について教員評価と自己評価を行い、双方から総合的に行うものとする。 自己評価は実習指導者等からの指導、フィードバックによる推察される評価を踏まえて自己評価を行うものとする。 教員評価に関しては、実習における行動評価と実習記録などによる知識および理解力評価を行う。 (評価項目表は実習記録内に示すものとする) 評価項目は、実習準備・環境の理解（事前学習課題、実習出席状況等） 到達目標1～3に関連する5項目、学習環境づくり・学習過程（他者との協働、教員や実習指導者への報告）到達目標4および7に関連する6項目 対象者の理解・援助過程の形成（実習での学習行動、援助者としての対象者への配慮や関係の形成） 到達目標5、6、8に関する9項目からなる。</p>				
成績評価基準	<p>評価項目について以下の基準で評価をするものとする。(※ () の数字は評定点) 十分にできた (5) ; 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる、あるいは行動として示すことができる だいたいできた (4) ; 根拠をふまえて論理的に説明できる、あるいは行動として示すことができる 良好である (3) ; 根拠を用いてある程度論理的に説明できる、あるいは行動として示すことができる 最低限の到達 (2) ; 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる、あるいは部分的に行動として示すことができる 目標に到達していない (1) ; 説明できない、行動として示すことができない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	精神看護学実習の概要、目的、目標および実習内容についてのオリエンテーションを対面および動画視聴 (Microsoft Stream)により行う。	実習の概要、目的、目標および実習内容について 各実習施設 (社会医療法人二本松会かみのやま病院、山形さくら町病院) の概要	実習要項、精神看護学概論で指定した教科書を用いる。		高谷
実習	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患を有する人の健康面のアセスメント ・精神疾患を有する人への関係形成 ・精神障がい者との治療的関係 ・精神科医療機関における治療段階と看護の機能 ・精神科医療機関における患者の権利擁護 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学実習の意義を理解し、意義と目的と計画の関係性を言語により明確化する 2. 精神科に入院している患者を受け持ち、精神機能と心理状態、健康課題、優先して尊厳するべき事項をアセスメントする 3. 患者やその周囲の人々との関係形成をはかる。プロセスレコードを用いて場面を再現する。 4. 集団療法等を通じて人間 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科医療機関にて実習を行う。 ・実習施設のオリエンテーション ・対象の理解に必要な復習・予習は主体的に行う 		高谷 安保 鈴木

	関係や機会の違いによる影響の違いを考察する。		
日付			
6.9.17 (火)			
～			
7.1.31 (金)			

教科書	
参考書	参考図書：精神看護実習ガイド（照林社）
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1／看護2／看護3
先修条件指定科目	該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、精神科医療機関（臨床）における看護過程を展開する科目です。
教員の連絡先	安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp 高谷 新：研究室10 stakaya@yachts.ac.jp
備考	合理的配慮を必要とする学生は、事前に申し出ること。 心身の健康度を維持するように準備してください。

授業科目	在宅看護概論	科目英語表記	Introduction to Home Health Nursing		
職名、担当教員氏名	准教授 鈴木 育子				
科目責任者氏名	鈴木 育子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	在宅療養者を取り巻く社会情勢及び制度、在宅療養者と家族への看護の特徴を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者を取り巻く社会情勢と課題を理解できる。 2. 在宅ケアにかかわる制度、在宅ケアの対象、方法、機能を理解できる。 3. 訪問看護の制度、サービス提供の仕組み、現状を理解できる。 4. 在宅療養において活用される社会資源について理解できる。 5. 在宅療養者のケアマネジメントについて理解できる。 6. 在宅療養者と家族を対象とした看護の機能を理解できる。 				
成績評価方法	筆記試験 70% 到達目標1～5 毎回の授業で提出を求める授業による学びの記述 30% 到達目標1～6				
成績評価基準	<p>筆記試験</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者を取り巻く社会情勢と課題を理解できる。 2. 在宅ケアにかかわる制度、在宅ケアの対象、方法、機能を理解できる。 3. 訪問看護の制度、サービス提供の仕組み、現状を理解できる。 4. 在宅療養において活用される社会資源について理解できる。 5. 在宅療養者のケアマネジメントについて理解できる。 <p>到達目標に沿った設問の出題により、目標の達成度を総合的に評価する 特に優れている：得点率90%以上 優れている：得点率80～89% 良好である：得点率70～79% 最低限の到達：得点率60～69% 目標に未到達：得点率59%以下</p> <p>毎回の授業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者を取り巻く社会情勢と課題を理解できる。 2. 在宅ケアにかかわる制度、在宅ケアの対象、方法、機能を理解できる。 3. 訪問看護の制度、サービス提供の仕組み、現状を理解できる。 4. 在宅療養において活用される社会資源について理解できる。 5. 在宅療養者のケアマネジメントについて理解できる。 6. 在宅療養者と家族を対象とした看護の機能を理解できる。 <p>特に優れている：授業内容に基づいて学んだ内容がわかりやすく記述されており、考察が含まれる 優れている：授業内容に基づいて学んだ内容がわかりやすく記述されている 良好である：授業内容に基づいて学んだ内容が記述されている 最低限の到達：授業内容の羅列になっている 目標に未到達：学んだ内容が不明確である</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	在宅療養者を取り巻く社会情勢と制度、社会資源	在宅ケアの現状	講義 在宅看護の歴史に関するビデオの視聴を含む	人口統計など既習の知識の整理	鈴木
2	在宅療養者を取り巻く社会情勢と制度、社会資源	訪問看護の現状	講義 訪問看護の実際に関するDVDの視聴を含む	既習の知識の整理	鈴木
3	在宅療養者を取り巻く社会情勢と制度、社会資源	在宅ケアにかかわる制度① 訪問看護	講義	在宅ケアにかかわる制度などの既習の知識の整理	鈴木
4	在宅療養者を取り巻く社会情勢と制度、社会資源	在宅ケアにかかわる制度② 介護保険	講義	介護保険制度など既習の知識の整理	鈴木

5	在宅療養者を取り巻く社会情勢と制度、社会資源	在宅ケアにかかわる制度③ 地域包括ケアシステム	講義	在宅ケアにかかわる制度などの既習の知識の整理	鈴木
6	在宅療養者を取り巻く社会情勢と制度、社会資源	在宅ケアにかかわる社会資源 関係機関・関係職種、在宅療養者のケアマネジメント	講義	在宅ケアにかかわる制度などの既習の知識の整理	鈴木
7	在宅療養者と家族への支援	在宅療養者と介護者の現状、 家族の健康とレスパイトケア	講義	在宅ケアにかかわる制度などの既習の知識の整理	鈴木
8	学習状況の確認（試験を含む）	学習状況の確認（試験を含む）	学習状況の確認（試験を含む）	授業全体の復習	鈴木

日付

6.9.27 (金) 3
6.10.4 (金) 3
6.10.11 (金) 3
6.10.18 (金) 3
6.10.25 (金) 3
6.11.1 (金) 3
6.11.8 (金) 3
6.11.15 (金) 3

教科書	
参考書	家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第6版 日本看護協会出版会 ナシグ・ゲラフイ 地域・在宅看護論①「地域療養を支えるケア」 メディカ出版 訪問看護基本テキスト 総論編 日本看護協会出版会 国民衛生の動向、国民の福祉と介護の動向 厚生労働統計協会
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護3/看護4/看護5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	在宅看護方法論Ⅰ	科目英語表記	Methods in Home Care NursingⅠ		
職名、担当教員氏名	助教 栗田 敦子				
科目責任者氏名	栗田 敦子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	在宅で療養する疾病や健康障害を持つ人々と家族の理解と、支援方法について教授する。				
到達目標	1.訪問看護の特徴を説明できる。 2.在宅で療養する疾病や健康障害を持つ人々と家族に対する看護の役割を説明できる。 3.在宅で療養する疾病や健康障害を持つ人々への日常生活の援助について説明できる。 4.在宅で療養する疾病や健康障害を持つ人々への医療処置、療養者の症状や状態に合わせた看護の基本について説明できる。				
成績評価方法	筆記試験 期末試験 70% 到達目標1～4を評価 各授業の理解 Formsの入力 20% 到達目標1～4を評価 授業への参加度 Formsの入力 10% 到達目標1～4を評価				
成績評価基準	到達目標1 訪問看護の特徴を説明できる A；法的根拠を踏まえ十分に説明できる B；法的根拠を踏まえ説明できる C；法的根拠と関連付けて説明できる D；訪問看護の概略を説明できる E；訪問看護の特徴を説明できない 到達目標2.在宅で療養する疾病や健康障害を持つ人々と家族に対する看護の役割を説明できる。 A；十分に説明できる B；全体像を説明できる C；基本的な部分を説明できる D；一部、説明できる E；説明できない 3.在宅で療養する疾病や健康障害を持つ人々への日常生活の援助について説明できる。 A；十分に説明できる B；全体像を説明できる C；基本的な部分を説明できる D；一部、説明できる E；説明できない 4.在宅で療養する疾病や健康障害を持つ人々への医療処置、療養者の症状や状態に合わせた看護の基本について説明できる。 A；十分に説明できる B；全体像を説明できる C；主な部分を説明できる D；一部、説明できる E；説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	在宅療養者と家族に対する看護の役割と実践の基本①	訪問看護の特性、訪問看護における看護過程、退院支援	講義	在宅看護概論の復習	栗田
2	在宅療養者と家族に対する看護の役割と実践の基本②	清潔管理；自宅での清潔管理の工夫、福祉用具、社会資源の活用	講義	教科書の、第1回の講義終了時に指定した部分を読んでから授業に臨む 入浴に関する福祉用具や住宅改修を調べる	栗田
3	在宅療養者の症状や状態に合わせた看護①	難病療養者への在宅療養の支援	講義	難病に関する法律を調べる 障害者自立支援法から難病の療養者の生活への支援を調べる	スポット講師

4	在宅療養者の症状や状態に合わせた看護②	精神障害者への在宅療養の支援	講義	精神科訪問看護について調べる 障害者総合支援法から精神障害者の療養者の生活への支援を調べる	スポット講師
5	在宅療養者と家族に対する看護の役割と実践の基本③	呼吸管理；気管切開・人工呼吸器装着者のケア、在宅酸素療法 栄養管理；在宅で胃ろう、経管栄養を行う人へのケア、点滴の管理	講義	教科書の、第4回の講義終了時に指定した部分を読んでから授業に臨む	栗田
6	在宅療養者と家族に対する看護の役割と実践の基本④	排泄の管理；自立した排泄への支援、排泄障害のケア、ストーマケア	講義	教科書の、第5回の講義終了時に指定した部分を読んでから授業に臨む 排泄に関連した福祉用具、住宅改修について調べる	栗田
7	在宅療養者の症状や状態に合わせた看護③	健康障がいを持つ子どもの在宅療養の支援	講義	医療的ケア児支援法について調べる	栗田
8	まとめ	感染予防、終末期のケア、健康危機管理、まとめ	講義	教科書の、第7回の講義終了時に指定した部分を読んでから授業に臨む	栗田

日付

6.11.22 (金) 3
6.11.29 (金) 3
6.12.6 (金) 3
6.12.13 (金) 3
6.12.20 (金) 3
7.1.10 (金) 3・5
7.1.24 (金) 3

教科書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②「地域療養を支える技術」 メディカ出版
参考書	家族看護を基盤とした 地域・在宅看護論 第6版 日本看護協会出版会 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第4版 メヂカルフレンド 子どもが元気になる在宅ケア 南山堂
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1／看護2／看護3／看護4／看護5／看護6／看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	栗田敦子：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp
備考	家での療養についてイメージを膨らませ、在宅で療養する疾病や健康障害を持つ人々と家族へとその看護の理解を深めましょう。

授業科目	在宅看護方法論Ⅱ	科目英語表記	Methods in Home Care Nursing II		
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子 教授 桂 晶子 准教授 鈴木 育子 准教授 今野 浩之 助教 栗田 敦子				
科目責任者氏名	菅原 京子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	既習の各専門領域の知識、技術の統合が必要な個別性を重視した在宅療養者、家族へのケア方法を教授する。在宅療養者と家族への支援を行うための態度および基礎的実践能力を養う。				
到達目標	1. 在宅看護に必要なマナーと接遇を自ら考え実践できる。 2. 在宅療養者と家族の健康状態や発達段階、家族関係、生活状況などを総合的に考えながら、援助できる。 3. 在宅看護における関係職種との連携の実際と意義について説明できる。				
成績評価方法	演習態度（身だしなみ、積極性）と毎回の授業で提出する記録物 70% 到達目標1～3 レポート「演習を通して学んだこと」 30% 到達目標1～3				
成績評価基準	<p>到達目標1. 在宅看護に必要なマナーと接遇を自ら考え実践できる</p> <p>A; 自ら考え根拠に基づいて十分に実践できる B; 自ら考え根拠に基づいて実践できる C; 自ら考え実践できる D; 部分的に実践できる E; 実践できない</p> <p>到達目標2. 在宅療養者と家族の健康状態や発達段階、家族関係、生活状況などを総合的に考えながら、援助できる</p> <p>A; 根拠に基づいて総合的に考え十分に援助できる B; 根拠に基づいて総合的に考え援助できる C; 根拠に基づいて、援助できる D; 部分的に援助できる E; 援助できない</p> <p>到達目標3. 在宅看護における関係職種との連携の実際と意義について説明できる</p> <p>A; 根拠に基づいて十分に説明できる B; 根拠に基づいて説明できる C; 得た知識について説明できる D; 部分的に説明できる E; 説明できない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション 訪問看護師の心得 在宅ケアの工夫	演習 ・訪問看護師に必要なマナーと心得 ・在宅療養で使用する介護用品 ・看護ケアの工夫	演習	他の看護学での学びを総動員して実習に臨むことができるよう、これまで学習した知識、技術を十分復習してください。	地域教員全員
2	オリエンテーション 訪問看護師の心得 在宅ケアの工夫	・訪問看護師に必要なマナーと心得 ・在宅療養で使用する介護用品 ・看護ケアの工夫	演習	他の看護学での学びを総動員して実習に臨むことができるよう、これまで学習した知識、技術を十分復習してください。	地域教員全員
3	在宅での口腔ケア	在宅療養者への歯科衛生士の実践 在宅における歯科衛生士との協働	演習	これまで行ってきた口腔ケアの技術を復習して授業に臨んでください	スポット講師 地域教員全員

4	在宅での口腔ケア	在宅療養者への歯科衛生士の 実践 在宅における歯科衛生士との 協働	演習	これまで行ってきた口腔ケア の技術を復習して授業に臨ん でください	スポット講師 地域教員全員
5	在宅での福祉用具の 活用	福祉用具専門相談員の実践 在宅における福祉用具専門相 談員との協働 福祉用具の体験	演習	介護保険の福祉用具貸与、障 害者総合支援法の補装具およ び日常生活用具の給付につい て調べましょう	スポット講師 地域教員全員
6	在宅での呼吸療法①	在宅での呼吸関連機器(人工 呼吸器、在宅酸素濃縮器)の 管理 呼吸関連機器を使用する療養 者の理解 呼吸関連機器の体験	演習	呼吸関連機器について在宅看 護方法論Ⅰの授業内容を復習 しておきましょう。	スポット講師 地域教員全員
7	在宅での呼吸療法②	呼吸リハビリテーションの手 技および体験	演習	呼吸に関する解剖・生理を復 習しておきましょう	赤塚(本学理学療法学科) 地域教員全員
8	在宅での言語聴覚療 法	在宅での言語聴覚士の実践 言語聴覚療法の体験 言語聴覚士との協働	演習	言語聴覚士について調べてお きましょう	スポット講師 地域教員全員
9	在宅での作業療法	作業療法士の実践 作業療法の体験 作業療法士との協働	演習	作業療法士について調べてお きましょう	スポット講師 地域教員全員
10	在宅での作業療法	作業療法士の実践 作業療法の体験 作業療法士との協働	演習	作業療法士について調べてお きましょう	スポット講師 地域教員全員
11	在宅での理学療法	理学療法士の実践 理学療法の体験 理学療法士との協働	演習	理学療法士について調べてお きましょう	スポット講師 地域教員全員
12	在宅での理学療法	理学療法士の実践 理学療法の体験 理学療法士との協働	演習	理学療法士について調べてお きましょう	スポット講師 地域教員全員
13	在宅療養者のアセス メントと看護計画立 案	・対象の理解 ・情報の整理、アセスメント ・看護計画立案	グループワーク 提示した事例について在宅の 視点でアセスメントし、看護 計画を立案します	事例に関してこれまで学んだ すべての知識を復習しましょ う 在宅での生活者の視点で療養 者と家族を捉えましょう	地域教員全員
14	在宅療養者のアセス メントと看護計画立 案	・対象の理解 ・情報の整理、アセスメント ・看護計画立案	グループワーク 提示した事例について在宅の 視点でアセスメントし、看護 計画を立案します	事例に関してこれまで学んだ すべての知識を復習しましょ う 在宅での生活者の視点で療養 者と家族を捉えましょう	地域教員全員
15	在宅療養者のアセス メントと看護計画立 案	グループごとに事例のアセス メントおよび看護計画につい て発表し、意見交換します	演習 プレゼンテーション ディスカッション	事例に関してこれまで学んだ すべての知識を復習しましょ う 在宅での生活者の視点で療養 者と家族を捉えましょう 他のグループからの発表を聞 き、思考を整理しましょう。	地域教員全員

日付

6.4.10(水)3・4
6.4.17(水)3・4
6.4.24(水)3・4
6.5.1(水)3・4
6.5.8(水)3・4
6.5.15(水)3・4
6.5.22(水)3・4
6.5.29(水)3

教科書	指定しません
参考書	参考図書は適宜紹介します。

ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3/看護4/看護5/看護6/看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室17 hkonno@yachts.ac.jp 栗田敦子：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp
備考	在宅療養者の生活について体験することで、在宅看護のイメージを膨らませましょう。

授業科目	訪問看護実習	科目英語表記	Home visit Nursing Practice		
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子 教授 桂 晶子 准教授 鈴木 育子 准教授 今野 浩之 助教 栗田 敦子				
科目責任者氏名	菅原 京子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	訪問看護ステーションの役割と機能を学ぶとともに、在宅で生活する対象者（療養者と家族）を統合的に理解し、対象者にとっての最適な健康状態を生み出すことにより、対象者が望んでいる生活や生き方ができるような支援の方法を学ぶ。				
到達目標	1. 対象者の生活と生活する地域の特徴を説明できる。 2. 対象者との関係を形成できる。 3. 個別性に合わせた看護を考えることができる。 4. 訪問看護ステーションの役割と機能を説明できる。 5. 関係職種・関係機関との連携について、実習で体験した具体的事象と関連させて説明できる。 6. 在宅で生活する対象者を支援するための看護職の役割と課題を説明できる。				
成績評価方法	記録物80% 到達目標1～6 カンファレンスでの発表内容及び実習態度20% 到達目標1～6				
成績評価基準	記録類 1. 対象者の生活と生活する地域の特徴を説明できる。 2. 対象者との関係を形成できる。 3. 個別性に合わせた看護を考えることができる。 4. 訪問看護ステーションの役割と機能を説明できる。 5. 関係職種・関係機関との連携について、実習で体験した具体的事象と関連させて説明できる。 6. 在宅で生活する対象者を支援するための看護職の役割と課題を説明できる。 特に優れている：学びの内容が論理的に記述されており、考察が含まれる 優れている：学びの内容が論理的に記述されている 良好である：学びの内容が具体的に記述されている 最低限の到達：具体性が乏しい記述内容である 目標に未到達：学びの内容が記述されていない カンファレンス内容 4. 訪問看護ステーションの役割と機能を説明できる。 5. 関係職種・関係機関との連携について、実習で体験した具体的事象と関連させて説明できる。 6. 在宅で生活する対象者を支援するための看護職の役割と課題を説明できる。 特に優れている：学びの内容が根拠とともにわかりやすく述べられる 優れている：学びの内容が根拠を踏まえて述べられる 良好である：学びの内容が具体的に述べられる 最低限の到達：学びの内容の具体性が乏しい 目標に未到達：学びの内容が述べられない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	訪問看護実習要項を参照	訪問看護実習要項を参照	学内演習	在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱをはじめとする既習の知識、技術、社会資源の復習を踏まえて、訪問看護ステーションでの自己の学習課題を明確にし、担当教員から指導を受ける	
実習	訪問看護実習要項を参照	訪問看護実習要項を参照	訪問看護実習要項を参照 実習場所：訪問看護ステーション	実習に関連する専門科目および専門基礎科目の復習	担当教員は、訪問看護ステーション、実習日毎に決定し、実習開始前までに周知する。
日付					

6.9.17 (火) ～ 7.1.31 (金)

教科書	
参考書	在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱをはじめとする関連科目で使用したもの。その他、必要な図書、雑誌等を積極的に自分で探し活用してください。
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護4／看護5／看護6
先修条件指定科目	該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、訪問看護ステーションにおいて看護過程を展開する科目です。
教員の連絡先	菅原：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野：研究室17 hkono@yachts.ac.jp 栗田：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	地域包括支援実習	科目英語表記	Home Health Nursing Practice		
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子 教授 桂 晶子 准教授 鈴木 育子 准教授 今野 浩之 助教 栗田 敦子				
科目責任者氏名	菅原 京子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	地域包括支援センターの役割と機能を理解し、在宅高齢者と家族を支える地域ケアシステムにおける多職種等の連携を基盤にした看護活動を学ぶ。				
到達目標	1. 地域包括支援センターの概要を説明できる。 2. 地域包括支援センターの役割と機能について、具体的事象と関連させて説明できる。 3. 地域生活の維持に視点を置いた個別事例への看護を説明できる。 4. 関係機関や関係職種との連携について、具体的事象と関連させて説明できる。 5. 地域のサービスネットワーク構築のための看護職の役割と課題を説明できる。				
成績評価方法	記録物80%、カンファレンスでの発表内容及び実習態度20% 到達目標1～5				
成績評価基準	記録類 1. 地域包括支援センターの概要を説明できる。 2. 地域包括支援センターの役割と機能について、具体的事象と関連させて説明できる。 3. 地域生活の維持に視点を置いた個別事例への看護を説明できる。 4. 関係機関や関係職種との連携について、具体的事象と関連させて説明できる。 5. 地域のサービスネットワーク構築のための看護職の役割と課題を説明できる。 特に優れている：学びの内容が論理的に記述されており、考察が含まれる 優れている：学びの内容が論理的に記述されている 良好である：学びの内容が具体的に記述されている 最低限の到達：具体性が乏しい記述内容である 目標に未到達：学びの内容が記述されていない カンファレンス内容 2. 地域包括支援センターの役割と機能について、具体的事象と関連させて説明できる。 4. 関係機関や関係職種との連携について、具体的事象と関連させて説明できる。 5. 地域のサービスネットワーク構築のための看護職の役割と課題を説明できる。 特に優れている：学びの内容が根拠とともにわかりやすく述べられる 優れている：学びの内容が根拠を踏まえて述べられる 良好である：学びの内容が具体的に述べられる 最低限の到達：学びの内容の具体性が乏しい 目標に未到達：学びの内容が述べられない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	地域包括支援実習要項を参照	地域包括支援実習要項を参照	地域包括支援実習要項を参照	社会福祉論、在宅看護概論をはじめとする既習の知識、技術、社会資源について復習する。 実習先の地域包括支援センターの地区の特徴を把握する。 地区踏査の目的や方法を理解する。 以上を踏まえて、地域包括支援センターでの自己の学習課題を明確にし、担当教員から指導を受ける。	
実習	地域包括支援実習要項を参照	地域包括支援実習要項を参照	地域包括支援実習要項を参照 実習場所：地域包括支援セン	実習に関連する専門科目および専門基礎科目の復習	担当教員は、地域包括支援センター、実習日毎に決定し、

		ター	実習開始前までに周知する。
日付			
6.9.17 (火)			
～			
7.1.31 (金)			

教科書	
参考書	公衆衛生看護学及び在宅看護関連科目で使用したもの。その他、必要な図書、雑誌等を積極的に自分で探し活用してください。
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護4／看護5／看護6
先修条件指定科目	該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、地域包括支援センターにおいて看護過程を展開する科目です。
教員の連絡先	菅原：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野：研究室17 hkonno@yachts.ac.jp 栗田：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	公衆衛生看護学概論	科目英語表記	Community Health Nursing Administration		
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子				
科目責任者氏名	菅原 京子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	地域住民の健康を支援する、公衆衛生看護（行政分野、産業保健、学校保健）と在宅看護に共通する地域看護の概念と歴史、保健師制度・教育、保健師活動の場と支援方法について教授する。また、行政分野における保健師活動の活動目標、活動方法の特徴について教授する。				
到達目標	1.人々の健康と生活条件の関係を具体的に述べるができる。 2.地域看護、公衆衛生看護、在宅看護のそれぞれの定義・対象・働きかけの方法の特徴、地域看護と公衆衛生看護・在宅看護の関係性について述べるができる。 3.地域看護の誕生と発展の歴史を時代区分別に述べるができる。 4.保健師制度・教育の変遷を理解し、今日の課題について自分の考えを発表することができる。 5.保健師活動の場と支援方法について具体的に述べるができる。 6.公衆衛生看護、とくに行政分野における保健師活動の活動目標、活動方法の特徴を具体的に述べるができる。 7.今後の保健師活動の展望を持つことができる。				
成績評価方法	・定期試験（80％）：上記の到達目標1～7を達成しているかどうか判断します。知識中心の問題30点、記述問題70点を予定しています。8回目の授業で詳しく説明します。 ・毎回の学び（20％）：毎回の出席カードの記入内容によって、毎回の学習内容を理解しているかどうか判断します。なお、5回目の講義に関連した提出課題については授業に反映させませんが、成績評価には用いません。				
成績評価基準	到達目標 1～7 特に優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる 優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる 良好である：内容を理解し、論理的に正しく概ね説明できる 最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる 目標に到達していない：説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	地域看護、公衆衛生看護、在宅看護の概念	テキストを用いて地域看護、公衆衛生看護、在宅看護の定義、対象を学ぶ。人々の健康と生活条件の関係性について考え発表する。	講義	人々の健康と生活条件が関係している例を考えて授業に臨む	菅原
2	地域看護の歴史	テキスト・DVDを用いて世界的視点から見た地域看護活動の展開、戦前の日本の地域看護の歴史を学ぶ。	講義、DVD視聴	教科書の地域看護の歴史の該当部分を確認する	菅原
3	地域看護の歴史	テキストを用いて世界的視点から見た地域看護活動の展開、戦後から今日に至る日本の地域看護の歴史を学ぶ。	講義	教科書の地域看護の歴史の該当部分を確認する	菅原
4	保健師制度	法令要覧を通して保健婦規則、保健師助産師看護師法における保健師の定義、業務規定、法律上の看護と保健指導を学ぶ。	講義	法令要覧で保健師助産師看護師法の保健師に関する条文を確認する	菅原
5	保健師教育	保健師教育の変遷と大学/大学院教育の関係について学び、保健師教育の展望に関する意見を発表する。	講義、ワーク	配布された保健師教育に関する文献を読んだ上で授業に臨む	菅原
6	保健師活動の場と支援方法	市町村保健センター、保健所の保健師活動の実際を学ぶ。	講義、DVD視聴	DVD視聴後、課題を提出する	菅原

7	保健師活動の場と支援方法	保健師活動の多様な場と支援方法の特徴を学ぶ。	講義	教科書で保健師活動の支援方法に該当する部分を確認する	菅原
8	まとめ	保健師活動の今後の展望を考える。	講義	全体のまとめ	菅原
日付					
6. 4.18 (木) 1 6. 4.25 (木) 1 6. 5. 2 (木) 1 6. 5. 9 (木) 1 6. 5.16 (木) 1 6. 5.23 (木) 1 6. 5.30 (木) 1 6. 6. 6 (木) 1					

教科書	門脇豊子他編「看護法令要覧」日本看護協会出版会。 上野昌江他編「公衆衛生看護学第3版」中央法規出版。
参考書	宮崎美砂子他編「最新 公衆衛生看護学 総論」日本看護協会出版会。木下由美子編「エッセンシャル地域看護学」医歯薬出版。佐々木明子監修「DVD 地域看護活動とヘルスプロモーション第1巻」丸善。湯楨ます監修「DVD 公衆衛生看護の歴史」ビデオ・バック・ニッポン。
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護4／看護5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp
備考	公衆衛生看護のうち産業保健については産業保健論で、学校保健については学校保健論で扱います。在宅看護については在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰで詳しく学んでください。

授業科目	保健医療福祉政策論	科目英語表記	Health and Welfare Policy and Management		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 阿彦 忠之 教授 菅原 京子				
科目責任者氏名	菅原 京子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	健康政策に関する世界的潮流を概観しながら、わが国の保健医療福祉に関する制度や施策等の課題や、地域の健康課題と保健医療福祉政策の関係について学ぶ。				
到達目標	1.健康の定義と権利、および公衆衛生の定義と重要性を理解したうえで、「健康政策がめざすものは何か」「健康な町とはどのような町か」「住民の健康増進及び福祉向上のための公的責任とは何か」「地域保健行政における都道府県と市町村の役割分担はどうなっているのか」および「保健所と市町村保健センターの相違点は何か」などを考え、具体的に述べるができる。 2.保健指導、健康づくり、地域包括ケアに関するケースメソッド演習を通して、地域の健康課題と保健医療福祉政策の関係について具体的に述べるができる。 3.保健医療福祉政策の形成過程等における地方公共団体の専門職（保健師等）の役割を考え、具体的に述べるができる。				
成績評価方法	試験70%：上記の到達目標を達成しているかどうかを判断します。 演習のまとめ30%：課題解決に至る過程が記載されているかを判断基準とします。				
成績評価基準	到達目標 1～3 特に優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる 優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる 良好である：内容を理解し、論理的に正しく概ね説明できる 最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる 目標に到達していない：説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	公衆衛生と健康政策	公衆衛生の定義と重要性、健康の定義と健康観、健康の権利と国及び地方自治体の役割	講義	教科書の公衆衛生と健康政策の該当部分を確認する	阿彦
2	健康政策の世界的潮流	WHOの健康戦略の変遷、ヘルスプロモーションとヘルシィシティ、健康支援環境と健康なまちづくり	講義	教科書の健康政策の世界的潮流の該当部分を確認する	阿彦
3	保健福祉に関する制度と行政機関等の役割	わが国の保健医療福祉制度の変遷と課題	講義	教科書の保健福祉に関する制度と行政機関等の役割の該当部分を確認する	阿彦
4	保健福祉に関する制度と行政機関等の役割	地域保健の体系と保健所・市町村保健センター等の役割、保健師等専門職の役割	講義	教科書の保健福祉に関する制度と行政機関等の役割の該当部分を確認する	阿彦
5	わが国の医療制度の特徴と医療政策の動向	国民皆保険を基盤とした医療制度の仕組みと変遷、医療制度改革等の動向	講義	教科書の医療制度と医療政策の該当部分を確認する	阿彦
6	保健福祉分野における政策の動向	保健福祉政策の基盤となる各種法規と近年の政策の動向（例：高齢者保健福祉政策、がん対策、感染症対策）	講義	教科書の保健医療福祉分野の政策の該当部分を確認する	阿彦
7	保健医療福祉に関する計画の策定・実施・評価	地方自治体の基本構想と保健医療福祉計画の関連、保健医療福祉に関する各種計画（医療計画、地域医療構想、健康日本21等）の目的、評価指標の設定、計画の進行管理（PDCAサイクル）	講義	教科書の保健医療福祉計画の該当部分を確認する	阿彦

8	保健医療福祉に関する計画の策定・実施・評価	地方自治体の基本構想と保健医療福祉計画の関連、保健医療福祉に関する各種計画（医療計画、地域医療構想、健康日本21等）の目的、評価指標の設定、計画の進行管理（PDCAサイクル）	講義	教科書の保健医療福祉計画の該当部分を確認する	阿彦
9	保健医療福祉政策ケースメソッド演習	保健医療福祉行政の課題解決等に関する事例演習、解説・保健指導、健康づくり	演習	提示された事例の課題、課題解決を確認する	阿彦
10	保健医療福祉政策ケースメソッド演習	保健医療福祉行政の課題解決等に関する事例演習、解説・保健指導、健康づくり	演習	提示された事例の課題、課題解決を確認する	阿彦
11	保健医療福祉政策ケースメソッド演習	・地域包括ケア：地域包括支援センターの役割	講義	教科書の地域包括支援センターの該当部分を確認する	スポット（富士）
12	保健医療福祉政策ケースメソッド演習	・地域包括ケア：地域の課題と支援（地域の把握、アセスメント、多様な高齢者/家族/住民支援）	演習	提示された事例の課題、課題解決を確認する	地域教員
13	保健医療福祉政策ケースメソッド演習	・地域包括ケア：地域の課題と支援（地域の把握、アセスメント、多様な高齢者/家族/住民支援）	演習	提示された事例の課題、課題解決を確認する	地域教員
14	保健医療福祉政策ケースメソッド演習	・地域包括ケア：地域の課題と支援（地域の把握、アセスメント、多様な高齢者/家族/住民支援）	演習	提示された事例の課題、課題解決を確認する	地域教員
15	まとめ	保健医療福祉政策の形成過程等における地方公共団体の専門職（保健師等）の役割	演習	全体のまとめ	地域教員

日付

6.10.11 (金) 1・2
6.10.18 (金) 1・2
6.10.25 (金) 1・2
6.11. 1 (金) 1・2
6.11. 8 (金) 1・2
6.11.13 (水) 1
6.11.20 (水) 1
6.11.27 (水) 1
6.12. 4 (水) 1
6.12.11 (水) 1

教科書	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障(2)：公衆衛生，メディカ出版
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護3／看護4
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内	

容	
教員の連絡先	菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp
備考	地域包括ケアのケースメソッド演習は、3年次の地域包括支援実習に繋がります。

授業科目	ケアシステム論	科目英語表記	Health Care System		
職名、担当教員氏名	准教授 鈴木 育子 教授 菅原 京子 教授 桂 晶子 准教授 今野 浩之				
科目責任者氏名	鈴木 育子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	健康なまちづくりのための多職種連携、ケアマネジメントの展開について学ぶ。				
到達目標	1. ケアマネジメントの展開を説明できる。 2. 健康なまちづくりのための看護の役割及び機能について考察できる。 3. 健康なまちづくりのための看護職と関係職種との連携について考察できる。 4. 多職種連携による健康なまちづくりについて考察できる。				
成績評価方法	レポート 80% 到達目標2～4 授業毎に授業参加による学びの記述を求め、学びの内容を評価 20% 到達目標1～4				
成績評価基準	レポート 2. 健康なまちづくりのための看護の役割及び機能について考察できる。 3. 健康なまちづくりのための看護職と関係職種との連携について考察できる。 4. 多職種連携による健康なまちづくりについて考察できる。 特に優れている：根拠とともにわかりやすく述べられている 優れている：根拠を踏まえて述べられている 良好である：ある程度根拠を用いて述べられている 最低限の到達：根拠が乏しい、あるいは述べられている内容が難解である 目標に未到達：学んだ内容が不明確である 毎回の授業 1. ケアマネジメントの展開を説明できる。 2. 健康なまちづくりのための看護の役割及び機能について考察できる。 3. 健康なまちづくりのための看護職と関係職種との連携について考察できる。 4. 多職種連携による健康なまちづくりについて考察できる。 特に優れている：根拠とともにわかりやすく述べられている 優れている：根拠を踏まえて述べられている 良好である：ある程度根拠を用いて述べられている 最低限の到達：根拠が乏しい、あるいは述べられている内容が難解である 目標に未到達：学んだ内容が不明確である				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	健康なまちづくり	地域ケアシステムの構築 ケアコーディネーションと社会資源	講義	既習の知識の復習、整理	鈴木
2	ケアマネジメントの展開	ケアマネジメントの概念、機能、展開、実施機関、記録・情報管理	講義	既習の知識の復習、整理	鈴木
3	多職種連携による健康なまちづくりの実際	認知症初期集中支援チームの活動	講義	既習の知識の復習、整理	鈴木 スポット講師
4	多職種連携による健康なまちづくりの実際	母子保健コーディネーターの活動	講義	既習の知識の復習、整理	桂 スポット講師
5	多職種連携による健康なまちづくりの実際	生活支援が必要な個別事例への（コミュニティーソーシャルワーカーによる）支援	講義	既習の知識の復習、整理	菅原 スポット講師
6	多職種連携による健康なまちづくりの実際	生活支援コーディネーターによる健康なまちづくりのための活動	講義	既習の知識の復習、整理	今野 スポット講師

7	健康なまちづくりにおける保健所の機能	山形県の保健所業務の概要、保健師活動の概要	講義	既習の知識の復習、整理	鈴木
8	学習内容のまとめと振り返り	学習内容のまとめと振り返り	学習内容のまとめと振り返り	学習内容のまとめと振り返り	鈴木
日付					
6.4. 8 (月) 3・4 6.4.18 (木) 4 6.4.19 (金) 4 6.4.22 (月) 4 6.4.30 (火) 3・4 6.5. 2 (木) 3					

教科書	
参考書	公衆衛生看護、在宅看護領域で使用したすべての教科書・参考書
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護3/看護4/看護5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野：研究室17 hkonno@yachts.ac.jp
備考	授業の順番は、スポット講師の都合に合わせて変更になる可能性があります。 保健師国家試験受験資格に必須の科目です。

授業科目	ケアシステム論	科目英語表記	Health Care System		
職名、担当教員氏名	准教授 鈴木 育子 教授 菅原 京子 教授 桂 晶子 准教授 今野 浩之				
科目責任者氏名	鈴木 育子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	健康なまちづくりのための多職種連携、ケアマネジメントの展開について学ぶ。				
到達目標	1. ケアマネジメントの展開を理解できる。 2. 健康なまちづくりのための看護の役割及び機能について理解できる。 3. 健康なまちづくりのための看護職と関係職種との連携について理解できる。 4. 多職種連携による健康なまちづくりについて説明できる。				
成績評価方法	レポート80% 到達目標2,3,4を評価 授業毎に授業参加による学びの記述を求め、学びの内容を評価する。20% 到達目標1~4を評価				
成績評価基準	<p>レポート</p> <p>2. 健康なまちづくりのための看護の役割及び機能について理解できる。 3. 健康なまちづくりのための看護職と関係職種との連携について理解できる。 4. 多職種連携による健康なまちづくりについて説明できる。 特に優れている：根拠とともにわかりやすく述べられている 優れている：根拠を踏まえて述べられている 良好である：ある程度根拠を用いて述べられている 最低限の到達：根拠が乏しい、あるいは述べられている内容が難解である 目標に未到達：学んだ内容が不明確である</p> <p>毎回の授業</p> <p>1. ケアマネジメントの展開を理解できる。 2. 健康なまちづくりのための看護の役割及び機能について理解できる。 3. 健康なまちづくりのための看護職と関係職種との連携について理解できる。 4. 多職種連携による健康なまちづくりについて説明できる。 特に優れている：根拠とともにわかりやすく述べられている 優れている：根拠を踏まえて述べられている 良好である：ある程度根拠を用いて述べられている 最低限の到達：根拠が乏しい、あるいは述べられている内容が難解である 目標に未到達：学んだ内容が不明確である</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	健康なまちづくり	地域ケアシステムの構築 ケアコーディネーションと社会資源	講義	既習の知識の復習、整理	鈴木
2	ケアマネジメントの展開	ケアマネジメントの概念、機能、展開、実施機関、記録・情報管理	講義	既習の知識の復習、整理	鈴木
3	多職種連携による健康なまちづくりの実際	認知症初期集中支援チームの活動	講義	既習の知識の復習、整理	鈴木 スポット講師
4	多職種連携による健康なまちづくりの実際	母子保健コーディネーターの活動	講義	多職種連携による健康なまちづくりの実際	桂 スポット講師
5	多職種連携による健康なまちづくりの実	生活支援が必要な個別事例への（コミュニティーソーシャ	講義	既習の知識の復習、整理	菅原 スポット講師

	際	ルワーカーによる) 支援			
6	多職種連携による健康なまちづくりの実際	生活支援コーディネーターによる健康なまちづくりのための活動	講義	既習の知識の復習、整理	今野 スポット講師
7	多職種連携による健康なまちづくりの実際	難病相談支援センターの活動	講義	既習の知識の復習、整理	鈴木 スポット講師
8	学習内容のまとめと振り返り	学習内容のまとめと振り返り	学習内容のまとめと振り返り	学習内容のまとめと振り返り	鈴木

日付

6.6.3 (月) 2
6.6.10 (月) 2
6.6.17 (月) 2
6.6.24 (月) 2
6.7.1 (月) 2
6.7.8 (月) 2
6.7.22 (月) 2
6.7.29 (月) 2

教科書	
参考書	公衆衛生看護、在宅看護領域で使用したすべての教科書・参考書
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護3/看護4/看護5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野：研究室17 hkono@yachts.ac.jp
備考	授業の順番は、講師の都合に合わせて変更になる可能性があります。

授業科目	学校保健論	科目英語表記	School Health and Nursing		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 新井 猛浩				
科目責任者氏名	新井 猛浩				
学内連絡教員氏名	桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp				
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	学校関係者の立場から子供の健康を守るために必要な事柄について扱う。学校生活における健康上の配慮と健康実践能力を育てる働きかけが学校組織の中でどのように展開されているかを解説する。 また、学校保健活動の中核的役割を担う養護教諭の職務と特質、保健室の機能、保健室経営、健康相談活動及び他職種との連携のあり方についても解説する。				
到達目標	1.学校保健の意義や教職員の役割、関連機関との連携について説明できる。 2.学校保健に果たす養護教諭の役割やコーディネーターとしての役割を説明できる。				
成績評価方法	レポートによる。授業態度20%、レポート80%の配点とする。到達目標1,2を評価する。				
成績評価基準	学校保健に果たす教職員の役割、特に学校保健の中核的役割を担う養護教諭のあり方について説明できるかどうかを評価する。 特に優れている (A)；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている (B)；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である (C)；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達 (D)；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない (F)；説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	1 学校保健とは	学校保健は保健教育、保健管理および保健組織活動によって成り立つ構造をもち、これらの活動を通じて学校保健活動が推進されることを学ぶ。	講義	教科書第1章の「学習のポイント」を確認の上、教科書の記載内容について復習する。	新井
2	2 子供の発育・発達	現代の子供の発育・発達に関する課題について理解し、解決策を考える。	講義	教科書第2章の「学習のポイント」を確認の上、教科書の記載内容について復習する。	新井
3	3 健康観察・健康診断	学校における健康診断の意義と目的、法的根拠を理解し、健康診断の遂行の仕方について学習する。	講義	教科書第3章の「学習のポイント」を確認の上、教科書の記載内容について復習する。	新井
4	4 感染症とその予防	学校において予防すべき感染症について理解を深め、出席停止期間の理屈を理解する。	講義	教科書第5章の「学習のポイント」を確認の上、教科書の記載内容について復習する。	新井
5	5 養護教諭の活動と醍醐味	養護教諭の職務について現職教員から学ぶ。	講義	授業時に指示する課題について小レポートを作成する。	スポット講師 (奥山)
6	6 保健室の役割	保健室の役割について現職教員から学ぶ。	講義	授業時に指示する課題について小レポートを作成する。	スポット講師 (奥山)
7	7 保健教育について	保健教育は体育科・保健体育科、その他関連教科、特別活動、総合的な学習の時間などを通じて行われることを学ぶ。	講義	教科書第12章の「学習のポイント」を確認の上、教科書の記載内容について復習する。	新井
8	8 学校安全・危機管理	学校安全の構造と領域を知り、学校の安全管理について学ぶとともに、学校における安全教育についても学ぶ。	講義	教科書第10章の「学習のポイント」を確認の上、教科書の記載内容について復習する。	新井
日付					

6.6.10 (月) 3
6.6.17 (月) 3
6.6.24 (月) 3
6.7. 1 (月) 3
6.7. 1 (月) 4
6.7. 8 (月) 4
6.7.22 (月) 3
6.7.29 (月) 3

教科書	渡邊正樹編著：「学校保健概論」、光生館
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護6
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	新井猛浩：arai@e.yamagata-u.ac.jp 山形大学地域教育文化学部
備考	

授業科目	産業保健論	科目英語表記	Occupational Health and Nursing		
職名、担当教員氏名	准 教 授 今野 浩之 非常勤講師 菅原 保				
科目責任者氏名	今野 浩之				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	労働者の生活実態や労働内容、労働環境、関連する法律から労働衛生管理の在り方と看護職の役割について学ぶ。				
到達目標	1. 産業保健の目的および労働者の特徴を説明ができる。 2. 労働衛生管理の原則を説明できる。 3. 産業保健活動に関連する法制度を説明できる。 4. 健康確保対策、メンタルヘルス対策の現状と課題を説明できる。 5. 産業看護活動の目的について理解し、実践と課題について説明できる。				
成績評価方法	課題レポート 100% (課題①50% 課題②50%) ①対象者を設定しインタビューを行いレポートを作成する *対象者の設定および記述方法は授業の中で指示する 到達目標 1,2,3,4 を評価 ②産業保健論を通しての学びと考察 到達目標 1,2,3,4,5 を評価				
成績評価基準	到達目標 1～5 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて理論的に説明できる 優れている； 根拠をふまえて理論的に説明できる 良好である； 根拠を用いてある程度理論的に説明できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度は理論的に説明できる 目標に達していない； 説明できていない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	産業保健総論・各論	産業保健の目的、対象、活動の内容とその実際 ・労働衛生対策の推進体制 ・労働衛生管理の基本（労働衛生の3管理） ・事業場における労働衛生管理体制 ・職業性疾病の予防対策	講義	必要に応じ授業の中で提示する	菅原
2	産業保健総論・各論	産業保健の目的、対象、活動の内容とその実際 ・労働衛生対策の推進体制 ・労働衛生管理の基本（労働衛生の3管理） ・事業場における労働衛生管理体制 ・職業性疾病の予防対策	講義	必要に応じ授業の中で提示する	菅原
3	産業保健総論・各論	産業保健の目的、対象、活動の内容とその実際 ・労働衛生対策の推進体制 ・労働衛生管理の基本（労働衛生の3管理） ・事業場における労働衛生管理体制 ・職業性疾病の予防対策	講義	必要に応じ授業の中で提示する	スポット講師
4	法制度	産業保健における法制度	講義	必要に応じ授業の中で提示する	スポット講師
5	産業保健活動の実際	産業保健活動の実際	講義	必要に応じ授業の中で提示する	スポット講師

6	産業保健看護活動の 実際	・産業看護活動の役割 ・産業看護活動の実践と課題 (職場における健康確保およびメンタルヘルス対策) ・地域保健との連携	講義	必要に応じ授業の中で提示する	スポット講師
7	産業保健看護活動の 実際	・産業看護活動の役割 ・産業看護活動の実践と課題 (職場における健康確保およびメンタルヘルス対策) ・地域保健との連携	講義	必要に応じ授業の中で提示する	スポット講師
8	まとめ	産業保健活動のまとめ	講義	必要に応じ授業の中で提示する	今野
日付					
6.6.27 (木) 4・5 6.7.4 (木) 4 6.7.12 (金) 3・4 6.7.19 (金) 3・4・5					

教科書	教科書：指定しない
参考書	NEW 予防医学・公衆衛生学：南江堂 労働衛生のしおり：中央労働災害防止協会 産業保健ハンドブック：労働調査会 産業看護マニュアル：南山堂
ディプロマ・ポリシーとの 関連	看護4
先修条件指定 科目	非該当
先修条件指定 科目において あらかじめ修 得しておかな ければならな い科目	非該当
実務経験のあ る教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	今野浩之：研究室17 hkonno@yachts.ac.jp 菅原 保：医療法人健友会 本間病院 院長
備考	保健師国家試験受験資格に必須の科目です。

授業科目	公衆衛生看護活動論	科目英語表記	Public Health Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 桂 晶子				
科目責任者氏名	桂 晶子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	地域で生活する人々の健康状態や地域特性に応じた公衆衛生看護活動を展開するために必要な基本知識を理解し、健康相談、健康教育、地域看護診断など個人・家族・集団・組織に対する公衆衛生看護の具体的支援方法を学修する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護活動の基本と支援方法の特徴を説明できる。 2. 保健指導および健康相談の対象と展開方法を説明できる。 3. 健康診査の種類と対象、展開方法を説明できる。 4. 健康教育に関連する理論とその活用方法、健康教育の展開方法を説明できる。 5. 保健師が行う家庭訪問の特徴と展開方法を説明できる。 6. 地域診断に関連する理論とその活用方法、地域診断の展開方法を説明できる。 7. グループおよび地域組織の種類と発展過程、エンパワメントを高める支援方法を説明できる。 				
成績評価方法	授業の振り返りシートや課題による授業への取り組み：50%（到達目標1～6を評価） レポート：50%（到達目標1、6、7を評価）				
成績評価基準	<p>到達目標1～6</p> <p>特に優れている：学びの成果を極めて適切・的確に記述し、それを期限内に提出した。 優れている：学びの成果を適切・的確に記述し、それを期限内に提出した。 良好である：学びの成果を概ね適切に記述し、それを期限内に提出した。 辛うじて到達している：学びの成果の記述が目標到達に必要な最低限程度である。 到達していない：学びの成果の記述が不十分である、あるいは未提出である。</p> <p>到達目標1、6、7（レポート）</p> <p>特に優れている：極めて適切な内容であり、それを期限内に提出した。 優れている：適切な内容であり、それを期限内に提出した。 良好である：概ね適切な内容であり、それを期限内に提出した。 辛うじて到達している：記述内容が目標到達に必要な最低限程度である。 到達していない：記述内容が不十分である、あるいは未提出である。</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	公衆衛生看護活動①	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の対象者 ・公衆衛生看護の考え方と技術 ・公衆衛生看護におけるPDCAサイクル活用上の留意点 	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に公衆衛生看護学概論および関係科目の学修内容を復習しておく。 ・授業後は学修した内容を復習する。 	桂
2	公衆衛生看護活動②	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護活動の基本 	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を用いて「学習内容」を予習する。 ・授業後は学修した内容を復習する。 	桂
3	保健指導と健康相談①	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導とは ・健康相談とは ・保健指導／健康相談の対象と方法 	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を用いて「学習内容」を予習する。 ・授業後は学修した内容を復習する。 	桂
4	保健指導と健康相談②	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導／健康相談の進め方の実際 	講義（ミニ演習含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を用いて「学習内容」を予習する。 ・授業後は学修した内容を復習する。 	桂
5	健康診査①	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診査とは ・健康審査の対象と方法 	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を用いて「学習内容」を予習する。 ・授業後は学修した内容を復習する。 	桂

6	健康診査②	・健康診査の方法と進め方の 実際	講義（ミニ演習含む）	・教科書を用いて「学習内 容」を予習する。 ・授業後は学修した内容を復 習する。	桂
7	家庭訪問①	・行政保健師が行う家庭訪問 とは ・家庭訪問の対象と方法	講義	・教科書を用いて「学習内 容」を予習する。 ・授業後は学修した内容を復 習する。	桂
8	家庭訪問②	・家庭訪問の具体的な流れ	講義（ミニ演習含む）	・教科書を用いて「学習内 容」を予習する。 ・授業後は学修した内容を復 習する。	桂
9	健康教育①	・健康教育とは ・健康教育に関連する理論	講義	・教科書を用いて「学習内 容」を予習する。 ・授業後は学修した内容を復 習する。	桂
10	健康教育②	・健康教育の展開	講義（ミニ演習含む）	・教科書を用いて「学習内 容」を予習する。 ・授業後は学修した内容を復 習する。	桂
11	健康教育③	・健康教育の実際	講義（ミニ演習含む）	・教科書を用いて「学習内 容」を予習する。 ・授業後は学修した内容を復 習する。	桂
12	地域看護診断①	・地域看護診断とは ・地域看護診断に関連する理 論	講義	・教科書を用いて「学習内 容」を予習する。 ・授業後は学修した内容を復 習する。	桂
13	地域看護診断③	・地域看護診断の展開	講義（ミニ演習含む）	・教科書を用いて「学習内 容」を予習する。 ・授業後は学修した内容を復 習する。	桂
14	地域看護診断③	・地域看護診断の実際	講義	・教科書を用いて「学習内 容」を予習する。 ・授業後は学修した内容を復 習する。	スポット講師
15	地域組織活動の支 援・グループ支援	・地域組織活動とは／グルー プ支援とは ・住民のエンパワメント ・グループの発展過程とグル ープ支援における保健師の役 割	講義	・教科書を用いて「学習内 容」を予習する。 ・授業後は学修した内容を復 習する。	桂

日付

6.4.10 (水) 1・2
6.4.17 (水) 1・2
6.4.24 (水) 1・2
6.5.1 (水) 1・2
6.5.8 (水) 1・2
6.5.15 (水) 1・2
6.5.22 (水) 1・2
6.5.29 (水) 1

教科書	上野昌江, 和泉京子編：公衆衛生看護学 第3版. 中央法規出版
参考書	医療情報科学研究所編：公衆衛生がみえる 2024-2025. メディックメディア
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	看護3／看護4／看護5／看護6
先修条件指定 科目	非該当
先修条件指定 科目において	非該当

あらかじめ修得しておかなければならない科目	
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp
備考	保健師国家試験受験資格に必須の科目です。

授業科目	公衆衛生看護活動演習	科目英語表記	Community Health Nursing Diagnosis Practice																																																				
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子 教授 桂 晶子 准教授 鈴木 育子 准教授 今野 浩之 助教 栗田 敦子																																																						
科目責任者氏名	菅原 京子																																																						
学内連絡教員氏名																																																							
学科／分野	看護学科	学年	3年																																																				
科目区分	専門	必修・選択の別	選択																																																				
授業形態	演習	開講時期	前期	単位数	2単位																																																		
授業概要	公衆衛生看護で用いられる活動方法の基本的知識と技術を理解し実践できる。																																																						
到達目標	<p>【地域看護診断演習】</p> 1. 公衆衛生看護の視点に基づき既存資料を収集しアセスメントできる。また、アセスメントを通して当該市町村の健康課題とその背景や原因を明らかにできる。 2. 既存資料による情報収集、アセスメント、健康課題の抽出、地域看護活動計画の立案を通して地域看護診断の一連の流れを理解できる。 <p>【健康教育演習】</p> 3. 地域看護診断で明らかになった健康課題を踏まえて健康教育指導案を計画できる。 4. 対象者に合わせた教材を作成し計画した健康教育を実施できる。 <p>【健康相談・家庭訪問演習】</p> 5. 健康相談のポイントについて理解し、乳児とその家族に対する訪問指導案を計画できる。 6. 訪問指導案に基づいた家庭訪問を実施できる。 <p>【共通】</p> 7. グループワークおよびグループごとの発表を通して、到達目標1～6を相互に評価できる。																																																						
成績評価方法	グループワークおよびグループごとのプレゼンテーション 60% ＊到達目標の評価基準を含め、知識、技術、グループ貢献度、発表態度、相互評価について評価する。 個人レポート40% ＊到達目標の評価基準に基づき評価する。個人レポートは演習項目（地域看護診断、健康教育、家庭訪問）の計3回提出する。																																																						
成績評価基準	<p>到達目標 1</p> <table border="0"> <tr> <td>特に優れている；</td> <td>適切で十分な根拠をふまえてアセスメント出来ている</td> </tr> <tr> <td>優れている；</td> <td>根拠をふまえてアセスメント出来ている</td> </tr> <tr> <td>良好である；</td> <td>根拠を用いてある程度アセスメント出来ている</td> </tr> <tr> <td>最低限の到達；</td> <td>根拠は乏しいがある程度アセスメント出来ている</td> </tr> <tr> <td>目標に達していない；</td> <td>根拠も乏しくアセスメント出来ていない</td> </tr> </table> <p>到達目標 2</p> <table border="0"> <tr> <td>特に優れている；</td> <td>適切で十分な根拠をふまえて理解できている</td> </tr> <tr> <td>優れている；</td> <td>根拠をふまえて理解できている</td> </tr> <tr> <td>良好である；</td> <td>根拠を用いてある程度理解できている</td> </tr> <tr> <td>最低限の到達；</td> <td>根拠は乏しいがある程度理解できている</td> </tr> <tr> <td>目標に達していない；</td> <td>理解できていない</td> </tr> </table> <p>到達目標 3, 5</p> <table border="0"> <tr> <td>特に優れている；</td> <td>適切で十分な根拠をふまえて計画できている</td> </tr> <tr> <td>優れている；</td> <td>根拠をふまえて計画できている</td> </tr> <tr> <td>良好である；</td> <td>根拠を用いてある程度計画できている</td> </tr> <tr> <td>最低限の到達；</td> <td>根拠は乏しいがある程度計画できている</td> </tr> <tr> <td>目標に達していない；</td> <td>計画できていない</td> </tr> </table> <p>到達目標 4, 6</p> <table border="0"> <tr> <td>特に優れている；</td> <td>適切で十分な根拠をふまえて実施できている</td> </tr> <tr> <td>優れている；</td> <td>根拠をふまえて実施できている</td> </tr> <tr> <td>良好である；</td> <td>根拠を用いてある程度実施できている</td> </tr> <tr> <td>最低限の到達；</td> <td>根拠は乏しいがある程度実施できている</td> </tr> <tr> <td>目標に達していない；</td> <td>実施できていない</td> </tr> </table> <p>到達目標 7</p> <table border="0"> <tr> <td>特に優れている；</td> <td>自分の意見を適切に述べ、十分にディスカッションできる</td> </tr> <tr> <td>優れている；</td> <td>自分の意見を述べ、ディスカッションできる</td> </tr> <tr> <td>良好である；</td> <td>ある程度自分の意見を述べ、ディスカッションに参加できる</td> </tr> <tr> <td>最低限の到達；</td> <td>積極的な発言はあまり無いが、ディスカッションに参加できる</td> </tr> <tr> <td>目標に達していない；</td> <td>自分の意見を述べることができず、ディスカッションに参加できない</td> </tr> </table>					特に優れている；	適切で十分な根拠をふまえてアセスメント出来ている	優れている；	根拠をふまえてアセスメント出来ている	良好である；	根拠を用いてある程度アセスメント出来ている	最低限の到達；	根拠は乏しいがある程度アセスメント出来ている	目標に達していない；	根拠も乏しくアセスメント出来ていない	特に優れている；	適切で十分な根拠をふまえて理解できている	優れている；	根拠をふまえて理解できている	良好である；	根拠を用いてある程度理解できている	最低限の到達；	根拠は乏しいがある程度理解できている	目標に達していない；	理解できていない	特に優れている；	適切で十分な根拠をふまえて計画できている	優れている；	根拠をふまえて計画できている	良好である；	根拠を用いてある程度計画できている	最低限の到達；	根拠は乏しいがある程度計画できている	目標に達していない；	計画できていない	特に優れている；	適切で十分な根拠をふまえて実施できている	優れている；	根拠をふまえて実施できている	良好である；	根拠を用いてある程度実施できている	最低限の到達；	根拠は乏しいがある程度実施できている	目標に達していない；	実施できていない	特に優れている；	自分の意見を適切に述べ、十分にディスカッションできる	優れている；	自分の意見を述べ、ディスカッションできる	良好である；	ある程度自分の意見を述べ、ディスカッションに参加できる	最低限の到達；	積極的な発言はあまり無いが、ディスカッションに参加できる	目標に達していない；	自分の意見を述べることができず、ディスカッションに参加できない
特に優れている；	適切で十分な根拠をふまえてアセスメント出来ている																																																						
優れている；	根拠をふまえてアセスメント出来ている																																																						
良好である；	根拠を用いてある程度アセスメント出来ている																																																						
最低限の到達；	根拠は乏しいがある程度アセスメント出来ている																																																						
目標に達していない；	根拠も乏しくアセスメント出来ていない																																																						
特に優れている；	適切で十分な根拠をふまえて理解できている																																																						
優れている；	根拠をふまえて理解できている																																																						
良好である；	根拠を用いてある程度理解できている																																																						
最低限の到達；	根拠は乏しいがある程度理解できている																																																						
目標に達していない；	理解できていない																																																						
特に優れている；	適切で十分な根拠をふまえて計画できている																																																						
優れている；	根拠をふまえて計画できている																																																						
良好である；	根拠を用いてある程度計画できている																																																						
最低限の到達；	根拠は乏しいがある程度計画できている																																																						
目標に達していない；	計画できていない																																																						
特に優れている；	適切で十分な根拠をふまえて実施できている																																																						
優れている；	根拠をふまえて実施できている																																																						
良好である；	根拠を用いてある程度実施できている																																																						
最低限の到達；	根拠は乏しいがある程度実施できている																																																						
目標に達していない；	実施できていない																																																						
特に優れている；	自分の意見を適切に述べ、十分にディスカッションできる																																																						
優れている；	自分の意見を述べ、ディスカッションできる																																																						
良好である；	ある程度自分の意見を述べ、ディスカッションに参加できる																																																						
最低限の到達；	積極的な発言はあまり無いが、ディスカッションに参加できる																																																						
目標に達していない；	自分の意見を述べることができず、ディスカッションに参加できない																																																						

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	全体ガイダンス 地域看護診断演習	1.ガイドラインを配布（全体説明） 2.山形県内の一市町村について既存資料をもとに地域看護診断を実施 ・既存資料の収集、アセスメントを行い健康課題を抽出する ・地域看護活動計画を立案する	グループワーク	・既存資料はホームページ、図書館等を活用し、演習中に配付される資料の他にも積極的に収集すること ・4年時の地域看護診断実習につながるため、積極的に取り組むこと	地域教員全員
2	地域看護診断演習	山形県内の一市町村について既存資料をもとに地域看護診断を実施（続き） ・既存資料の収集、アセスメントを行い健康課題を抽出する ・地域看護活動計画を立案する	グループワーク	・既存資料はホームページ、図書館等を活用し、演習中に配付される資料の他にも積極的に収集すること ・4年時の地域看護診断実習につながるため、積極的に取り組むこと	地域教員全員
3	地域看護診断演習	山形県内の一市町村について既存資料をもとに地域看護診断を実施（続き） ・既存資料の収集、アセスメントを行い健康課題を抽出する ・地域看護活動計画を立案する	グループワーク	・既存資料はホームページ、図書館等を活用し、演習中に配付される資料の他にも積極的に収集すること ・4年時の地域看護診断実習につながるため、積極的に取り組むこと	地域教員全員
4	地域看護診断演習	山形県内の一市町村について既存資料をもとに地域看護診断を実施（続き） ・立案した計画をグループごとに発表する	グループワーク（発表）	・既存資料はホームページ、図書館等を活用し、演習中に配付される資料の他にも積極的に収集すること ・4年時の地域看護診断実習につながるため、積極的に取り組むこと	地域教員全員
5	健康教育演習	健康教育の指導案作成 ・地域看護診断で明らかになった健康課題に基づき、指導案および教材を作成する	グループワーク	健康教育に関する既修得科目を復習しておくこと	地域教員全員
6	健康教育演習	健康教育の指導案作成（続き） ・地域看護診断で明らかになった健康課題に基づき、指導案および教材を作成する	グループワーク	健康教育に関する既修得科目を復習しておくこと	地域教員全員
7	健康教育演習	健康教育の指導案作成（続き） ・地域看護診断で明らかになった健康課題に基づき、指導案および教材を作成する	グループワーク	健康教育に関する既修得科目を復習しておくこと	地域教員全員
8	健康教育演習	健康教育の指導案作成、実施 ・グループごとに健康教育を実施する	グループワーク（発表）	健康教育に関する既修得科目を復習しておくこと	地域教員全員
9	健康教育演習	健康教育の指導案作成、実施（続き） ・グループごとに健康教育を実施する	グループワーク（発表）	健康教育に関する既修得科目を復習しておくこと	地域教員全員
10	家庭訪問演習	事例(乳児)に対する家庭訪問の実施 ・電話相談の応答を考える（シナリオ作成）	グループワーク	・母子に対するヘルスアセスメントについて復習しておくこと ・家庭訪問の礼儀作法についてはビデオ等を活用し学ぶこと	地域教員全員
11	家庭訪問演習	事例(乳児)に対する家庭訪問の実施	グループワーク	・母子に対するヘルスアセスメントについて復習しておくこと	地域教員全員

		・母子に対するヘルスアセスメントを実施する		・家庭訪問の礼儀作法についてはビデオ等を活用し学ぶこと	
12	家庭訪問演習	事例(乳児)に対する家庭訪問の実施 ・乳児訪問に関する指導案を作成する	グループワーク	・母子に対するヘルスアセスメントについて復習しておくこと ・家庭訪問の礼儀作法についてはビデオ等を活用し学ぶこと	地域教員全員
13	家庭訪問演習	事例(乳児)に対する家庭訪問の実施 ・乳児訪問に関する指導案を作成する	グループワーク	・母子に対するヘルスアセスメントについて復習しておくこと ・家庭訪問の礼儀作法についてはビデオ等を活用し学ぶこと	地域教員全員
14	家庭訪問演習	事例(乳児)に対する家庭訪問の実施 ・家庭訪問（ロールプレイング）を実施する	グループワーク、ロールプレイング	・母子に対するヘルスアセスメントについて復習しておくこと ・家庭訪問の礼儀作法についてはビデオ等を活用し学ぶこと	地域教員全員
15	家庭訪問演習 まとめ	事例(乳児)に対する家庭訪問の実施 ・家庭訪問におけるロールプレイングの実施	グループワーク、ロールプレイング	・母子に対するヘルスアセスメントについて復習しておくこと ・家庭訪問の礼儀作法についてはビデオ等を活用し学ぶこと	地域教員全員

日付

6.5.29 (水) 4
6.6.5 (水) 3・4
6.6.12 (水) 3・4
6.6.19 (水) 3・4
6.6.26 (水) 3・4
6.7.3 (水) 3・4
6.7.10 (水) 3・4
6.7.17 (水) 3・4

教科書	教科書は特に指定しません。
参考書	参考図書は適宜紹介します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護4
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室17 hkanno@yachts.ac.jp 栗田敦子：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp
備考	保健師国家試験受験資格に必須の科目です。

授業科目	ヘルスコミュニケーション論	科目英語表記	Health Communication																						
職名、担当教員氏名	准教授 今野 浩之																								
科目責任者氏名	今野 浩之																								
学内連絡教員氏名																									
学科／分野	看護学科	学年	3年																						
科目区分	専門	必修・選択の別	選択																						
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位																				
授業概要	ヘルスコミュニケーションの果たす役割を考察しながら、個人および集団に対する健康に関連した適切な情報提供と支援の方法を学ぶ。																								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスコミュニケーションの概念及び理論について説明できる。 ヘルスコミュニケーションを活用した個別保健指導における行動変容に関する支援について説明できる。 集団を対象とした健康情報の発信および支援の具体について説明できる。 健康の保持増進、疾病予防のための必要な支援方法を説明できる。 グループワークへ積極的に参加できる。 																								
成績評価方法	課題レポート80% 到達目標1,2,3,4 授業内でのプレゼンテーション 10%：学生相互の評価 到達目標2,4 グループワークへの参加度10% 到達目標5																								
成績評価基準	<p>到達目標1～4</p> <table border="0"> <tr> <td>特に優れている；</td> <td>適切で十分な根拠をふまえて理論的に説明できる</td> </tr> <tr> <td>優れている；</td> <td>根拠をふまえて理論的に説明できる</td> </tr> <tr> <td>良好である；</td> <td>根拠を用いてある程度理論的に説明できる</td> </tr> <tr> <td>最低限の到達；</td> <td>根拠は乏しいがある程度は理論的に説明できる</td> </tr> <tr> <td>目標に達していない；</td> <td>説明できていない</td> </tr> </table> <p>到達目標5</p> <table border="0"> <tr> <td>特に優れている；</td> <td>自分の意見を明確に述べ、メンバーと積極的に意見交換を行う中でグループの意見を集約できる</td> </tr> <tr> <td>優れている；</td> <td>自分の意見を明確に述べ、メンバーと積極的に意見交換を行っている</td> </tr> <tr> <td>良好である；</td> <td>自分の意見を述べ、メンバーと意見交換を行っている</td> </tr> <tr> <td>最低限の到達；</td> <td>積極的ではないが自分の意見を述べている</td> </tr> <tr> <td>目標に達していない；</td> <td>自分の意見を述べる事が出来ず、意見交換を行うことが出来ない</td> </tr> </table>					特に優れている；	適切で十分な根拠をふまえて理論的に説明できる	優れている；	根拠をふまえて理論的に説明できる	良好である；	根拠を用いてある程度理論的に説明できる	最低限の到達；	根拠は乏しいがある程度は理論的に説明できる	目標に達していない；	説明できていない	特に優れている；	自分の意見を明確に述べ、メンバーと積極的に意見交換を行う中でグループの意見を集約できる	優れている；	自分の意見を明確に述べ、メンバーと積極的に意見交換を行っている	良好である；	自分の意見を述べ、メンバーと意見交換を行っている	最低限の到達；	積極的ではないが自分の意見を述べている	目標に達していない；	自分の意見を述べる事が出来ず、意見交換を行うことが出来ない
特に優れている；	適切で十分な根拠をふまえて理論的に説明できる																								
優れている；	根拠をふまえて理論的に説明できる																								
良好である；	根拠を用いてある程度理論的に説明できる																								
最低限の到達；	根拠は乏しいがある程度は理論的に説明できる																								
目標に達していない；	説明できていない																								
特に優れている；	自分の意見を明確に述べ、メンバーと積極的に意見交換を行う中でグループの意見を集約できる																								
優れている；	自分の意見を明確に述べ、メンバーと積極的に意見交換を行っている																								
良好である；	自分の意見を述べ、メンバーと意見交換を行っている																								
最低限の到達；	積極的ではないが自分の意見を述べている																								
目標に達していない；	自分の意見を述べる事が出来ず、意見交換を行うことが出来ない																								

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ヘルスコミュニケーションの基本	1) ヘルスコミュニケーションの概念及び目的 2) 保健医療におけるコミュニケーションとは何か（意味とコンテキスト、発信と受信、ノイズの種類と原因、自己認識と自己開示）	講義中心	コミュニケーションに関する既修得科目の復習	今野
2	ヘルスコミュニケーションの基本	第1回目の講義に関連するグループワーク *内容は授業の際に指示します	演習	コミュニケーションに関する既修得科目の復習	今野
3	ヘルスコミュニケーションの基本	1) ヘルスコミュニケーションに関する理論 2) コミュニケーションにおける方言	講義、視聴覚教材（DVD）	コミュニケーションに関する既修得科目の復習	今野
4	個人を対象としたヘルスコミュニケーションの実際	1) 保健指導におけるヘルスコミュニケーションの役割 2) 特定保健指導の実際	講義、視聴覚教材（DVD）	コミュニケーションに関する既修得科目の復習	今野
5	個人を対象としたヘルスコミュニケーションの実際	第4日目の講義に関連するグループワーク *内容は授業の際に指示します	視聴覚教材（DVD）、グループワーク	コミュニケーションに関する既修得科目の復習	今野

6	個人を対象としたヘルスコミュニケーションの実際	1) グループワークの続き 2) グループ発表	グループワーク他	コミュニケーションに関する既修得科目の復習	今野
7	個人を対象としたヘルスコミュニケーションの実際	グループ発表 (続き)	グループワーク他	コミュニケーションに関する既修得科目の復習	今野
8	集団を対象としたヘルスコミュニケーションの実際	健康情報の発信、フィードバック、評価の視点等、集団に対するリスクコミュニケーション	講義中心	コミュニケーションに関する既修得科目の復習	今野

日付

6. 4.15 (月) 3
6. 4.22 (月) 3
6. 5.13 (月) 3
6. 5.20 (月) 3
6. 6. 3 (月) 3
6. 6.10 (月) 4
6. 6.17 (月) 4
6. 6.24 (月) 4

教科書	特に指定しない
参考書	医療者のためのコミュニケーションハンドブック 精神看護出版 医療コミュニケーションハンドブック 米国国立がん研究所編：ヘルスコミュニケーション実践ガイド 日本評論社 ※その他、参考図書やDVDはその都度授業内で紹介します
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護4
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	今野浩之：研究室17 hkonno@yachts.ac.jp
備考	保健師国家試験受験資格に必須の科目です

授業科目	コミュニティ活動展開論	科目英語表記	Community Health Promotion		
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子 教授 桂 晶子 准教授 鈴木 育子 准教授 今野 浩之 助教 栗田 敦子				
科目責任者氏名	菅原 京子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	健康寿命を延ばす住民主体の活動に向けた、地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働について学ぶ。				
到達目標	1-1 健康寿命を延ばすための、栄養・食生活、身体活動・運動、休養・こころの健康、飲酒、喫煙、がん、循環器病、慢性閉塞性肺疾患、糖尿病、歯・口腔の健康、高齢者の健康に関する全国レベルの目標と施策の方向について理解できる。 1-2 1-1の各項目に関する地域レベルの目標と施策の方向について理解できる。(地域特性の反映がなされているか) 1-3 最新の知見に基づいた健康習慣の科学的根拠について理解できる。 2-1 1-1の項目を組み合わせたテーマについて、地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働を踏まえて、具体的に検討(調べる、活動提案：教材開発を含む)できる。 3-1 健康寿命を延ばす住民主体の活動における保健師の役割を説明できる。 3-2 上記を通して、健康寿命を延ばす住民主体の活動における看護の展望を考察できる。				
成績評価方法	グループ発表(30%)、発表の振り返り小レポート(30%)、個人レポート(40%)で評価します。 ・グループ発表については、到達目標2-1を達成しているかどうかで判断します。 ・発表の振り返りについては、以下の方法で評価します。7回目～14回目のグループ発表の都度、学生相互の評価(無記名)を行う。評価項目は、①テーマに関して対象の状況と健康課題について調べているか、②テーマに関する施策について調べているか、③テーマに関する活動を提案しているか、④提案において地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働を踏まえているか、⑤テーマにあった発表方法を選択できているか、である。15回目のまとめで、学生評価に基づく振り返り小レポートを各自で記載する。 ・個人レポートは、到達目標3-2の内容が盛り込まれているかどうかを判断基準とします。				
成績評価基準	到達目標 1-1～3-2 特に優れている : 内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる 優れている : 内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる 良好である : 内容を理解し、論理的に正しく概ね説明できる 最低限の到達 : 一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる 目標に到達していない : 説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	健康寿命を延ばすための住民の主体的な取組みと施策の方向	国の施策、都道府県(山形県、健康寿命の先進県)の施策を学ぶ。住民の主体的な取組みに必要な要素について具体事例を基に話し合う。	講義、DVD視聴	健康やまがた安心プランの内容を確認する	菅原
2	健康寿命を延ばすための住民の主体的な取組みと施策の方向	第1回の続き、5～14回のグループ活動に関する説明。	講義	選択したテーマに関する自己学習	菅原
3	グループ活動	8グループに分かれ、発表に向けた活動実施	演習	選択したテーマに関する自己学習	各教員
4	グループ活動	8グループに分かれ、発表に向けた活動実施	演習	選択したテーマに関する自己学習	各教員
5	グループ活動	8グループに分かれ、発表に向けた活動実施	演習	選択したテーマに関する自己学習	各教員
6	グループ活動	8グループに分かれ、発表に向けた活動実施	演習	選択したテーマに関する自己学習	各教員
7	退職前後世代の健康づくり	産業保健と地域保健の連携・協働による「退職前後世代の健康づくり」のグループ発表	発表、講義	退職前後世代の健康課題を復習する	菅原、協会けんぽ保健師

		表、健康支援を担う保健師の講義、意見交換			
8	地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働による喫煙予防・喫煙対策	地域保健・学校保健・産業保健の連携・協働による「喫煙予防・喫煙対策」のグループ発表、喫煙予防・喫煙対策を担う保健師の講義、意見交換	発表、講義	未成年者の喫煙予防について調べる	鈴木、喫煙予防・喫煙対策を担う保健師
9	健康なまちづくり・働き盛り世代の健康づくり	地域保健と産業保健の連携・協働による「働き盛り世代の健康づくり;上山市クアオルト推進事業」のグループ発表、市町村担当者の講義、意見交換	発表、講義	日本のクアオルトの状況を調べる	桂、上山市クアオルト担当者
10	幼少時からの生活習慣形成・食の入り口としての歯の健康	地域保健と保育園の連携・協働による「食の入り口としての歯の健康」のグループ発表、市町村保健師の講義、意見交換	発表、講義	フッ化物応用について調べる	菅原、大蔵村保健師
11	がん予防教育・若い世代のがん予防の啓発	地域保健・学校保健の連携・協働による「若い世代のがん予防の啓発」のグループ発表、市町村保健師の講義、意見交換	発表、講義	がん対策を復習する	○栗田、今野、金山町保健師
12	がん予防教育・壮年期のがん予防の啓発	地域保健・産業保健の連携・協働による「壮年期のがん予防の啓発」のグループ発表、市町村保健師の講義、意見交換	発表、講義	がん対策を復習する	○今野、栗田、金山町保健師
13	働き盛り世代の生活習慣改善・睡眠の健康と適切な労働	産業保健と専門機関の連携・協働による「睡眠の健康と適切な労働」のグループ発表、産業保健担当者の講義、意見交換	発表、講義	睡眠のメカニズムについて復習する	菅原、ユトリア健康管理センター保健師
14	幼少時からの生活習慣形成・地域ぐるみの食育	地域保健と学校保健の連携・協働による「地域ぐるみの食育」のグループ発表、学校給食センター栄養士の講義、意見交換	発表、講義	地産地消について調べる	今野、山形市管理栄養士
15	まとめ	健康寿命を延ばす住民主体の活動における看護の展望	講義	全体のまとめ	菅原

日付

6.4. 8(月)1・2
6.4.10(水)1・2
6.4.17(水)2
6.4.19(金)3
6.4.25(木)3・4
6.4.26(金)3・4
6.5. 1(水)1・2
6.5. 7(火)2
6.5. 8(水)2・3

教科書	公衆衛生看護学で学んだ科目で使用した教科書・参考図書、健康やまがた安心プラン
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護4/看護5/看護6
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかな	非該当

なければならない科目	
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室17 hkono@yachts.ac.jp 栗田敦子：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp
備考	7回目～14回目の授業の進行は、学生グループ発表20分、非常勤講師による講義45分、意見交換20分、まとめ5分とします。 保健師国家試験受験資格に必須の科目です。

授業科目	公衆衛生看護管理論	科目英語表記	Community Health Nursing Administration		
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子				
科目責任者氏名	教授 菅原 京子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	公衆衛生看護活動の看護管理の原則は、病院等で展開される看護管理と共通している。一方、活動が行政（地方公共団体）の場で展開されるため、行政の仕組みを踏まえる必要がある。その上で、地域の健康課題の解決や人々の健康の保持増進に向けた施策化/事業化に寄与する管理を行う特徴がある。本授業では、その特徴的な看護管理について教授する。				
到達目標	1.行政とは何か、行政のPDCAサイクルと業務、公務員/専門職の職業倫理について述べるができる。 2.公衆衛生看護管理の全体像を述べるができる。 3.予算管理を踏まえた保健福祉事業の展開について説明できる。 4.保健福祉政策/施策/事業を展開する上で必要となる、情報の活用/保護・公開の現状と課題を具体的に述べるができる。 5.公衆衛生看護における人事管理、人材育成の現状と課題を具体的に述べるができる。 6.質が保証された公衆衛生看護活動となるための公衆衛生看護管理の今後の展望を持つことができる。				
成績評価方法	レポート100%：レポートは、行政、公衆衛生看護管理の全体像、予算管理、情報管理/活用、人事管理と人材育成について学んだ内容、及び到達目標5が盛り込まれているかどうかを評価基準とします。				
成績評価基準	到達目標 1～6 特に優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる 優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる 良好である：内容を理解し、論理的に正しく概ね説明できる 最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる 目標に到達していない：説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	行政、公衆衛生看護管理の全体像	行政とは何か、行政のPDCAサイクルと業務、公務員/専門職の職業倫理、公衆衛生看護管理の全体像	講義	住んでいる市町村の行政機構を調べる。	菅原
2	予算管理	行政における予算管理の特徴、保健福祉政策/施策/事業と予算、経費支出科目の財政用語、予算管理を踏まえた保健福祉事業の展開（企画、実施、評価）	講義	住んでいる市町村の保健福祉政策に関する予算を調べる。	菅原
3	予算管理	2回目の続き	講義	住んでいる市町村の保健福祉政策に関する予算を調べる。	菅原
4	予算管理	3回目の続き	講義	住んでいる市町村の保健福祉政策に関する予算を調べる。	菅原
5	情報管理/活用	プライバシーと個人情報、個人情報保護、情報公開、保健師活動における情報管理/活用の側面と課題 側面；地域看護診断・計画立案、個別事例への支援、地域住民への説明責任・危機管理課題；データベース管理、個人情報保護への対応、個別事例支援に関する記録	講義	個人情報保護におけるSNS（ソーシャルネットワークサービス）の課題について、各自で考えて授業に臨むこと。	菅原
6	情報管理/活用	5回目の続き	講義	個人情報保護におけるSNS（ソーシャルネットワークサービス）の課題について、各自で考えて授業に臨むこと。	菅原

7	人事管理・人材育成	保健師のキャリア発達：新人・新任期・中堅期・管理期の各期で求められる能力、キャリアラダー 保健師の人事管理・人材育成の現状と課題：分散配置と人事、現任教育としての研修（OJTとOff-JT）、大学院教育	講義、現職保健師の講話	保健師のキャリアラダーについて看護師と比較して考えてみる	菅原、現職保健師
8	まとめ	公衆衛生看護管理の今後の展望	講義	全体のまとめ	菅原

日付

6.4.12 (金) 3
6.4.18 (木) 3
6.4.22 (月) 3
6.4.24 (水) 2
6.5. 7 (火) 3
6.5. 8 (水) 4
6.5. 9 (木) 3・4

教科書	
参考書	授業で配布：しんじょうのよさん、医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス、地域における保健師の保健活動について（通知）、新人看護職員研修ガイドライン 保健師編、自治体保健師の標準的なキャリアラダー
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護4／看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp
備考	看護管理を復習して臨んでください。 保健師国家試験受験資格に必須の科目です

授業科目	地域看護診断実習	科目英語表記	Community Health Nursing Diagnosis Practice		
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子 教授 桂 晶子 准教授 鈴木 育子 准教授 今野 浩之 助教 栗田 敦子				
科目責任者氏名	菅原 京子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	地域住民の生活や文化、価値観などの特徴から地域の保健ニーズをとらえ、健康課題を解決する基礎的能力を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 地域看護の視点に基づき、既存資料の収集及び地区踏査、地域住民との面接調査を行い、地域の健康に関する全体像を述べるができる。 <ul style="list-style-type: none"> 看護として地域全体の健康課題及び関連要因を把握する必要性を説明できる。 地域看護診断に必要な既存資料の所在がわかる。看護の視点に基づいた既存資料のデータ収集、およびデータを解釈できる。 地区踏査で客観的に地域の状況を確認できる。観察した結果について主観的な表現を用いずに、見たままを記述できる。 住民面接において、自己紹介及び面接の目的を述べるができる。コミュニケーション技術を用い、対象の立場をふまえて面接できる。 情報をアセスメントし、地域の健康課題及び関連要因を述べるができる。 <ul style="list-style-type: none"> 収集した情報を地域看護診断の視点に沿って整理できる。整理した情報を科学的に分析、統合、解釈できる。 地域の健康課題及び関連要因を抽出できる。 健康課題と関連要因に基づいて、その地域の特徴に合致した地域看護活動計画を立案できる。 <ul style="list-style-type: none"> 活動目標を、地域の到達させたい状態として達成時期、評価の視点とともに示すことができる。 地域の健康課題の優先順位を課題の性質や課題相互の関係を踏まえて決定できる。 地域住民の生活や地域の特徴を踏まえた実現可能性のある活動方法・内容を具体的に計画できる。 地域住民との関わり及び地域看護診断の過程を通して、地域看護の役割と機能について述べるができる。 <ul style="list-style-type: none"> 地域住民が健康についてどのように認識しているのか説明できる。 地域で果たすべき看護の役割と機能を説明できる。 地域看護のこれからの課題を指摘できる。 				
成績評価方法	到達目標の達成状況に基づき、実習状況（60%）、個人レポート（40%）で評価します。 ・実習状況については、グループで展開する到達目標1～3を達成しているかどうかについて、グループ活動状況、実習報告会状況、グループ提出記録によって判断します。加えて実習態度（身だしなみ、言葉遣い・態度、リーダーシップ・メンバーシップ、実習への熱意）についても判断基準とします。 ・個人レポートについては、到達目標1～3に関して学んだこと、及び到達目標4についてが、盛り込まれているかどうかを評価基準とします。				
成績評価基準	到達目標1,2,4 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて理論的に述べるができる 優れている； 根拠をふまえて理論的に述べるができる 良好である； 根拠を用いてある程度理論的に述べるができる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度は理論的に述べるができる 目標に達していない； 述べるができない 到達目標3 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて立案できている 優れている； 根拠をふまえて立案できている 良好である； 根拠を用いてある程度立案できている 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度は立案できている 目標に達していない； 立案できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	学内に実施 時期：4月下旬または8月上旬に実施予定				

実習	地域看護診断・地域看護活動計画立案	・山形県内の1市町村で実施します。実習時期は5月または9～10月の予定です。 ・既存資料の分析、実習市町村オリエンテーション、地区踏査、住民インタビュー、保健師との検討会、実習報告会（住民及び市町村関係者も参加）を実施します。	グループ活動によって行います	地域看護診断に関する既修得科目を十分復習の上で実習に臨むこと	菅原 京子 桂 晶子 鈴木 育子 今野 浩之 栗田 敦子
日付					
6.5.13 (月) ～ 6.5.17 (金)					

教科書	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論、公衆衛生看護活動演習で用いた図書				
参考書					
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護4				
先修条件指定科目	非該当				
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当				
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。				
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（保健師等）の指導の下、市町村（健康福祉担当部局）において実習する科目です。				
教員の連絡先	菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室17 hkonno@yachts.ac.jp 栗田敦子：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp				
備考	保健師国家試験受験資格に必須の科目です。				

授業科目	公衆衛生看護活動実習	科目英語表記	Community Health Nursing Practice		
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子 教授 桂 晶子 准教授 鈴木 育子 准教授 今野 浩之 助教 栗田 敦子				
科目責任者氏名	菅原 京子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	地域社会で生活する住民の個別の保健ニーズと地域の健康課題を包括的にとらえ、課題を解決するための公衆衛生看護活動が実践できる基礎的能力を習得する。 公衆衛生看護活動の展開の場である保健所、市町村、学校、産業保健の特性に応じた公衆衛生看護活動が実践できる基礎的能力を習得する。				
到達目標	保健所実習 1. 保健所管内における地域特性および健康課題を理解できる。 2. 保健所における公衆衛生看護活動の機能と具体的展開の基本を理解できる。 3. ケアシステムの構築に向けた他機関や他職種との連携の実際について理解できる 市町村実習 4. 市町村における地域特性および健康課題を理解できる 5. 市町村における公衆衛生看護活動の機能と具体的展開の基本を理解できる 6. 個別事例および集団に対する支援の展開を理解できる 7. 健康課題に基づいた保健指導が実施できる 8. 他機関や多職種との連携およびケアシステムの中で果たしている市町村の公衆衛生看護の役割を理解できる 学校保健実習 9. 実習学区の特徴を踏まえ、学校の場における保健活動の概要を理解できる 10. 養護教諭が学校保健の中で果たしている役割を理解できる 産業保健実習 11. 労働者の生活実態や労働内容を把握し、労働衛生管理の在り方と看護職の役割について理解できる				
成績評価方法	実習地ごとの態度と提出された記録物の内容等から到達目標の達成度と合わせ、総合的に判断して評価する 評価内容： 1.実習態度（40%） 1) 事前学習の提出および実習準備（教員と連絡や相談ができていたか） 2) 学内演習におけるグループ活動への参加状況（積極的に参加できていたか、意見を述べていたか） 3) 実習中の態度およびカンファレンスへの状況（対象者との関わりはどうか、教員や実習指導者と連絡や相談ができていたか、カンファレンスでの発言内容） 2.記録物（事前学習を含むレポート課題）（60%） 1) 提出期日は厳守できているか、提出記録に不備はないか 2) 記録物の内容 (1)実習の目的・目標に応じ、課題に対する記述がされているか (2)文書の体裁が整えられているか（誤字脱字はないか、見やすい字で書かれているか） (3)専門用語を正しく用い、慎重かつ丁寧に推敲し記述されているか				
成績評価基準	到達目標1～11共通 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて理解または実施できている 優れている； 根拠をふまえて理解または実施できている 良好である； 根拠を用いてある程度理解または実施できている 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度理解または実施できている 目標に達していない； 理解または実施できていない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテー	学内に実施 時期：4月下旬を予定 * 学生配置も4月下旬に確定する				

シ ョ ン					
実 習	県内保健所、市町村、小学校、企業等で実習を行う。 ・実習項目、学習課題は公衆衛生看護活動実習要項を参照すること	・保健所実習：3日間（学内演習を含む） ・市町村実習：5日間（学内演習を含む） ・学校保健実習：2日間 ・産業保健実習：1日間	公衆衛生看護活動実習要項を参照すること	公衆衛生看護活動実習にかか る既修得科目を十分に復習し た上で実習に臨むこと	菅原 京子 桂 晶子 鈴木 育子 今野 浩之 栗田 敦子
日付					
6.5.20(月) ～ 6.9.20(金)					

教科書	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論、公衆衛生看護活動演習で用いた図書、その他、必要な図書を積極的に自分で探し活用してください。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護4
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（保健師等）の指導の下、保健所、市町村、小学校、産業保健において実習する科目です。
教員の連絡先	菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室17 hkonno@yachts.ac.jp 栗田敦子：第2共同研究室 akurita@yachts.ac.jp
備考	保健師国家試験受験資格に必須の科目です。

授業科目	看護教育学	科目英語表記	Nursing Education		
職名、担当教員氏名	教授 沼澤さとみ				
科目責任者氏名	沼澤さとみ				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	看護職養成のための教育について、教育制度や教育課程、教育方法の基本的な知識について学ぶ。また、看護職として教育にかかわることを考える。				
到達目標	1.看護職養成のための教育と看護学教育制度の変遷、現状と課題、看護教育課程について説明できる。 2.看護職が指導者として必要な教育方法の基本的な知識を説明できる。 3.看護職が指導者として教育にかかわるために必要な自身の資質や能力・教育観を考えることができる。				
成績評価方法	授業中のワーク（発表含む）等の記録物40%：目標1・2を評価 レポート60%：目標3を評価				
成績評価基準	<p>目標1・2について</p> <p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない</p> <p>目標3を評価</p> <p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	教育とはなにか 看護教育学とは	教育が目指すもの 学ぶこと教えること 看護教育学と看護学教育	講義	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤
2	教育とはなにか 看護教育学とは	教育が目指すもの 学ぶこと教えること 看護教育学と看護学教育	講義・ワーク	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤
3	看護教育制度	看護教育制度の変遷と現状 看護の学士課程教育	講義	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤
4	看護教育制度	看護教育制度の変遷と現状 看護の学士課程教育	講義・ワーク	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤
5	看護教育課程	教育課程とは 看護基礎教育の教育課程（保健師助産師看護師学校養成所指定規則による教育課程）	講義	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤
6	看護教育課程	教育課程とは 看護基礎教育の教育課程（保健師助産師看護師学校養成所指定規則による教育課程）	講義・ワーク	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤
7	教育課程編成と育成する資質と能力	教育課程の編成と評価 学力とは 学生の資質と能力を育成する教育課程	講義	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤

8	教育課程編成と育成する資質と能力	教育課程の編成と評価 学力とは 学生の資質と能力を育成する 教育課程	講義・ワーク	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤
9	看護学の教育方法	学習の特徴と指導の基本 学習方法 看護技術を教えること	講義	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤
10	看護学の教育方法	学習の特徴と指導の基本 学習方法 看護技術を教えること	講義・ワーク	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤
11	看護学の教育方法	学習指導の計画と評価 学習指導案作成	講義	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤
12	看護学の教育方法	学習指導の計画と評価 学習指導案作成	講義・ワーク	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤
13	看護職のキャリアと継続教育	専門職としてのキャリア開発 大学院教育	講義	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤
14	看護職のキャリアと継続教育	専門職としてのキャリア開発 大学院教育	講義・ワーク	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤
15	まとめ	看護職として教育にかかわることを考える	ワーク	学習項目に関する図書・文献、web検索などで収集した資料を読む	沼澤
日付					

教科書	教科書は指定しない
参考書	参考図書等は随時紹介する
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護3
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	授業時間内で行うワークはしっかり行いましょう

授業科目	看護管理学	科目英語表記	Nursing Administration		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 遠藤 良仁				
科目責任者氏名	遠藤 良仁				
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ				
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	看護は対象者個人への直接ケアの他にも様々な役割を担っています。この科目では看護が組織的実践であることを理解でき、かつ、看護学生としての学習の指針となるよう看護マネジメント、倫理的葛藤とリーダーシップ、看護の質改善、資源管理と情報管理、医療・看護の標準化、看護政策の看護専門職のキャリアなどに関する基礎教育が必要とされる主要な概念と病院における看護管理実践の実際について学習します。そして、実習で経験する日常的な看護に組み込まれている看護管理の要素を分析し、未来の看護実践者として看護管理をどのように意識し自己の看護実践に統合していくかについて具体的な学習方策を述べることを目指します。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の発展の過程を理解し、現代の看護組織における理論的枠組みと看護提供方を説明できる。 2. 看護管理者の看護マネジメントにおける具体的実践から管理者の思考プロセスや看護管理に必要な能力を知り、看護管理者の視点と自身の視点との比較を通して自身を高め看護実践に応用したいことを見出すことができる。 3. 看護マネジメント上の倫理的葛藤について理解を深め、看護マネジメントのシナリオを分析し倫理的葛藤に対応するための解決策を提案し、倫理的側面から自己評価できる。 4. 医療安全と看護の質改善に関する組織的取り組みやクリニカルインディケータの要素を用いて、「看護学実習の質評価指標」（仮称）を提案できる。 5. 医療の情報化および医療情報システムの目的の理解と電子カルテの利用経験に基づき、看護師が重要な患者情報を一目で把握し迅速な意思決定を支援するダッシュボード型の電子カルテ画面設計を提案できる。 6. 医療・看護の標準化を踏まえEvidence-Based Practiceのプロセスを活用して患者の個別のニーズに応じた看護計画を立案するスキルを習得し、次の実習や実践への応用力を高める学習プランを作成できる。 7. グローバルヘルスの視点から世界の保健医療の動向と日本の看護政策を把握し、看護の生涯学習者としての自己像を描くことができる。 8. 看護師の日常業務に組み込まれた看護管理の要素を分析し、未来の看護実践者として看護管理をどのように意識し自己の看護実践に統合していくかについて具体的な学習方策を述べることを目指す。 				
成績評価方法	授業後の振り返り（事後課題）40%（各回5点） 到達目標1～8を評価 最終レポート 60%（60点） 到達目標8を評価				
成績評価基準	原則、授業後振り返りの提出を以て出席とみなし、5回以上の出席を以て成績評価の条件とする。 授業後の振り返りと最終レポートの合計得点が60点以上で単位を認定する。 授業後の振り返り、最終レポートの成績評価基準 特に優れている；期限内に課題の条件を満たし、十分な根拠を踏まえて論理的に自身の考えを説明できている。 優れている；期限内に課題の条件を満たし、論理的に自身の考えを説明できている。 良好である；期限内に課題の条件を満たし、自身の考えを記述できている。 最低限の到達；締め切り2日以内に課題の条件を満たし、自身の考えを記述できている。 目標に到達していない；締め切り2日以内に提出がない、または、課題の条件を満たしていない、または、自身の考えを記述していない。 授業後の振り返りおよび最終レポートは、締め切り3日後以降は原則受け取らず、欠席または未提出として扱う。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	授業ガイダンス、看護マネジメント	看護管理の原点、組織論、看護提供システム	[講義]	事後課題	遠藤
2	看護管理者による看護マネジメントの実際	トップマネジメント、看護単位のマネジメント、看護管理に必要な能力	[講義]	事後課題	スポット
3	看護マネジメントにおける倫理的葛藤とリーダーシップ	倫理的判断、多重課題、多職種連携、リーダーシップ、倫理的感受性	[演習]	事後課題	遠藤
4	看護の質改善	医療安全、安全文化の醸成、クリニカルインディケータ	[演習]	事後課題	遠藤

5	資源管理と情報管理	医療の情報化、ICTの活用、 医療情報システム、遠隔医療	[演習]	事後課題	遠藤
6	医療・看護の標準化	Evidence Based Practice、 クリニカルパス	[演習]	事後課題	遠藤
7	看護政策と看護専門 職のキャリア	グローバルヘルス、看護政 策、人材育成、看護職の生涯 学習	[演習]	事後課題	遠藤
8	今と未来の看護師の 日常業務と看護管理	看護実践の中に組み込まれる 看護管理 将来の医療技術の進歩、人口 動態・患者ニーズの変化、看 護教育・看護師に求められる 実践能力の変化に備える。	[演習]	事後課題	遠藤

日付

6.4.19 (金) 4・5
6.5.10 (金) 4・5
6.5.17 (金) 4・5
6.5.24 (金) 4・5

教科書	資料はUNIPA（ポータルサイト）にアップするか授業で配布します。
参考書	吉田千文，他（2023）：ナースング・グラフィカ看護の統合と実践①看護管理，メディカ出版。 その他、授業で随時紹介します。
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	看護6
先修条件指定 科目	非該当
先修条件指定 科目において あらかじめ修 得しておかな ければならな い科目	非該当
実務経験のある 教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	遠藤良仁：y-endo@iwate-pu.ac.jp
備考	

授業科目	健康危機管理論	科目英語表記	Health Risk Management		
職名、担当教員氏名	教授 桂 晶子 准教授 高橋 直美				
科目責任者氏名	桂 晶子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	住民の生命・健康の安全を脅かす事態（感染症、自然災害、人為災害など）に対して、健康被害の発生予防、拡大防止、治療等の対策と健康危機に迅速に対応する体制のシステムや看護活動について学習する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康危機管理の概要と看護職の役割が説明できる。 感染症集団発生時における保健活動を予防的視点と感染症拡大防止の観点から説明できる。 災害サイクルの各期における健康危機の特徴と災害看護の役割が説明できる。 災害時の体系的対応（CSCATTT）とトリアージによる判定方法が理解できる。 災害看護の視点から減災・防災活動の重要性が考察できる。 				
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1～6回(40点分)・・・到達目標1～3を評価 健康危機管理上の対応や支援に関わる理解と論理的思考力を授業の振り返りシートおよびレポートにより評価する。 7～15回(60点分)・・・到達目標3～5を評価 災害サイクル各期における基礎知識と看護役割の習得度を授業後のレポートおよび演習記録により評価する。 				
成績評価基準	<p>1～6回および7～15回の各々で、課題提出状況・記載内容等から以下のように評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に優れている：適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる ・優れている：根拠をふまえて、論理的に説明できる ・良好である：根拠を用いて、ある程度論理的に説明できる ・最低限の到達：根拠は乏しいが、ある程度論理的に説明できる ・目標に到達していない：説明できていない 				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	健康危機管理とは①	・健康危機管理とは ・健康危機管理の背景	講義	授業時に指示する	桂
2	健康危機管理とは②	・健康危機管理の関係法規 ・世界、国、県および保健所における健康危機管理	講義（ミニ演習含む）	〃	桂
3	災害と健康危機管理①	・災害の定義とフェーズの特徴 ・被災者の状況と多様な立場での災害支援	講義	〃	桂
4	災害と健康危機管理②	・我が事として考える災害・被災・減災 ・平時における災害への備え	講義（ミニ演習含む）	〃	桂
5	健康危機管理の実際①	・健康危機管理上問題となる感染症発生時の保健所の対応と支援	講義	〃	（スポット講師） 山形県健康福祉部 医療統括監 阿彦忠之先生
6	健康危機管理の実際②	・感染症発生時の保健活動の実際	講義	〃	（スポット講師） 山形県健康福祉部 医療統括監 阿彦忠之先生
7	災害看護	・災害・災害看護の歴史と制度 ・災害の種類と被害の特徴	講義	〃	高橋
8	災害急性期の看護活動①	・災害時の体系的対応（CSCATTT） ・災害急性期における看護活動	講義	〃	高橋

9	災害急性期の看護活動②	・災害時のマネジメント ・被災傷病者緊急度判定（トリアージ）	講義	〃	高橋
10	災害急性期の看護活動③	・被災傷病者緊急度判定（トリアージ）	演習・GW	〃	高橋
11	災害急性期の看護活動④	・被災傷病者緊急度判定（トリアージ）	演習・GW	〃	高橋
12	災害亜急性期の看護活動①	・避難所における看護活動 ・配慮を必要とする人への支援と看護 ・避難所運営演習（HUG）	講義・演習	〃	高橋
13	災害亜急性期の看護活動②	・避難所運営演習（HUG）	演習	〃	高橋
14	慢性期・復興期・静穏期の看護活動①	・慢性期・復興期・静穏期における看護活動 ・減災・防災のマネジメント ・防災教育企画	講義・GW	〃	高橋
15	慢性期・復興期・静穏期の看護活動②	・減災・防災のマネジメント ・防災教育企画 ・災害看護のまとめ	GW	〃	高橋

日付

6.4.12（金）1・2

6.4.19（金）1・2

6.4.26（金）1・2

教科書	指定しない
参考書	・三澤寿美他編：災害看護. 学研, 2018 ・平野かよ子他編：ナースィング・グラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生. メディカ出版（2年次購入）
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護5/看護6/看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 高橋直美：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp
備考	健康危機は時間や場所等を問わず発生します。広く世界に目を向けるとともに、健康危機管理の発生時における対応だけでなく、どのようにしたら予防できるかの視点を持ち既存の学習の知識や技術を基盤として学習してください。また災害に関する医療体制や関連法整備等が急速に進んでいます。講義だけでなく、新しい情報を得るように努力しましょう。

授業科目	総合看護学実習Ⅰ	科目英語表記	Integrative Nursing PracticeⅠ		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明 教授 遠藤 恵子 教授 菅原 京子 教授 沼澤さとみ 教授 遠藤 和子 教授 桂 晶子 教授 菊地 圭子 教授 梶 理和子 教授 蓬田 伸一 教授 中村 康香 准教授 鈴木 育子 准教授 片桐 智子 准教授 半田 直子 准教授 今野 浩之 准教授 高橋 直美 准教授 山田カオル 講師 槌谷由美子 講師 高谷 新 助教 渡邊 礼子 助教 佐藤 志保 助教 鈴木 龍生 助教 冨樫 理恵 助教 丸山 香織 助教 齋藤 愛依 助教 栗田 敦子 助教 前田のぞみ 助教 貝野瀬友希 助手 小松 良子				
科目責任者氏名	半田 直子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	学生が選択した領域の実習を通して看護実践能力の向上をはかり、保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を果たすための基礎的能力を養う。				
到達目標	1. 看護実践を通してヘルスケア提供組織において、看護が果たす役割と責務を説明できる。 2. ヘルスケア提供組織における看護の役割と責務を考えることができる。 3. ヘルスケア提供組織における看護の役割と責務をふまえて、対象への看護を実施できる。 4. ヘルスケア提供組織の中での連携のために必要な行動をとることができる。 5. ヘルスケア提供組織の中で連携をとりながら、対象への看護を実施できる。 6. 社会情勢やヘルスケア提供組織の現状を説明できる。 7. 社会情勢やヘルスケア提供組織の現状を踏まえて、看護実践における課題を識別することができる。 8. 看護実践の課題に対する看護の質向上に向けた改善策を示すことができる。				
成績評価方法	領域ごとに、実習目標達成度、実習記録等を総合して評価する。 評価項目及び到達レベルは実習領域の評価表を参照すること。				
成績評価基準	担当教員が各領域の成績評価基準で評価する。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	実習オリエンテーション	各領域の担当者から提示	各領域の担当者から提示	各領域の担当者から提示	各領域の担当者から提示
実習	〔実習〕 実習領域：基礎看護学、成人急性期看護学、成人慢性期看護学	実習場所：山形済生病院、山形県立中央病院、公立置賜総合病院、川西湖山病院、篠田総合病院、二本松会さくら町	各領域の担当者から提示	各領域の担当者から提示	各領域の担当者から提示

学、老年看護学、精神看護学、小児看護学、母性看護学、在宅看護学、地元医療福祉コース（地元ナース）	病院、山形県立こども医療療育センター、米沢市立病院、他 *実習内容や実習方法は、実習領域により異なる。			
日付				
6.5.7(火) ～ 6.8.9(金)				

教科書	実習に必要なものは、各自準備すること。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3/看護4/看護5/看護6/看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師等）の指導の下、病院（臨床）等において保健医療福祉チームの一員として看護過程を展開する科目です。
教員の連絡先	半田直子：研究室3 nhanda@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	総合看護学実習Ⅱ	科目英語表記	Integrative Nursing Practice II		
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子 教授 桂 晶子 准教授 鈴木 育子 准教授 今野 浩之 助教 栗田 敦子 教授 遠藤 恵子 教授 菊地 圭子 教授 中村 康香 助教 渡邊 礼子 助教 前田のぞみ				
科目責任者氏名	教授 遠藤 恵子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	市町村や助産所等を実習場所として、地域における職種間連携や健康危機管理システムの実際を、実習を通して学び、将来、保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を果たすための基礎的能力を養う。				
到達目標	1. 市町村や助産所等と医療施設間における継続看護の内容と実施状況について説明できる。 2. 地域における保健医療福祉チームの職種間連携の内容と状況について説明できる。 3. 地域における保健医療福祉チームの職種間連携における看護の役割について説明できる。 4. 地域における健康危機管理システムの内容と実践状況について説明できる。 5. 社会情勢を踏まえた上で、地域における保健医療福祉チームの活動上の課題について考察し、課題解決について自己の考えを述べるができる。				
成績評価方法	実習の参加状況と実習記録を総合的に評価する				
成績評価基準	保健師選択、助産師選択それぞれが示す 詳細は実習要項を参照				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション					
実習		詳細は実習要項を参照	・公衆衛生看護学選択者と助産学選択者に分かれて実習する。 詳細は、それぞれの実習要項を参照		
日付					

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護4／看護5／看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目において	非該当

あらかじめ修得しておかなければならない科目	
実務経験のある教員	実務経験のある教員として、科目の担当教員と実習指導者が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、教員と実習指導者（看護師・保健師等）の指導の下、市町村及び助産所等において看護過程を展開する科目です。
教員の連絡先	菅原京子研究室 研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 遠藤恵子研究室 研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	研究方法論Ⅰ	科目英語表記	Introduction to Nursing Research I		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明 教授 梶 理和子 准教授 今野 浩之 准教授 山田カオル 講師 槌谷由美子				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	看護研究の目的、研究の過程の概要を教授する。 研究デザインによる研究方法の特徴について基礎的な事項を教授する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究を行う意義を説明できる。 ・文献検討の目的と方法を説明でき、具体的方法として医中誌Webによる検索ができる。 ・質問紙調査の原理と、質問紙作成上の留意点、既存の測定尺度を用いる場合の留意点を説明できる。 ・記述統計など基本的な分析方法について説明できる。 ・質的研究方法の特徴を量的研究との比較によって説明でき、研究方法を用いる場合の留意点を説明できる。 ・既存のデータを用いた帰納的分析の体験を通して、帰納的分析の特徴を説明できる。 ・事例研究や理論的研究の意義や研究方法について説明できる。 ・倫理的配慮や研究不正の概要を説明でき、研究結果の発表過程を説明できる。 				
成績評価方法	評価方針：到達目標に対応した課題を設定する。 レポート課題（15%）、演習課題（25%）、定期試験（60%）であり、各講義内で提示する。				
成績評価基準	評価項目 A・研究を行う意義に関して原著論文の特徴を説明できる。 B・文献検討の目的と方法を説明でき、具体的方法として医中誌Webによる検索結果が記述できること。 C・質問紙調査の原理と質問紙作成上の留意点、既存の測定尺度を用いる際の留意点や基本的な分析方法が説明できる。 D・質的研究方法の特徴を説明できること、帰納的分析の特徴を説明できること。 E・事例研究や理論的研究の意義や研究方法が記述できる。 F・倫理的配慮や研究不正の概要を説明でき、研究結果の発表過程を説明できる。 評価基準 レポート・・・おもに評価項目Bを扱う 演習・・・おもに評価項目CDEを扱い、学習の自己評価などから理解の正確度を評価する 試験・・・おもにACDFを扱い、各種評価項目に関する知識の程度を評価する 上記の評価項目・評価基準に対して 「十分できる（できた）／ややできる（できた）／わずかにできる（できた）／できていない」などの4段階で評価を行う。 講義において配布する資料において評価項目に応じた内容が存在するため、 評価項目及び基準についてはそちらを参照のこと。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	研究とは・研究の過程	看護研究の位置づけ、意義、過程	講義	レポート課題を課す。 各自で全体の学習計画を立てて臨むこと。	安保
2	質的研究（1）	質的研究の特質	講義と演習	よく復習すること。 科目の目的や到達目標に照らして、必要な点を分析すること。	山田
3	質的研究（2）	質的研究のデータ収集と分析	講義と演習	よく復習すること。 科目の目的や到達目標に照らして、必要な点を分析すること。	山田
4	理論的研究	理論的基盤をもとにした研究と意義	講義と演習	よく復習すること。 科目の目的や到達目標に照らして、必要な点を分析すること。	梶

5	文献検討、倫理的配慮	文献検討の目的と方法 倫理的配慮	講義と演習	よく復習すること。 科目の目的や到達目標に照らして、必要な点を分析すること。	今野
6	文献検索の実際	医中誌Web検索の演習 情報 処理室にて実施	演習 情報処理室にて実施	よく復習すること。	図書館
7	質問紙調査（1）	質問紙調査の展開過程	講義と演習	よく復習すること。 科目の目的や到達目標に照らして、必要な点を分析すること。	槌谷
8	質問紙調査（2）	質問紙の作成の方法と考慮点	講義と演習	よく復習すること。 科目の目的や到達目標に照らして、必要な点を分析すること。	槌谷

日付

6.10.09（水）3
6.11.06（水）2
6.11.06（水）3
6.11.13（水）3
6.11.13（水）4
6.11.20（水）4
6.11.27（水）3
6.12.04（水）3

教科書	黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step 第6版，医学書院
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	研究方法論Ⅱ	科目英語表記	Introduction to Nursing Research II		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明 教授 中村 康香				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	研究論文の精読をとおし、研究論文の構成や研究のプロセスを理解する。 学会や研修会に参加し、研究の実際を学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 論文の構成や、論文作成時のルールを説明できる。 ガイドラインにそって精読した研究論文をクリティークし、論文の適切・不適切、長所と短所を説明できる。 二次文献を活用して、自分の関心のある領域の研究論文を系統的に検索できる。 関心のある課題の選定に有益な文献を集め、概観することができる。 先行研究や現在の社会状況、動機等から、研究課題を探求できる。 研究課題に適した研究方法を選定し、研究計画を検討できる。 学会や研修会に参加し、研究の社会的貢献の実際を説明できる。 学会や研修会、研究発表会に参加し、実際の研究やプレゼン技法を説明できる。 研究発表会を通じて、学士課程で行われる研究の特徴を記述することができる。 				
成績評価方法	評価方針：到達目標に対応した課題を設定する。 評価方法：レポート3題（レポート①40%、レポート②50%、レポート③10%）				
成績評価基準	評価基準：到達目標に応じて実施する。講義内で提示する。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ガイダンス	研究方法を習得するまでの過程 (研究の精緻化、実施過程など)	講義	学習の1年間/2年間の計画を立てること	安保
2	クリティーク研究論文の精読	(講義・演習) クリティークの方法を理解する。 課題論文を読解する。「クリティークガイドライン」にそって、論文の構成やルール、デザインによる特徴を理解する。	演習(講義と資料を活用する)		安保
3	クリティーク研究論文の精読	クリティークの方法を理解する。 課題論文を読解する。「クリティークガイドライン」にそって、論文の構成やルール、デザインによる特徴を理解する。	演習(講義と資料を活用する)		安保
4	クリティーク研究論文の精読	(講義・演習) クリティークの方法を理解する。 課題論文を読解する。「クリティークガイドライン」にそって、論文の構成やルール、デザインによる特徴を理解する。	演習(講義と資料を活用する)		安保
5	クリティーク研究論文の精読	(講義・演習) クリティークの方法を理解する。 課題論文を読解する。「クリ	演習(講義と資料を活用する)		安保

		ティークガイドライン」にそ って、論文の構成やルール、 デザインによる特徴を理解す る。			
6	クリティーク 研究論文の精読	(講義・演習) クリティークの方法を理解す る。 課題論文を読解する。「クリ ティークガイドライン」にそ って、論文の構成やルール、 デザインによる特徴を理解す る。	演習 (講義と資料を活用す る)		安保
7	文献検索 文献検討	自分の関心領域の研究論文を 検索し、必要な文献を収集す る (3論文程度)。 収集した文献を概観し、自分 の関心のある課題の研究の意 義や、研究方法の動向をまと める。	演習 (講義と資料を活用す る)	レポート①	安保・中村
8	文献検索 文献検討	自分の関心領域の研究論文を 検索し、必要な文献を収集す る (3論文程度)。 収集した文献を概観し、自分 の関心のある課題の研究の意 義や、研究方法の動向をまと める。	演習 (講義と資料を活用す る)	レポート①	安保・中村
9	文献検索 文献検討	自分の関心領域の研究論文を 検索し、必要な文献を収集す る (3論文程度)。 収集した文献を概観し、自分 の関心のある課題の研究の意 義や、研究方法の動向をまと める。	演習 (講義と資料を活用す る)	レポート②	安保・中村
10	文献検索 文献検討	自分の関心領域の研究論文を 検索し、必要な文献を収集す る (3論文程度)。 収集した文献を概観し、自分 の関心のある課題の研究の意 義や、研究方法の動向をまと める。	演習 (講義と資料を活用す る)	レポート①	安保・中村
11	研究計画書作成	研究を実施する際の時間・手 順などを明瞭化する	講義		安保
12	学会参加	近隣で行われる学会または研 修会 (最低1つ)に参加す る。 *情報の詳細は後日提示す る。また、掲示やホームペー ジ、教員からの情報も積極的 に活用すること。	演習 (資料を活用する)	レポート②	安保
13	学会参加	近隣で行われる学会または研 修会 (最低1つ)に参加す る。 *情報の詳細は後日提示す る。また、掲示やホームペー ジ、教員からの情報も積極的 に活用すること。	演習 (資料を活用する)	レポート②	安保
14	学会参加	近隣で行われる学会または研 修会 (最低1つ)に参加す る。 *情報の詳細は後日提示す る。また、掲示やホームペー ジ、教員からの情報も積極的 に活用すること。	演習 (資料を活用する)	レポート②	安保
15	研究課題探求	文献検討、学会や研修会、卒 業研究発表会への参加、およ び教員の研究テーマ (表)を 参考に、卒業研究を想定した	演習 (個別相談を含む)	レポート③取り組みたいテー マ・内容	安保・中村 (全教員)

		研究課題を探求する。必要時、各教員に相談を得ながら行う。			
16	研究課題探求	文献検討、学会や研修会、卒業研究発表会への参加、および教員の研究テーマ(表)を参考に、卒業研究を想定した研究課題を探求する。必要時、各教員に相談を得ながら行う。	演習(講義と資料を活用する)	レポート③取り組みたいテーマ・内容	安保(全教員)
17	卒業研究発表会参加	看護学科卒業研究発表会に参加する。	演習(講義と資料を活用する)		安保(全教員)
18	卒業研究発表会参加	看護学科卒業研究発表会に参加する。	演習		安保(全教員)
19	研究課題の明確化 研究計画の検討	必要時、指導教員に相談を得ながら研究課題を明確化し、目的、対象、調査内容などを検討する。	演習		卒研調整係(全教員)
20	研究課題の明確化 研究計画の検討	必要時、指導教員に相談を得ながら研究課題を明確化し、目的、対象、調査内容などを検討する。	演習(講義と資料を活用する)		卒研調整係(全教員)
21	研究課題の明確化 研究計画の検討	必要時、指導教員に相談を得ながら研究課題を明確化し、目的、対象、調査内容などを検討する。	演習(講義と資料を活用する)		卒研調整係(全教員)
22	研究課題の明確化 研究計画の検討	必要時、指導教員に相談を得ながら研究課題を明確化し、目的、対象、調査内容などを検討する。	演習(講義と資料を活用する)		卒研調整係(全教員)
23	研究課題の明確化 研究計画の検討	必要時、指導教員に相談を得ながら研究課題を明確化し、目的、対象、調査内容などを検討する。	演習(講義と資料を活用する)		卒研調整係(全教員)

日付

6.4.25 (木) 1
6.5.9 (木) 1
6.5.16 (木) 1
6.5.30 (木) 1・2
6.6.6 (木) 1
6.6.13 (木) 1
6.6.20 (木) 1
6.7.4 (木) 1
6.7.18 (木) 1・2
6.7.25 (木) 1・2
6.11.30 (土) 1~4

教科書	黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step 第6版，医学書院
参考書	JJNスペシャル，看護研究の進め方 論文の書き方，医学書院
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3/看護4/看護5/看護6/看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかない科目	非該当

実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	卒業研究	科目英語表記	Graduation Researches		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明 教授 遠藤 恵子 教授 菅原 京子 教授 沼澤さとみ 教授 遠藤 和子 教授 桂 晶子 教授 菊地 圭子 教授 梶 理和子 教授 蓬田 伸一 教授 中村 康香 准教授 鈴木 育子 准教授 片桐 智子 准教授 半田 直子 准教授 今野 浩之 准教授 高橋 直美 准教授 山田カオル 講師 槌谷由美子 講師 高谷 新 助教 渡邊 礼子 助教 佐藤 志保 助教 鈴木 龍生 助教 冨樫 理恵 助教 丸山 香織 助教 齋藤 愛依 助教 栗田 敦子 助教 前田のぞみ 助教 貝野瀬友希 助手 小松 良子				
科目責任者氏名	沼澤さとみ				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	演習	開講時期	通年	単位数	3単位
授業概要	これまでの講義や実習を通して見出した問題や課題について、調査・分析・考察等の研究過程を経て、何らかの結論を導き出す様々な研究方法を習得するとともに、問題解決能力を育成する。				
到達目標	1. 自己の問題意識をもとに、文献検討を行い、研究課題を明確にできる。 2. 目的に沿った研究方法を選択し、研究計画を立案できる。 3. 研究計画に沿って研究を進め、結果を導き、結果を分析・考察できる。 4. 研究成果を発表できる。 5. 論文を作成できる。				
成績評価方法	授業への参加度 40% 研究の実施、論文作成、発表 60%				
成績評価基準	授業への参加度 特に優れている：すべての到達目標に対して積極的に取り組み、担当教員と密に連絡報告しながら期限を守って実施できる 優れている：概ねすべての到達目標に対して積極的に取り組み、担当教員と密に連絡報告しながら期限を守って実施できる 良好である：やや積極性に欠けるが、期限を守って実施できる 最低限の到達：積極性に欠けるが、期限を守って実施できる 目標に達していない：期限を守って実施できない 研究の実施、論文作成、発表 特に優れている：研究課題と方法を十分吟味し研究計画書を作成し、計画に沿って適切に実施し、的確に発表できる 優れている：研究課題と方法を吟味し研究計画書を作成し、計画に沿って適切に実施し、的確に発表できる 良好である：研究計画書を作成し、計画に沿って適切に実施し、発表できる 最低限の到達：研究計画書は不十分であるが、研究を実施し、発表できる 目標に達していない：研究を実施できず、発表できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員

卒業 研究	研究計画立案 研究の実施 研究成果の発表	研究計画立案 研究の実施 研究成果の発表 具体的な進め方は、別途オリ エンテーションを行う	討議 研究 プレゼンテーション	研究計画立案や研究の実施に 必要な学習	全員
日付					

教科書	
参考書	
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	看護7
先修条件指定 科目	非該当
先修条件指定 科目において あらかじめ修 得しておかな ければならな い科目	非該当
実務経験のあ る教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	終末期看護論	科目英語表記	Terminal Care		
職名、担当教員氏名	准教授 高橋 直美				
科目責任者氏名	高橋 直美				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	終末期にある人やその家族の特徴を踏まえ、多様な場所で療養する人々のQOLの維持向上を図るために看護が果たすべき役割を教授する。また、尊厳ある死に方とは何か、死を迎えた後の家族は何を求めているのかを考え、自己の死生観を深める機会とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期看護の概念が説明できる。 2. 終末期にある人とその家族の特徴を理解し、看護が果たすべき役割と課題が考察できる。 3. 終末期の倫理的課題について考察できる。 4. グリーフケアの対象を理解し、看護が担う役割が考察できる。 5. 緩和ケアの概念が説明できる。 6. 異なる療養場所によって看護が果たすべき役割と課題が考察できる。 7. 自らの死生観を深める姿勢を身につけることができる。 				
成績評価方法	1. 授業毎の課題：100% 記載内容から、到達目標1～7の到達度を評価する。				
成績評価基準	<p>評価方法の「1」をもって、到達度の達成度を総合的に評価する。</p> <p>授業毎の課題から以下のように評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に優れている：講義および演習での学びを十分ふまえて、論理的に自己の考えを述べるができる ・優れている：講義および演習での学びをふまえて、論理的に自己の考えを述べるができる ・良好である：講義および演習での学びをふまえて、ある程度論理的に自己の考えを述べるができる ・最低限の到達：講義および演習での学びは乏しいが、ある程度論理的に自己の考えを述べるができる ・目標に到達していない：講義および演習での学びが乏しく、自己の考えを述べるができない 				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	・“死”とは	・“死”を考える	講義・GW	授業毎に提示する	高橋
2	・終末期看護の概念と特徴	・終末期とは ・死亡者数・死亡場所・死因の現状 ・いのちの教育	講義・GW	〃	高橋
3	・緩和ケア	・緩和ケアとは ・終末期にある人への緩和ケアの実際	講義	〃	外部講師 (緩和ケア認定看護師)
4	・終末期における倫理的課題	・終末期における倫理的課題を考える	講義・GW・DVD視聴	〃	高橋
5	・グリーフケア	・グリーフケアとは ・亡くなる前からのグリーフケア ・亡くなった後のグリーフケア ・チームのグリーフケア	講義・GW・DVD視聴	〃	高橋
6	・療養場所別にみる終末期看護	・高齢者施設における終末期看護の現状・課題	見学・GW	〃	高橋
7	・看取り前後の看護ケア	・死亡前後の身体変化 ・エンゼルケア	講義・演習	〃	高橋
8	・まとめ	・現在の日本の状況：死亡数/死因 ・人生の最終段階における医療に関する意識調査 ・アドバンス・ケア・プランニング(ACP)	講義・GW	〃	高橋

		・人々が望む人生の最終段階を過ごせる社会に向けて		
--	--	--------------------------	--	--

日付	

教科書	なし
参考書	随時授業で紹介
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1/看護2/看護3/看護4/看護5/看護6/看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	高橋：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp
備考	終末期にある患者の看護について、講義や実習等で学んできたこと・体験してきたこと等を想起しながら、“死”とは何かを改めて考え、誰もが迎える人生の終焉に向け、看護が果たすべき役割を深く考察する機会にしましょう。

授業科目	国際看護論	科目英語表記	International Nursing		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 金井Pak 雅子				
科目責任者氏名	金井pak雅子				
学内連絡教員氏名	遠藤和子：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp				
学科／分野	看護学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	異文化のなかでの看護実践におけるコミュニケーションの基本、価値観の相違、倫理などについて理解を深める。さらに国際協力における看護の役割について理解するとともに、先進国および途上国におけるヘルスケアの現状と課題について日本との比較ができる。				
到達目標	1. グローバルヘルスに関する国際機関の役割と機能が理解できる。 2. 米国、英国、カナダ、台湾、香港、シンガポールなどの医療提供システムについて理解できる。 3. 異文化コミュニケーションの基本が理解できる				
成績評価方法	毎回のリアクションペーパー（70%） 異文化コミュニケーションのプレゼンテーション（30%）				
成績評価基準	各到達目標について、 特に優れている； 適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる 優れている； 根拠を踏まえて論理的に説明できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない； 説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション、「国際」について	国際とは何か、各自事前に「国際」について調べた内容を発表する。	講義	毎回の授業後に、リアクションペーパーを提出する。異文化コミュニケーションのプレゼンの準備を行う。	金井Pak雅子
2	グローバルヘルスに関する国際機関	ICN, WHO, UNICEF, JICA, World Bank などの役割・機能についてVTR視聴、討議	講義、討議		金井Pak雅子
3	ICNの活動について	ICNの活動に関する講義を受けグローバルヘルスに関する討議をする	講義、討議		金井Pak雅子
4	米国、カナダ、英国のヘルスケアシステム	各国ヘルスケアシステムの特徴について講義を受け、日本との比較を討議する	講義、討議		金井Pak雅子
5	台湾、香港、シンガポールのヘルスケアシステム	各国ヘルスケアシステムの特徴について講義を受け、日本との比較を討議する	講義、討議		金井Pak雅子
6	EPAについて	世界規模の看護労働市場について講義を受け、将来展望について討議する	講義、討議		金井Pak雅子
7	WHOの役割・機能	WHOの役割・機能について講義を受けグローバルな視点におけるヘルスケアについて討議する	講義、討議		金井Pak雅子
8	異文化コミュニケーション発表会	各自が調べた異文化コミュニケーションの発表を行い、peer Review を行う	講義、プレゼンテーション		金井Pak雅子
日付					

教科書	教科書はないが、参考文献などは講義の中で紹介する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護6/看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	金井Pak 雅子：mkanaipak@kanto-gakuin.ac.jp (学内) 遠藤和子：kaendo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	英語論文読解	科目英語表記	Reading English Papers			
職名、担当教員氏名	教授 梶 理和子					
科目責任者氏名	梶 理和子					
学内連絡教員氏名						
学科／分野	看護学科	学年	2年			
科目区分	専門	必修・選択の別	選択			
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位	
授業概要	この授業では、研究（何らかの課題に対する考察）をおこなう際に、その考察の手掛かりとなる現代社会のさまざまな概念や思想を学ぶことを目的としています。学生には各自、興味ある課題にかかわる文献を検索し、その内容や自分の考えを紹介したうえで、クラスで意見交換をおこなってもらいます。その過程で、病気と社会（病気の誕生、多様化、位置づけ）、主体と生命（生命の価値、病気との共生）ジェンダー（パフォーマティブな主体、多様化）といった概念にまつわる政治的、経済的、文化的状況に対する理解を深めていきます。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の構造を説明できる 2. さまざまな概念・思想にまつわる知識を説明できる 3. 自分なりの問題意識を持って論文を読解し、考察できる 4. インターネット等を活用し、関連する情報等を収集、分類、整理できる 5. コミュニケーションを円滑に行う雰囲気作りを心がけ、演習に取り組める 					
成績評価方法	講義内演習（文献等の読解・考察、ディスカッション等）（40%）[到達目標3, 5を評価] Minute paper（論文の構造、思想や概念等の理解度確認含む）（30%）[到達目標1, 2を評価] 課題探求（興味のある課題にかかわる文献検索、問題に対する考察）（30%）[到達目標3, 4を評価]					
成績評価基準	評価	A	B	C	D	F
	到達目標					
	1	基本構造、およびそれぞれ構成要素とその役割を説明できる	基本構造、およびそれぞれの構成要素を説明できる	基本構造を説明できる	基本構造を明確に説明できない	基本構造を理解できない
	2	さまざまな知識を自分の言葉で説明できる	さまざまな知識を明確に説明できる	ある程度の知識を説明できる	知識の理解が乏しく、明確に説明できない	知識（の内容）を理解できない
	3	明確な問題意識に基づき論文を理解し、自分の考察を述べられる	明確な問題意識に基づき、論文を読解することができる	ある程度の問題意識をもって、論文をある程度読解できる	感想めいたコメントにとどまり、論文を読解、考察できない	論文と関係のない感想であり、その根拠も説明できない
	4	適切なキーワードで情報検索し、適切な情報を収集、分類、整理できる	関連性の高いキーワードで情報検索し、ある程度、情報を収集、整理できる	抽象度の高いキーワードで情報検索し、ある程度の情報を収集できる	不適切なキーワード検索で、収集情報が不十分で、整理できない	必要な情報の検索・収集・整理等ができない
5	積極的にグループワーク等に貢献し、効果的に演習に取り組める	グループワーク等に参加し、しっかりと演習に取り組める	課題と関連の低い会話や作業によって、あまり演習に取り組めない	コミュニケーションが乏しく、演習に取り組めない	演習に参加しない	

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション	授業概要確認	教材視聴	シラバス確認 配布プリントの確認	梶
2	論文の読み方	論文の形式と内容の理解	論文（配布プリント）の形式・内容確認	論文の構成確認、課題探求（文献検索、課題考察）	梶
3	課題探求（演習）(1) 思想や概念の理解(1)	病気と社会(1)	文献紹介・意見交換（演習）	課題探求、思想や概念に関わる情報の確認と考察	梶

4	課題探求（演習）(2) 思想や概念の理解(2)	病気と社会(2)	文献紹介・意見交換（演習）	課題探求、思想や概念に関わる情報の確認と考察	梶
5	課題探求（演習）(3) 思想や概念の理解(3)	主体と生命	文献紹介・意見交換（演習）	課題探求、思想や概念に関わる情報の確認と考察	梶
6	課題探求（演習）(4) 思想や概念の理解(4)	主体とジェンダー	文献紹介・意見交換（演習）	課題探求、思想や概念に関わる情報の確認と考察	梶
7	課題探求（演習）(5) 思想や概念の理解(5)	パフォーマンスティヴィティ	文献紹介・意見交換（演習）	課題探求、思想や概念に関わる情報の確認と考察	梶
8	まとめ	思想・概念の理解	授業で取り上げられた課題、 思想や概念の理解確認	論文構造の確認、知識を整理 分類し、活用できる形にする	梶
日付					

教科書	資料はプリントで配布します
参考書	授業中に紹介します
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	看護6
先修条件指定 科目	非該当
先修条件指定 科目において あらかじめ修 得しておかな ければならな い科目	非該当
実務経験のあ る教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	梶 理和子：研究室25 rkazi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	欧文原著講読	科目英語表記	Reading English Papers			
職名、担当教員氏名	教授 梶 理和子					
科目責任者氏名	梶 理和子					
学内連絡教員氏名						
学科／分野	看護学科	学年	4年			
科目区分	専門	必修・選択の別	選択			
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位	
授業概要	この授業では、研究（何らかの課題に対する考察）をおこなう際に、その考察の手掛かりとなる現代社会のさまざまな概念や思想を学ぶことを目的としています。学生には各自、興味ある課題にかかわる文献を検索し、その内容や自分の考えを紹介したうえで、クラスで意見交換をおこなってもらいます。その過程で、TED Talks等を用いて「病気」や「ジェンダー」といった概念にまつわる政治的、経済的、文化的状況に対する理解を深めていきます。					
到達目標	1. 論文の構造を説明できる 2. さまざまな概念・思想にまつわる知識を説明できる 3. 自分なりの問題意識を持って論文を読解し、考察する 4. インターネット等を活用し、関連する情報等を収集、分類、整理できる 5. コミュニケーションを円滑に行う雰囲気作りを心がけ、演習に取り組める					
成績評価方法	1. 講義内演習（論文等の読解・考察、ディスカッション等）（40%）[到達目標 3, 5を評価] 2. Minute paper（論文の構造、概念・思想等の理解度確認含む）（30%）[到達目標 1, 2を評価] 3. 課題探求（興味のある課題にかかわる文献検索、問題に対する考察）（30%）[到達目標 3, 4を評価]					
成績評価基準	評価	A	B	C	D	F
	到達目標					
	1	基本構造、およびそれぞれ構成要素とその役割を説明できる	基本構造、およびそれぞれの構成要素を説明できる	基本構造を説明できる	基本構造を明確に説明できない	基本構造を理解できない
	2	さまざまな知識を自分の言葉で説明できる	さまざまな知識を明確に説明できる	ある程度の知識を説明できる	知識の理解が乏しく、明確に説明できない	知識（の内容）を理解できない
	3	明確な問題意識に基づき論文を理解し、自分の考察を述べられる	明確な問題意識に基づき、論文を読解することができる	ある程度の問題意識をもって、論文をある程度読解できる	感想めいたコメントにとどまり、論文を読解、考察できない	論文と関係のない感想であり、その根拠も説明できない
	4	適切なキーワードで情報検索し、適切な情報を収集、分類、整理できる	関連性の高いキーワードで情報検索し、ある程度、情報を収集、整理できる	抽象度の高いキーワードで情報検索し、ある程度の情報を収集できる	不適切なキーワード検索で、収集情報が不十分で、整理できない	必要な情報の検索・収集・整理等ができない
5	積極的にグループワーク等に貢献し、効果的に演習に取り組める	グループワーク等に参加し、しっかりと演習に取り組める	課題と関連の低い会話や作業によって、あまり演習に取り組めない	コミュニケーションが乏しく、演習に取り組めない	演習に参加しない	

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション(1)	授業概要確認	教材視聴	シラバス確認	梶
2	オリエンテーション(2)	授業概要確認	教材視聴	配布プリントの確認	梶
3	論文の読み方	論文形式、分析方法	TED Talks (1)	関連情報の収集	梶

4	病気と社会(1)	病気の誕生・多様化	TED Talks (2)	情報に基づく意見構築	梶
5	病気と社会(2)	病気の位置づけ	TED Talks (3)	演習に基づく考察	梶
6	課題探求①	文献検索	検索キーワードの見つけ方	関連情報の収集	梶
7	主体と生命(1)	生命の価値	TED Talks (4)	情報に基づく意見構築	梶
8	主体と生命(2)	病気との共生	TED Talks (5)	演習に基づく考察	梶
9	課題探求②	文献検索	検索キーワードの見つけ方	関連情報の収集	梶
10	セックスとジェンダー(1)	フェミニズムとの関連	TED Talks (6)	情報に基づく意見構築	梶
11	セックスとジェンダー(2)	パフォーマンス	TED Talks (7)	演習に基づく考察	梶
12	課題探求③	文献検索	検索キーワードの見つけ方	関連情報の収集	梶
13	課題探求④	文献読解(1)	文献理解のアウトプット	文献読解・考察	梶
14	課題探求⑤	文献読解(2)	文献の理解に関わるディスカッション	思想・概念の総復習	梶
15	まとめ	課題の発見と深化	問題（意識）の再考	卒業研究等への応用	梶
日付					

教科書	資料はプリントで配布します
参考書	授業中に紹介します
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護6
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	梶 理和子：研究室25 rkazi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	相互理解連携論	科目英語表記	Mutual Communication and Cooperation		
職名、担当教員氏名	助教 佐藤 志保 助教 鈴木 龍生				
科目責任者氏名	佐藤 志保				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	「相互理解」を中心に、個人、集団、地域等の「連携」の基礎や実際について、保健医療福祉分野以外も含めて広く学習する機会とする。近年の保健医療福祉の分野で推進される「多職種連携協働（チーム医療）」に適応できるような能力、技術、考え方について理解を深めることを目的とする。				
到達目標	1-1. 相互理解し連携することの意義と課題を説明することができる 1-2. 相互理解を深めるために何が必要か検討することができる 2-1. 効果的に情報共有とアサーティブ・コミュニケーションができる 2-2. 他者の意見を尊重しながら合意形成ができる 2-3. 効果的なファシリテーションができる 2-4. リーダーシップに関わる基礎理論を説明できる 2-5. チームワークに関わる基礎理論を説明できる 2-6. モチベーションに関わる基礎理論を説明できる 2-7. 効果的なコーチングができる				
成績評価方法	ミニレポート10% 到達目標 1-1～2 を評価する レポート30% 到達目標 2-4～6 を評価する ミニツツペーパー30% 到達目標 2-1～3・7 を評価する 演習や発表への参加態度30% 到達目標 2-1～3・7 を評価する				
成績評価基準	到達目標 1-1～2-7 特に優れている : 内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる 優れている : 内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる 良好である : 内容を理解し、論理的に正しく概ね説明できる 最低限の到達 : 一部不十分なところもあるが、ある程度説明できる 目標に達していない : 説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	相互理解し連携するために必要なスキル・1	・相互理解と連携の意義と課題 ・情報共有とアサーティブ・コミュニケーション（コロケーションゲームを通じた情報共有とアサーティブ・コミュニケーションのトレーニング）	講義・グループワーク	ミニレポート（800字以上）	佐藤志保 鈴木龍生
2	相互理解し連携するために必要なスキル・2-1	*合意形成 合意形成の事例、その難しさとそのプロセス、合意形成スキルのトレーニング	講義・グループワーク	事後学習：外部講師の講義からの学びや気づきを整理する。	スポット講師
3	相互理解し連携するために必要なスキル・2-2	*合意形成 合意形成の事例、その難しさとそのプロセス、合意形成スキルのトレーニング	講義、グループワーク	事後学習：外部講師の講義からの学びや気づきを整理する。	スポット講師
4	相互理解し連携するために必要なスキル・2-3	*合意形成 合意形成の事例、その難しさとそのプロセス、合意形成スキルのトレーニング	講義・グループワーク	事後学習：外部講師の講義からの学びや気づきを整理する。	スポット講師

5	相互理解し連携するために必要なスキル・3-1	・異分野コラボレーションとファシリテーション 異分野コラボレーションの事例、ファシリテーションの基本知識とスキルのトレーニング	講義・グループワーク	事後学習：外部講師の講義からの学びや気づきを整理する。	スポット講師
6	相互理解し連携するために必要なスキル・3-2	・異分野コラボレーションとファシリテーション 異分野コラボレーションの事例、ファシリテーションの基本知識とスキルのトレーニング	講義・グループワーク	事後学習：外部講師の講義からの学びや気づきを整理する。	スポット講師
7	相互理解し連携するために必要なスキル・4-1	・リーダーシップとチームワーク リーダーシップ理論、チームワーク理論、モチベーション理論、コーチングスキルのトレーニング	講義・グループワーク	事後学習：講義やグループワークからの学びや気づきを整理する。	佐藤志保 鈴木龍生
8	相互理解し連携するために必要なスキル・4-2	・リーダーシップとチームワーク リーダーシップ理論、チームワーク理論、モチベーション理論、コーチングスキルのトレーニング	講義・グループワーク	レポート(1200字以上)	佐藤志保 鈴木龍生

日付

6.4.23 (火) 3
6.5.7 (火) 2・3・4
6.5.21 (火) 3・4
6.6.4 (火) 3・4

教科書	特にありません。
参考書	参考図書は随時授業で紹介します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護6/看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤志保：第1共同研究室 ssato@yachts.ac.jp 鈴木龍生：第1共同研究室 rsuzuki@yachts.ac.jp
備考	保健師国家試験受験資格に必須の科目です。保健師選択の学生は必ず選択してください。 グループでの演習を主体とした授業になりますので、健康に留意し、遅れず休まずに参加しましょう。

授業科目	ジェネラリズム看護論	科目英語表記	General Nursing Basics		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 和子 准教授 丹野 克子 准教授 山田カオル				
科目責任者氏名	遠藤 和子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	通年	単位数	1単位
授業概要	地域の保健医療水準の向上に貢献できる地元ナースとしての活動の基盤形成につながるように、人々の多様な健康問題及び看護へのニーズの現状を概観し、地方の小規模病院・診療所、高齢者施設等の場において、求められる看護について探求する				
到達目標	①ジェネラリズム看護について、用語の意味を説明できる ②地方に暮らす人々の健康問題と生活をみる視点について説明できる ③看護に期待されるジェネラリストとしての役割について説明できる ④その地方の強みと弱みを把握し、多様な健康問題をとらえ、地元住民の力を引き出し、医療福祉と連携するにはどのような方法がとられているか説明できる ⑤地元住民が頼りにする看護師像について自らの考えを説明できる				
成績評価方法	方針：講義で提示される内容の理解と、自らの地元の情報収集、今後求められるジェネラリズム看護について自ら考えることを重視します。 方法：課題レポート30%、テーマに対するディスカッションでの発言20%、最終レポート50% 基準：到達目標の内容が盛り込まれているかで評価する。				
成績評価基準	各到達目標について 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ジェネラリズム看護論とは	この講義の特徴と進め方 ジェネラリズムとは ジェネラリズム看護論の概観	講義		遠藤和
2	地方に暮らす人々の健康問題と看護ニーズ	パネルディスカッション 「生活をみるとは」 看護学、社会学、理学療法 学、作業療法学、社会福祉学 などを基盤とする専門家による、職種間の視点の類似と相違	ディスカッション	地域包括ケアシステムについて調べておく	遠藤和 丹野 山田 スポット
3	地方に暮らす人々の健康問題と看護ニーズ	パネルディスカッション 「生活をみるとは」 看護学、社会学、理学療法 学、作業療法学、社会福祉学 などを基盤とする専門家による、職種間の視点の類似と相違	ディスカッション	地域包括ケアシステムについて調べておく	遠藤和 丹野 山田 スポット
4	地方に暮らす人々の健康問題と看護ニーズ	前回を受けて検討会 ・地方に暮らす人々の健康問題と生活をみる看護の視点 ・求められる看護の現状と課題	グループワーク・ディスカッション	「生活をみる」とはどのようなことか、自分の考えをまとめてくる	遠藤和
5	看護に期待されているジェネラリストとしての活躍の場とニーズ	ニーズへの対応 方法と協働	講義		遠藤和

6	看護に期待されているジェネラリストとしての活躍の場とニーズ	ディスカッション 「外来や地方の小規模病院や診療所で求められる看護活動の実際」 (専門性を持つナース、ジェネラリストナース、看護管理者など)	ディスカッション	地域の地理的条件、風土、暮らし方などの情報収集をして臨む	遠藤和山田 スポット
7	看護に期待されているジェネラリストとしての活躍の場とニーズ	ディスカッション 「外来や地方の小規模病院や診療所で求められる看護活動の実際」 (専門性を持つナース、ジェネラリストナース、看護管理者など)	ディスカッション	地域の地理的条件、風土、暮らし方などの情報収集をして臨む	遠藤和山田 スポット
8	ジェネラリズム看護の展望	地元住民が頼りにする看護師像とは	講義・グループワーク・討議	文献、WEBなどを活用し意見をまとめる	遠藤和

日付

6. 6.13 (木) 2
6. 6.20 (木) 1・2
6. 6.27 (木) 2

教科書	
参考書	参考図書は、適宜紹介します。そのほか、自分で検索したものも活用してください。
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護1／看護2／看護4／看護5／看護6／看護7
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤和： 研究室13 kaendo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	まちづくり看護論	科目英語表記	Home Community Design for Nursing		
職名、担当教員氏名	助教 佐藤 志保 助教 鈴木 龍生 教授 沼澤さとみ 教授 菅原 京子				
科目責任者氏名	佐藤 志保				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	看護学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	地域包括ケアシステムにおける地元創成（まちづくり）の重要性を理解し、まちづくりのために必要な能力、技術、考え方について理解を深めることを目的とする。				
到達目標	1-1. 地元創成（まちづくり）の重要性について説明することができる 2-1. 地元の課題を理解するために何が必要か検討することができる 2-2. 地元の課題を明確化し、説明することができる 2-3. 地元の課題解決に向けて、何が必要か検討することができる 2-4. 地元の課題解決に向けて、具体的な対策を検討することができる 3-1. 地元創成（まちづくり）に必要な看護の視点について説明することができる 3-2. 看護職が地元創成（まちづくり）で実践できることを具体的に検討することができる 3-3. 地元創成（まちづくり）における看護職の果たすべき役割について説明することができる				
成績評価方法	ミニレポート10%	到達目標	1-1		
	レポート30%	到達目標	1-1、2-2、3-1～3		
	ミニツッパーパー20%	到達目標	2-1～4		
	プレゼン内容（演習）20%	到達目標	2-1～4		
	グループ討議や発表への参加態度20%	到達目標	2-1～4		
成績評価基準	到達目標 1-1～3-3 特に優れている : 内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる 優れている : 内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる 良好である : 内容を理解し、論理的に正しく概ね説明できる 最低限の到達 : 一部不十分なところもあるが、ある程度説明できる 目標に達していない : 説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	地元創成（まちづくり）と看護学との関連	地元創成（まちづくり）と看護学について	講義	事後学習：まちづくりに必要な看護の視点とは何か考察する。	佐藤志保 鈴木龍生
2	地元創成（まちづくり）と看護学との関連	地元創成（まちづくり）とは	講義	ミニレポート（800字以上）	スポット講師
3	地元のまちづくりの取り組みの実際（DX推進）	行政での取り組み～DX推進に関連して～	講義	事後学習：外部講師の講義からの学びや気づきを整理する。	スポット講師
4	地元のまちづくりの取り組みの実際（DX推進）	第3回の講義内容を踏まえたディスカッション	グループワーク	事後学習：ディスカッションを通しての学びや気づきを整理する。	佐藤志保 鈴木龍生
5	まちづくりを考える（DX推進）	演習①：第3・4回の講義内容から地域の課題を抽出し、解決策を考える。	講義・個人ワーク	事後学習：講義と個人ワークからの学びや気づきを整理する。	佐藤志保 鈴木龍生 沼澤さとみ 菅原京子
6	地元のまちづくりの取り組みの実際（首長）	行政での取り組み～市町村の行政職の立場から～	講義	事後学習：外部講師の講義からの学びや気づきを整理する。	スポット講師
7	地元のまちづくりの取り組みの実際（首長）	第6回の講義内容を踏まえたディスカッション	グループワーク	事後学習：ディスカッションを通しての学びや気づきを整理する。	佐藤志保 鈴木龍生

8	まちづくりを考える (首長)	演習②：第6・7回の講義内容から地域の課題を抽出し、解決策を考える。	講義・個人ワーク	事後学習：講義と個人ワークからの学びや気づきを整理する。	佐藤志保 鈴木龍生 沼澤さとみ 菅原京子
9	地元のまちづくりの 取り組みの実際 (協力隊)	地域おこし協力隊の取り組み～県内での活動を知る～	講義	事後学習：外部講師の講義からの学びや気づきを整理する。	スポット講師
10	地元のまちづくりの 取り組みの実際 (協力隊)	第9回の講義内容を踏まえたディスカッション	グループワーク	事後学習：ディスカッションを通しての学びや気づきを整理する。	佐藤志保 鈴木龍生
11	まちづくりを考える (協力隊)	演習③：第9・10回の講義内容から地域の課題を抽出し、解決策を考える。	講義・個人ワーク	事後学習：講義と個人ワークからの学びや気づきを整理する。	佐藤志保 鈴木龍生 沼澤さとみ 菅原京子
12	地元のまちづくりの 取り組みの実際 (退職看護職)	リタイア世代からみた地域の暮らし～退職看護職から～	講義	事後学習：外部講師の講義からの学びや気づきを整理する。	スポット講師
13	地元のまちづくりの 取り組みの実際 (退職看護職)	第12回の講義内容を踏まえたディスカッション	グループワーク	事後学習：ディスカッションを通しての学びや気づきを整理する。	佐藤志保 鈴木龍生
14	まちづくりを考える (退職看護職)	演習④：第12・13回の講義内容から地域の課題を抽出し、解決策を考える。	講義・個人ワーク	事後学習：講義と個人ワークからの学びや気づきを整理する。	佐藤志保 鈴木龍生 沼澤さとみ 菅原京子
15	まとめ	・演習①～④の内容について、グループ間の意見の共有・地元創成(まちづくり)における看護職の役割とは	講義・グループワーク	レポート(1200字以上)	佐藤志保 鈴木龍生 沼澤さとみ 菅原京子

日付

6.4.9(火)3・4
6.5.14(火)1・2
6.5.21(火)2
6.6.11(火)1・2
6.6.18(火)2
6.6.25(火)1・2
6.6.26(火)5
6.7.2(火)1・2
6.7.9(火)2
6.7.16(火)2

教科書	特にありません。
参考書	参考図書は講義の中で随時紹介します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	看護5/看護6
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤 志保：第1共同研究室 ssato@yachts.ac.jp 鈴木 龍生：第1共同研究室 rsuzuki@yachts.ac.jp

	沼澤さとみ：第11研究室 snumazawa@yachts.ac.jp 菅原 京子：第7研究室 ksugawara@yachts.ac.jp
備考	保健師国家試験受験資格に必須の科目です。保健師選択の学生は必ず選択してください。